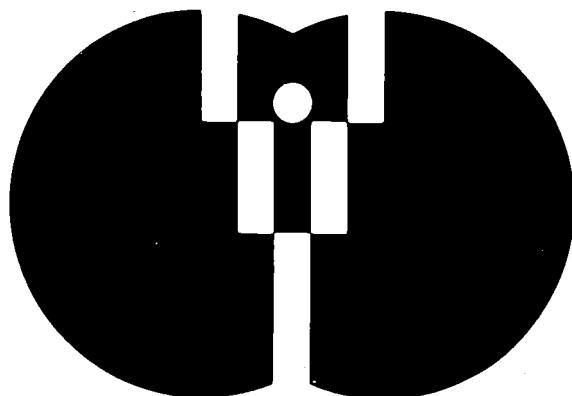


こどもの城

事業年報

平成元年度

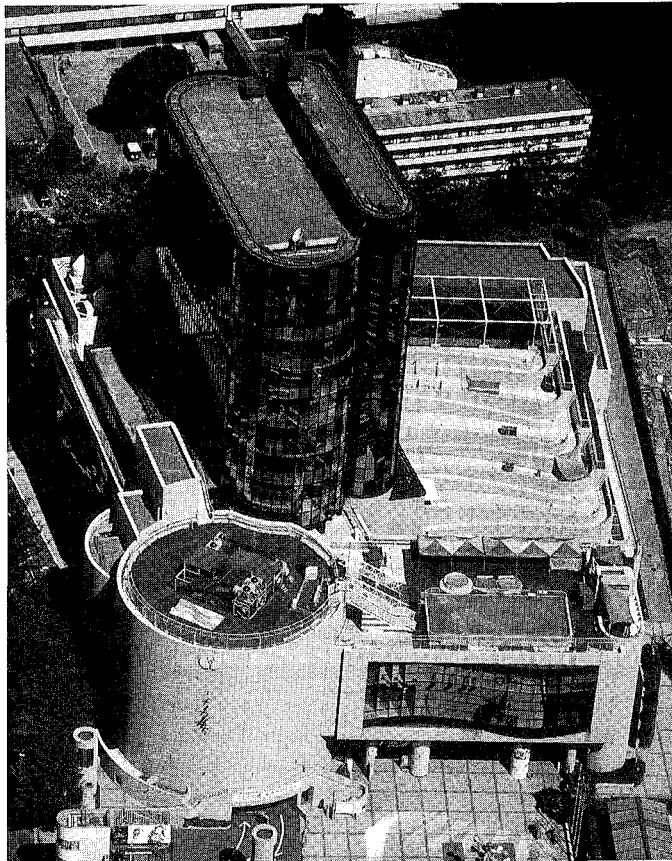


財団法人 日本児童手当協会

こどもの城

事業年報

平成元年度



財団法人 日本児童手当協会

子どもの城事業年報 元年度

目 次

I 事業の概要

1 事業と運営	1
(1) 基本構想	1
(2) 運営の基本的な考え方	1
(3) (財)日本児童手当協会組織機構図	4
(4) 平成元年度の活動の概要	5
1) 入館者数	5
2) 一般来館者のための活動	5
3) グループ活動	6
4) 講座・クラブ活動	6
5) 劇場事業	6
6) 各種の普及・協力活動	6
(5) 活動時間・入館料	7
(こども活動エリア)	
1) 平常期間	7
2) 学校の季節休み	7
3) その他	7
4) 入館料	8

II 活動状況一覧

1 入館者数	9
2 団体入館実績	10
3 事業・催し	12
4 グループ活動	22
5 講座・クラブ活動	24
6 視察・見学実績	27
7 事業経理収支計算書	28

III 各部の活動(1)

1 体育事業部	29
2 プレイ事業部	40
3 造形事業部	57
4 音楽事業部	68
5 A V事業部	82
6 保育研究開発部	97
7 小児保健部	107
8 企画部	119
9 劇場事業本部	125

IV 各部の活動(2)

1 広報部	137
2 研修教養部	142
3 国際交流部	160
4 営業部	163

V その他の活動

1 子どもの城全国連絡協議会	169
2 チャリティー事業	172
3 子どもの城友の会	173
• 主要年表	8
• 内部施設の概要	2
• 建築概要	3
• (財)日本児童手当協会役員	3

I 事業の概要

I 事業の概要

1 事業と運営

「子どもの城」は、厚生省が1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して計画、建設したものである。国が東京都から譲り受けた、渋谷区神宮前5-53-1の約1万平方メートルの敷地に、昭和56年11月、着工された。以来、4年の歳月と323億円（土地取得費を含む）の国費をかけ、地上13階、地下4階の、ミラーガラスに包まれた美しい建物が完成、60年11月1日に開館した。厚生省の委託を受けて、財団法人日本児童手当協会がその運営に当たっている。この経営委託契約の締結は同年9月14日に行われた。

「子どもの城」は、新生児から高校生までの全児童を対象にした、幅広い福祉と文化活動を行うとともに、当然、ハンディキャップを持つ児童も一緒に活動する施設である。親たちをはじめ、児童の福祉・文化の関係者、研究者、教育者などのためにも開かれている。次代を担う子どもたちを心身ともに健やかに育成し、その資質の向上を図ることを目的に、常に先駆的で実験的なプログラムを企画、実践し、全国に普及させていくこと、そして、国際的視野に立ち、世界各国の子どもたちと、福祉・文化活動を通じて交流を図ることを運営の基本としている。

(1) 基本構想

「子どもの城」の創設に当たって、昭和54年、厚生省により、「子どもの城企画委員会」（葛西嘉資座長）が設けられ、委嘱を受けた有識者メンバーによって基本構想の検討が重ねられた。委員会は同年6月、この結果を「基本構想に関する意見」として取りまとめ、児童家庭局長に提出した。

意見書は「近年、わが国の社会の都市化、工業化に伴い、児童の健康や安全が損なわれており、また、核家族化、家庭規模の縮小に伴う児童の人間関係の変化によって、さまざまな問題が生じている。一方で、高年齢化が急速に進んでおり、この中で、豊かな活力ある社会を維持していくために、未来を担う児童の健全育成の必要性が高まっている。このときにあたり、わが国の児童をとりまく諸問題に適切に対処し、明るい21世紀を展望する総合施設を建設することは、時宜に適したものである。（要約）」と述べ、「子どもの城」の性格、機能、運営に関して積極的な提言がなされ、基本方針が打ち出された。

以来、厚生省と財団法人日本児童手当協会は、この「基本構想に関する意見」を踏まえ、協力しながら、「子どもの城」の建設に当たり、運営に取り組んできた。

(2) 運営の基本的な考え方

(1) 出生率の低下傾向による人口構造の急速な老齢化、青少年の非行問題、体位に追い

I 事業の概要

つかない子どもの体力、その心をむしばむ要因の増加など、我が国の児童を取り巻く環境は、活力のある未来社会を期待するうえで、憂慮すべき現状にある。こうした、重要な課題に対応していくためには、単に国や自治体の行政に頼るだけではなく、家庭、学校、地域社会が相互に協力しつつ児童の健全育成に取り組んでいかねばならない。

「こどもの城」はこのような多くの問題を克服し、明るい21世紀の日本を築いていくための児童福祉、文化の拠点でありたいと願っている。

(2) 「こどもの城」は、全国の児童を対象とした施設であり、東京及びその周辺の児童だけの施設ではない。すなわち、「こどもの城」における事業について広く全国各地に情報を伝え、更には各地の児童センターなどでの児童福祉、文化活動を全国に紹介するといった全国的な広がりを持つ「こどもの城」として運営している。

(3) 「こどもの城」は、いわゆる幼児のみを対象とするのではなく、幅広く新生児から高校生までの全児童を対象とした福祉・文化活動に関する施設であるとともに、ハンディキャップを持つ児童も当然参加し、ともに活動する施設である。

更に、「こどもの城」は、親をはじめ、児童の福祉・文化の関係者、研究者、教育者など、子どもの幸せを願うすべての人が利用できるよう開かれている。

(4) 「こどもの城」は、既製のプログラムだけではなく、先駆的、実験的なプログラムを企画し、実践する。また、国内だけでなく、国際的な視野に立って世界各国の児童福祉・文化活動との交流を図る。

(5) 以上のように「こどもの城」は、①芸術、文化、科学、スポーツなどの活動による児童の健全育成、②児童福祉関係者の研修、現任訓練、③児童福祉に関する研究、開発、④国際交流、といった各種の機能を併せ持つ総合施設である。これらの機能を相互に関連させながら、総合的な運営を図ることが、肝要であると考えている。

— 内部施設の概要 —	
こども活動エリア	○アトリウム（こども活動エリア入り口）・ギャラリー [1・1～2階] ○プール・体育室・健康開発室 [地下2階] ○プレイホール・コンピュータプレイルーム （パソコンルーム） [3階] ○造形スタジオ [10階] ○音楽スタジオA、B・音楽ロビー・シンセサイザー室 [3階] ○AVライブラリー [4階] ○屋上・ともだち広場・ふしきが丘・プレイポート [4階] ○屋上・ともだち広場・ふしきが丘・プレイポート [3～5階] ○小児保健・診療・相談室 [5階] ○保育研究開発・保育室I、II [5階]
保健育児	○青山劇場 [1・2階] ○青山円形劇場 [3階]
劇場	○駐車場 [地下2・3・4階] ○フリーホール（休憩室・催し場） [地下1階]
サービスエリア	○カフェテラス「アンファン・ひさご寿司」 [1階] ○コーヒーラウンジ「アミティーエ」 [2階] ○売店 [1・3階] ○ホテル [6・7階] ○レストラン「ラブニール」 [8階] ○研修室 [8・9階]

1 事実と運営

こどもの城の建築概要

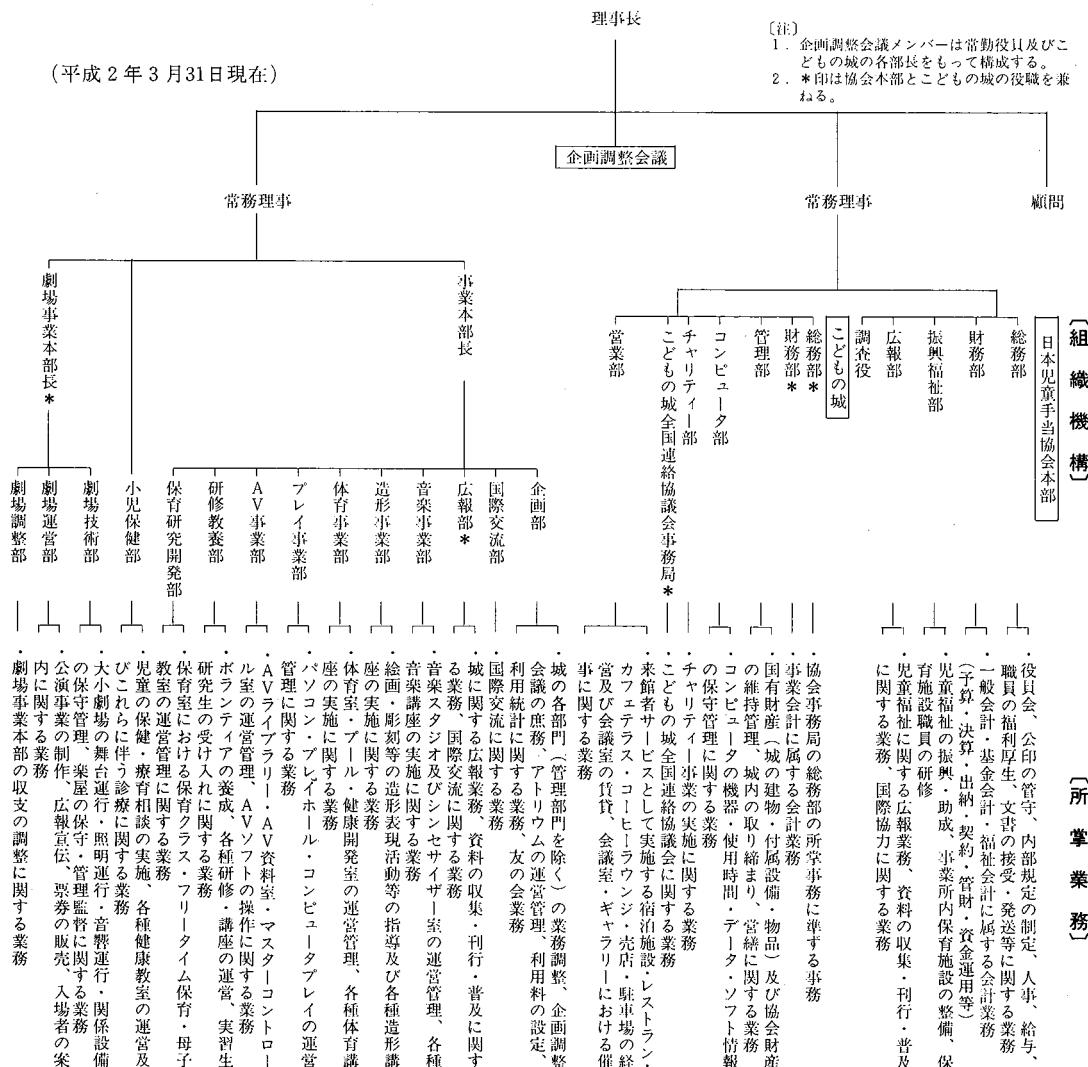
所在地………東京都渋谷区神宮前5丁目53番地1号
 地域・地区………住居地域・商業地域（特定街区指定）・
 防災地域・準防火地域・一部第2種文教
 地域
 建築主………厚生省
 敷地面積………9,923.39m²
 建築面積………6,001.5m²
 延床面積………41,665.3m²
 建ぺい率………60.48%
 容積率………346.04%
 階数………地下4階・地上13階・塔屋1階
 最高高さ………GL+57.6m
 基礎下端………GL-28.5m
 主要構造………高層部 鉄骨造
 低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造
 地下 鉄筋コンクリート造
 設計・管理………株式会社 山下設計
 着工………昭和56年11月
 完成………昭和60年9月

(財) 日本児童手当協会役員（平成2年3月31日現在）

役職	氏名	
会長	翁 久次郎	
理事長	島 弘 仲	
常務理事	代 實 實	
常務理事	田 出 穂	資生堂副社長
理事	大 野 清 治	日本商工会議所専務理事
理事	石 野 博	経済団体連合会相談役
理事	井 川 仁八郎	日本携帯電話株式会社社長
理事	花 村 八郎	経済同友会副代表幹事
理事	松 崎 芳 伸	(社福)日本肢体不自由児協会理事長
理事	河 崎 三 良	東京都社会福祉振興財団理事長
理事	竹 内 嘉 己	早稲田大学政治経済学部教授
理事	金 平 寶 一郎	日本総合愛育研究所所長
理事	平 山 宏	(財)厚生団常務理事
監事	山 宗 和	(社福)日本保育協会常務理事
監事	内 稔 敏	
監事	本 雄	

I 事業の概要

(3) (財) 日本児童手当協会組織機構図



職員数 部				職員数 部				職員数 部			
	一般	嘱託	計		一般	嘱託	計		一般	嘱託	計
総務	7		7	當業	14	1	15	研修教養	2		2
調査(役)	3		3	企画	11		11	保育研究開発	10		10
振興福祉	2		2	国際交流	0		0	小児保健	9		9
広報	3	1	4	音楽事業	6	1	7	劇場技術	7		7
財務	6		6	造形事業	5		5	劇場運営	9		9
管理	3		3	体育事業	7	1	8	劇場調整	2		2
コンピュータ	5		5	A V事業	7		7	合計	126	4	130

(4) 平成元年度の活動の概要

「子どもの城」は平成元年度に満4年を経過した。元年度も開館以来の実績を踏まえ、その見直しも行いながら事業内容のいっそうの充実、向上に努めた。発足後4年にして事業関係各部門の運営の基礎はほぼ固まり、各部が協力して行う連携活動、全館事業などの多くは軌道に乗って、元年度も入館者数の増加傾向を維持し得た。

まだ解決しなければならない幾多の課題を抱えながらも、この4年間の草創期を経て、次の発展段階を目指す基本的な態勢が固まった年度であった。

1) 入館者数（9ページの表参照）

無料の6歳未満児を含めた年間の総入館者数は1,133,690人。前年度より約32,700人(3%)の増加となった。内訳は、こども活動エリアへの一般来館46,014人、劇場入場者(青山・青山円形両劇場)436,423人、保育、小児健康、講座・クラブ、研修室利用など、他の入館が235,253人。

一般のうち有料入館のおとな、子ども、団体は計286,350人で、前年度より5,326人増えた。個人のおとな、子どもが減った半面、団体入館が大幅に増加してこの数字となった。

2) 一般来館者のための活動（12～21ページにプログラム一覧表）

(1) 平常期間

「こども活動エリア」と総称している体育、プレイ、造形、音楽、AV(オーディオ・ビジュアル)の各部とも一般来館の児童・家族が楽しく参加し、体験できるプログラムの開発、提供に努めた。日曜、祝日には多くの来館者に対応できるようにプログラムの内容や数を工夫し、来館者が比較的少ない平日においては、触れ合いを深めるキメ細かいプログラムの実施に心がけた。また季節行事などは各部がプログラムを関連させ、館内の活動に楽しい流れをつくり出した。

来館者の増加、ソフトの充実に伴ってコンピュータ・プレイ、AVライブラリーの利用者数も年々増加傾向にある。

屋外の遊び場としての屋上遊園、ふしげが丘の利用が活発になったのも元年度の特色。ふしげが丘の平らなスペースに常時、乗り物などの遊具を置くようにした効果が出始めた。昭和63年夏に設置した屋上まんまる広場のボールのプール「プレイポート」の人気は依然として根強かった。

保育研究開発部は、元年度から他のこども活動部門が休む月曜日にも開くようにした。これによって事業の3つの柱である幼児グループ、保育クラブおよび母子教室のうち、特に需要の多い保育クラブの受け入れ枠の拡充が可能になり、利用者の増加のほか、新しいプログラムの開発にもつながった。

小児保健部は、その特徴が周知されるにしたがって診療・相談件数は徐々に伸びてきたが、元年度はその伸び率が16%と顕著だった。また他部との連携事業である肥満児の健康教

I 事業の概要

室、ダウン症児のリズム教室、マタニティスイミングなどの活動を継続して実施した。

(2)特別期間

学校の季節休み（春休み、夏休み、冬休み）の期間および児童福祉週間を特別期間とし、各部協力による大型の催しを含む各種の行事を集中的に実施した。また特別期間には、劇場入場券でこども活動エリアも利用できるようにして双方の入場者の増加を図った。

「子どもの城」とNHK展示プラザ、東京電力の電力館、たばこと塩の博物館を結ぶ「渋谷スタンプラリー」も前年度に続き特別期間を中心に実施した。

これらが総合的に効果をあげ、元年度特別期間の入館者数は、どのシーズンも前年度を上回った。

3) グループ活動（22ページ参照）

一般来館のない平日の午前中に、保育所、幼稚園、小学校などを単位とした児童およびハンディキャップを持つ児童を10人以上のグループで受け入れ、「子どもの城」の特色を生かしたプログラムによって新しい形の園外、校外活動をしてもらうのがグループ活動である。

元年度は104グループ、2,345人を迎えた。前年度より21グループ、211人の増加である。

4) 講座・クラブ活動（24ページ参照）

講座は44種・100コースを開設した。この受講者総数は計2,427人で、定員に対する年間平均の充足率は94%。前年度より受講者総数は124人増え、年間充足率も5%上回った。

このほか夏休み、春休みの特別期間に体育、音楽などの部門で短期集中講座を実施し、15コースに計479人の参加があった。

元年度に活動したクラブは11種で、年度末のメンバー数は1,261人、前年度より150人増えた。

5) 劇場事業（125ページに公演名一覧）

青山劇場で自主公演として3公演、青山円形劇場で自主・提携公演として37公演を開催した。

劇場の貸与は青山劇場が19件、青山円形劇場が49件で、両劇場とも年間フルに使用された。

青山劇場の自主公演では、初めて文化庁と共同主催したオペラ・バレエ「妖精の女王」（元年9月）が成功を収めた。文化庁との今後の協力事業に一つの展望が開けた意義は大きい。

青山劇場での自主公演が例年より少なくなった分だけ、円形劇場での自主・提携公演が増えたのが元年度の特徴の一つ。劇場運営部が独自に制作した若い層向けの企画やファミリー向けの企画のほとんどが観客動員にも成功し、円形劇場は貸館公演も含めて活気ある運営ができた。

6) 各種の普及・協力活動

「子どもの城」開館以来の活動記録や資料は、この4年間でしだいに蓄積されてきた。これらの資料や活動の手引きを少しでも他の児童関係の団体や関係者に役立ててもらい、相互の交歓、交流を図る活動として、元年度は次のような事業を実施した。

1 事実と運営

▽児童厚生員等実技指導講習会（5月、11月）▽肥満児指導者講習会（9月、3月）▽兵庫県立こどもの館（姫路）でのブルーノ・ムナーリ展開催（7月）▽保育セミナー（8月）▽こべっこランド（神戸）などの合唱コンサート交歓（8月）▽小児保健セミナー「子どもの食を考える」（11月）



以上のはか、本年報は「こどもの城」の運営ならびに趣旨の普及・推進にとって重要な活動である下記の項目について報告している。

- ①広報 ②国際交流 ③こどもの城友の会 ④こどもの城全国連絡協議会 ⑤ボランティアの養成、実習生・研修生の受け入れ ⑥チャリティー事業 ⑦利用者サービス事業。

(5) 活動時間・入館料（こども活動エリア）

基本的には前年度と変わりはない。（開館日数316日）

1) 平常期間

平 日 開館（午後1時～午後5時30分）

土曜日

日曜日 開館（午前10時～午後5時30分）

祝 日

月曜日 休館（祝日または振り替え休日に当たるときは開館=午前10時～午後5時30分
=翌日の火曜日が休館）。

（注）1 夏時間 4月下旬～9月中旬<元年度の場合、4.29（土）祝～9.15（金）祝>

閉館時間を30分繰り下げ（午後5時30分→午後6時）。開館時間は変わらず。

2 入館券の発売 閉館時間の30分前まで（通常は午後5時まで、夏時間中は午後5時30分まで）。

2) 学校の季節休み

曜日にかかわりなく土・日曜日・祝日なみの午前10時～午後5時30分（夏は午前10時～午後6時）。

年末年始は休館

12.29（金）～1.2（火）休館。1.3（水）は正午開館。

休館日の特例

夏休みの休館日は隔週月曜日（7.24、8.8、8.21）。

春休み・冬休みの月曜日は開館。

3) その他

5月1日（月）ゴールデンウイーク中のため開館。

東京都および近隣県・市の記念日は、平日でも午前10時開館

横浜開港記念日・6月2日（金）、千葉県民の日・6月15日（木）、埼玉県民の日・11月

14日（火）

（注）元年度の場合、川崎市制記念日・7月1日（土）および都民の日・10月1日（日）は、土曜日と日曜日に当たるので、午前10時開館。

アトリウムにおける講座、クラブ、友の会の申し込み受け付け＝平日・土・日曜日・祝日とも午前10時～午後5時（夏時間中は午後5時30分まで。休館日を除く）。

4) 入館料

- (1) 文化体育事業部門（こども活動エリア）を利用する一般来館者を対象とした入館料
 一般 18歳未満310円（保護者に同伴される6歳未満児は無料）、18歳以上 410円。
 団体 20人以上の団体は割引き。18歳未満250円、18歳以上330円
 （注）いずれも消費税込み。

なお、講座の受講者およびクラブの会員について設けられている入館の特例（受講証またはクラブ員証を提示することにより入館できる）は、従来どおり。

- (2) 団体見学料（一般団体・子どもの城の要員により案内）1人当たり210円（消費税込み）。
- (3) 元年5月5日（子どもの日）および同年11月1日（子どもの城開館記念日）は18歳未満児の入館料は無料。

（注）入館料は、消費税制施行のため、元年4月1日から前記の額に改定。

主　要　年　表

3.19～	5. 7	第4回渋谷春のスタンプラリー	11. 1	開館3周年記念 (18歳未満入館無料)
3.26～	4. 7	春休み特別期間	11. 3	オーストラリア文化庁係官視察
4. 5		ニューメキシコ州サンタフェ ・チルドレンズミュージアム 館員視察	11.26	「不思議の館」を改装し、「め いろくん」と命名
4. 7		フィンランド・ヘルシンキ市文 化課員視察	11.29	第23回ねむの木賞・高木賞の 贈呈式に常陸宮・同妃両殿下 ご来館
4.15		ロイター通信社取材	12. 3	フランス・フィガロ紙取材
4.29～	5. 7	児童福祉週間特別期間（子ど もの日は18歳未満入館無料）	12. 5	第8回肢体不自由児・者の美 術展に常陸宮殿下ご来館
5.26		サンジェゴ・チルドレンズミュ ージアム館員視察	12.23～2. 1. 7	冬休み特別期間
6.30		竹内嘉巳会長退任し理事に就任	2. 1.24	ハンガリー大使夫人視察
7. 1		翁久次郎理事が会長に就任	2. 2	韓国政府職員視察
7. 1		エジプト大使館員視察	3. 1	子どもの城全国連絡協議会 平成2年総会
7. 9		入館者400万人を突破	3. 6	中国青年代表団視察
7.19		ブラジルテレビ取材	3.24～	春休み特別期間
7.21～	8.31	夏休み特別期間	4. 5	
7.21～	8.31	第5回渋谷夏のスタンプラリー 香港「児童日報」取材	3.24～	第6回渋谷春のスタンプラリ ー
7.30		三笠宮寛仁・信子妃殿下ご来館 (青山劇場)	5. 6	

II 活動状況一覧

1	入館者数	9
2	団体入館実績	10
3	事業・催し	12
4	グループ活動	22
5	講座・クラブ等	24
6	視察・見学実績	27
7	事業経理収支計算書	28

1 入館者数

II 活動状況一覧

1 入館者数

	一般来館者		劇場			その他	計	
	有料	総数	青山劇場	青山円形劇場	小計			
4月	大人 こども 団体	12,666人 9,822 2,044	(人) 27,209 推計 (39,875)	(人) 27,061	(人) 8,811	(人) 35,872	(人) 19,327	(人) 82,408 推計 (95,074)
	小計	24,532						
5月	大人 こども 団体	15,402 7,997 2,240	32,149 推計 (45,431)	30,273	7,512	37,785	21,390	91,324 推計 (104,606)
	小計	25,639						
6月	大人 こども 団体	9,522 5,645 1,047	17,486 推計 (27,008)	31,332	6,714	38,046	24,590	80,122 推計 (89,644)
	小計	16,214						
7月	大人 こども 団体	12,810 9,355 3,121	27,132 推計 (39,942)	42,483	7,140	49,623	20,861	97,616 推計 (110,426)
	小計	25,286						
8月	大人 こども 団体	26,443 21,901 15,815	68,229 推計 (94,672)	42,869	7,522	50,391	15,434	134,054 推計 (160,497)
	小計	64,159						
9月	大人 こども 団体	10,669 5,758 423	18,239 推計 (28,908)	28,795	5,949	34,744	20,349	73,332 推計 (84,001)
	小計	16,850						
10月	大人 こども 団体	7,887 4,351 786	13,994 推計 (21,881)	21,233	8,816	30,049	21,639	65,682 推計 (73,569)
	小計	13,024						
11月	大人 こども 団体	10,077 6,219 1,730	20,124 推計 (29,913)	29,294	6,936	36,230	20,568	76,922 推計 (86,711)
	小計	18,026						
12月	大人 こども 団体	6,589 4,404 1,668	13,580 推計 (20,169)	23,282	6,530	29,812	15,867	59,259 推計 (65,848)
	小計	12,661						
1月	大人 こども 団体	12,392 7,162 900	22,242 推計 (34,634)	25,632	10,083	35,715	16,061	74,018 推計 (86,410)
	小計	20,454						
2月	大人 こども 団体	10,553 5,099 1,020	18,116 推計 (28,669)	20,784	8,015	28,799	18,432	65,347 推計 (75,900)
	小計	16,672						
3月	大人 こども 団体	14,861 11,357 6,615	36,051 推計 (50,912)	20,089	9,268	29,357	20,735	86,143 推計 (101,004)
	小計	32,833						
計	大人 こども 団体	149,871 99,070 37,409	314,551 推計 (462,014)	343,127	93,296	436,423	235,253	986,227 推計 (1,133,690)
	小計	286,350						

II 活動状況一覧

2 団体入館実績

区分	件数	月別内訳												地域別内訳	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	東京都	その他
こども会	70	7	2	4	12	15	2	3	6	1	1	4	13	21	49
ガールスカウト ボーイスカウト	14	1	1	4	1	0	1	2	2	0	0	0	2	9	5
幼稚園・保育園	25	1	1	1	3	1	0	0	2	0	1	5	10	23	2
幼稚園・保育園に 関係するグループ	11	2	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	6	9	2
学校	35	6	3	4	2	2	3	4	4	5	0	0	2	21	14
学校に 関係するグループ	31	4	1	1	6	4	0	2	5	2	1	1	4	23	8
学童グループ	41	0	2	2	3	6	1	1	0	5	2	0	19	29	12
旅行会社による団体	23	1	1	0	14	3	0	0	0	0	1	1	2	2	21
家族グループ	23	1	1	2	6	1	1	1	1	2	2	4	17	6	
その他	37	0	2	6	7	6	3	1	3	1	1	2	5	20	17
合計	310	23	15	24	55	38	11	15	23	15	9	15	67	174	136

(注) この表は団体割引による入館の件数及び人数の実績。劇場入場券との共用による団体入館を除く。

2 団体入館実績

人 数 别 内 訳								人 数		備 考
20 人	30 人	40 人	50 人	60 人	80 人	100 人	150 人以上	延べ数	1 件 当たり	
26	12	13	5	4	6	4	0	3,182	45.5	
9	2	2	1	0	0	0	0	414	29.6	
10	5	2	1	1	2	3	1	1,356	54.2	
2	4	1	1	3	0	0	0	483	43.9	PTA等
14	10	4	1	6	0	0	0	1,314	37.5	
16	10	3	1	0	0	1	0	1,032	33.3	PTA等
18	15	2	3	2	0	1	0	1,442	35.2	学童保育クラブ 児童館等
7	3	8	4	0	0	0	1	1,039	45.2	
17	4	1	1	0	0	0	0	602	26.2	
19	9	1	2	0	3	2	1	1,597	43.2	社会福祉協議会 青少年育成会等
138	74	37	20	16	11	11	3	12,461	40.2	

II 活動状況一覧

3 事業・催し

	体 育	プレイ	造 形	音 楽
平 常 期 間	バスケットボール 毎月第1日曜日と前日の土曜日（特別期間を除く）	おはなし紙芝居の集い 毎週 火曜日	光とあそぼう ステップ1 4.11~5.7	音はともだち いろんな楽器にさわって みよう 4月～3月
	ニュースポーツゲーム 毎月第2日曜日と前日の土曜日（特別期間を除く）	チャレンジゲーム大会 毎週 水曜日	光とあそぼう ステップ2 5.9~6.18	アフリカンタムタムであ そぼう 元気ができるリズム！ 9月～3月 日曜日・祝日
	卓球 毎月第3日曜日と前日の土曜日（特別期間を除く）	おはなし人形広場 I 毎週 木曜日	光とあそぼう ステップ3 6.20~7.2	ほっとひといきコンサート 9月～3月 毎週土・日曜日
	ミニサッカー 毎月第4日曜日と前日の土曜日（特別期間を除く）	みんなであそぼう ゲーム大会 毎週 金曜日	光とあそぼう ステップ4 7.4~20	童謡の日プログラム 「うたのお姉さんがやっ てくる」 7.2
	ユニホック 毎月第5日曜日と前日の土曜日（特別期間を除く）	おはなし人形広場 II 毎週 土曜日	やってみよう・つくって みよう ステップ2 9.1~10.1	みんなでひなまつり 3.3・4
	体育の日 ギャラリー展示 9.26~10.11	マックロー人形劇場 月1回 第3土曜日	やってみよう・つくって みよう ステップ2 10.3~11.5	スライド劇場 「14匹の朝ごはん」 4.16・5.21
	エルゴバイクに挑戦 10.10	サタデープレイタイム 毎週 土曜日	やってみよう・つくって みよう ステップ3 11.7~12.3	リズムは友達 Part10 4.23
	母と子のふれあい広場 11.23	(母の日) おかあさんへ手作りプレゼント 5.13・14	やってみよう・つくって みよう ステップ4 12.5~12.22	「ギターは小さなオーケストラ」 5.28
	水泳大会 3.11	(横浜開港記念日) スペシャルゲーム大会 6.2	木であそぼう ステップ1 1.9~2.9	「インドの国からこんにちは」 6.18
	新体操発表会 3.18	(父の日) ここはとうさんラリー 6.17・18	木であそぼう ステップ2 2.10~3.4	「おもしろ楽器せいぞろい」 9.3
	講座父母参観 ①6.13~17 ②11.14~18 ③2.20~24	(こどもの城杯) 第2回パンパード大会 6.17・24	木であそぼう ステップ3 3.6~3.16	アンクルンで聴く 南国の歌 9.10

3 事業・催し

A V	研修教養	小児保健・保育	企画・広報・国際交流
名作アニメ特集 6.1~6.30	児童厚生員等実技指導講習会 5月・11月 2回	診療・相談事業 総合健康相談・心理・育児生活・言語・発達相談 通年	こどもデパート (全館) 6.11
スポーツソフト特集 10.1~31	第15期ボランティア講習会 6.10~7.6 合宿 6.23~25	精神・神経・アレルギー・ 喘息・聴覚言語・ダウント 相談	入館者400万人目記念品贈呈 7.9
バンダイビデオ試写会 毎週 日曜日・祝日	第16期ボランティア講習会 11.11~12.12 合宿 12.1~3	月1回	切り絵展示会 10月・12月各10日間
しねまでいく カナダのアニメーション 年11回	第17期ボランティア講習会 2.3~3.6 合宿 3.23~25	保育室の一般開放 毎週土・日曜日、祝日及び 特別期間	ハロウィーンプログラム 10.29
しねまでいく 科学と映像の世界 1.14・15	第5期婦人ボランティア講習会 10.17~27 4回	青空プレイ大会 10.10	外国人コミュニティ対象の オリエンテーション 11.2~11.11
おもしろビデオ館「世界 のお話大集合」 4.12~7.14 毎週 金曜日 全12回	ボランティアグレードアップ講習会 救急法講習会 5月	保育フェスティバル 12.18	エンジェル・クリスマス 12.16・17
おもしろビデオ館「おた のしみまんが映画」 9.1~10.27 毎週 金曜日 全8回	ボランティアグレードアップ講習会 障害者への理解ふれあいセミナー 10.11~11.26	砧公園親子遠足 5.29	
おもしろビデオ館「親子 で楽しむおはなしアニメ」 11.10~12.15 毎週 金曜日 全6回	ボランティアグレードアップ講習会 合宿 2.24・25	保育活動展 3.1~7	
おもしろビデオ館「日本 のおはなし大集合」 2.2~3.16 毎週 金曜日 全7回	あそびガヤガヤ研究所 毎月1回	保育相談カンファレンス 7.8・9.9・12.9・3.9	
おもしろビデオ館スペ シャル 5.14・9.15・17	あそびガヤガヤ研究所 春合宿 4.15・16	開館4周年記念 「変わる育児事情」 11.25	
ビデオであそぼう 6.25・12.3・3.18		第5回こどもの城 マタニティコンサート 6.17・18	

II 活動状況一覧

	体 育	プレイ	造 形	音 楽
平 常 期 間		(七夕まつり) ねがいごとかなえ 7.4~9	第2回「遊びと造形発想 展」 5.16~5.31	(都民の日) 絵かき歌であそぼう 10.1
		(敬老の日) 昔あそびの名人におしえ てもらおう 9.15~17	インディアンドン・クリ スマスツリーをつくろう 12.20~25	アンデスのfolklore レコンサート 10.29
		(体育の日) なんでもチャンピオンシ ップ 10.8・10	(節分) きみも鬼になっ てみないか! 「はっぱを うつそう鬼のつの」 1.30~2.4	これは楽しい太鼓のリズ ム 11.12・1.28
		(埼玉県民の日) スペシャルゲーム大会 11.14	(ひなまつり) みんなでつくろう「ひな まつり」 2.27~3.3	(勤労感謝の日) パークアソシエーションコンサー ト 11.23
		(勤労感謝の日) ファミリーゲーム大会 11.23		中国の笛 11.26
		第3回パンペー大会 11.18・25		ユースバンドクリスマスコンサート 12.17
		(節分会) 桃太郎の鬼退治大まめま き会 2.3・4		ハートフルクリスマスコンサート 12.23~24
		(ひなまつり) みんなでひなまつり 3.3・4		おはなし劇場 1.21
				「おもしろ楽器せいぞろ い」 2.18・25・3.21
児 童 福 祉 週 間				サンバでカーニバルオ ペ! 3.4
	プール一般利用 (元気に水しぶき) 4.29~5.7	みんなでつくろうデカデ カ鲤 4.29~5.7	光とあそぼう ステップ1 4.11~5.7	キャッスルクエスト'89 (全館行事) 4.29~5.7
	体力測定一般利用 成長度と体力をはかるう 4.29~5.7	こどもの日人形劇フェア 5.3~7	こいのぼりをつくろう 4.29~5.7	

3 事業・催し

A V	研修教養	小児保健・保育	企画・広報・国際交流
アニメおもちゃであそぼう 10.15		第6回こどもの城 マタニティコンサート 11.11・12	
ぱたぱたアニメをつくろう 4.8~3.17 毎週 土曜日 (祝日を除く)		マタニティスイミング 同窓会(第4回) 6.15	
マックTVこどもの城情報局+わいわいスタジオ 毎週 日曜日・祭日		幼児グループキャンプ 9.3・4	
		太りすぎの子ども指導者講習会(体育と協力) 9.8・3.24	
キャッスルクエスト (全館行事) 4.29~5.7	キャッスルクエスト'89 (全館行事) 4.29~5.7	子育て相談コーナー 4.29~5.3	ART PALS 展覧会 4.22~5.7
童話・お伽噺特集 4.29~5.5			ART SCAPE 展覧会 4.22~5.7

II 活動状況一覧

	体 育	プレイ	造 形	音 楽
児童福祉週間		パソコンルーム ロゴで遊ぼう		
		マックロー人形劇 5.3~5.5		
		マックロー誕生日パー ティ (こいのぼりを上げよ う) 5.5		
夏休み特別期間	母と子のふれあい広場 7.22・23 8.26・27	キャッスルキャンプI 7.26・27	造形発見展 「光と造形'89」 7.21~8.31	みんなでうたおう 「うたはともだち」 7.21~31
	空中のスポーツ トランポリン 7.31~8.2・20	キャッスルキャンプII 8.24・25	一日造形教室 8.1~4・8~11	うきうきポルカ コンサート 7.21~8.31
	こども1日ドック実技 7.27・28	ちびっこ冒険団 (那須甲子少年自然の 家) 8.10~12		ほっとひといき コンサート 7.21~8.31
	児童館のこどもの卓球大 会 8.18~19	夏休み人形劇フェア 8.11~15		「おもしろ楽器せいぞろ い」 7.21~8.31
	インナーフィールド・ア スレチック (ドキドキわくわくラン ド) 8.9~18	プラモデル模型工作教室 7.23・30		アフリカンタムタムであ そぼう 元気ができるリズム 8.1~20
	ユニホック 8.28~31	パソコン体験教室 8.20		みんなでサンバ 夏のおわりはカーニバル 8.22~31
	新体操合宿 (こどもの城) 7.21~24			ためになるなる楽器クイ ズ大会 8.22~31
	スポーツ・キャンプI (グリーンピア津南) 7.26~29			ミニミニおはなし劇場 8.9
	スポーツ・キャンプII (山中湖YMCA) 8.19~21			楽器体験コーナー 8.1~31

3 事業・催し

A V	研修教養	小児保健・保育	企画・広報・国際交流
パンダイビデオ試写会 4.29～5.5 (5.1・2を除く)			スペースアドベンチャー (ファミリープログラム) 5.3～5
			キャッスルクエスト (全館行事) 4.29～5.7
			マックロー誕生日屋上 5.5
			渋谷4館スタンプラリー NHK、電力館、たばこと 塩 4.1～5.7
オリジナルソフト特集 7.21～8.18	第5回ジュニア・アウトド アスクール (静岡県・川井) 8.3～6	保育セミナー ボディワークショップ 8.9	おはなし広場 7.25～8.30
自由研究に役立つかな 8.19～31	あそびガヤガヤ研究所 合宿・ミステリーハウスの 運営 8.19～24	保育セミナー シンポジウムほか 8.10・11	ウォーターアドベンチャー 8.1～10
パンダイビデオ試写会	ウォーターアドベンチャー (ボランティア) 8.1～10	子育て相談コーナー 7.22・23, 29・30 8/5・6 12・13, 19・20, 26・27	エンジョイレク広場 8.25～31
夏休みおもしろビデオ館 7.28～30	エンジョイレク広場 8.25～31	夏休みこども一日ドック 7.25・27	渋谷4館スタンプラリー 7.21～8.31
夏休みしねまでいく 8.12～16		夏休み健康教室集中講座 8.27～29	
AVアニメーションフェ スタ'89 8.17～20		親子あそび 「夏が来た」 7.29	
		親子あそび 「パネルシアター」 8.5	
		親子であそぼう 8.19	
		おやつの実演 8.26	

II 活動状況一覧

	体 育	プレイ	造 形	音 楽
夏 休 み 特 別 期 間	夏期特別健康スポーツ教室 8.28~30			手作り楽器をつくろう 8.8~20
	屋上ちびっこプールの運営 7.21~8.31			これは楽しい太鼓のリズム 7.21~23
				怪談 8.25~27
				合宿 三味線・ユースバンド (こどもの国) 7.21~23
				合唱団演奏旅行 (兵庫県) 8.18~21
				パークションアンサンブル合宿 (こどもの城) 8.23~24
開 館 記 念 特 別 期 間	スポーツあそびの記録会 11.3~5	おはなし紙芝居の集い 10.31	第4回造形スタジオ展 10.31~11.26	歌はともだち 11.5
	体力測定 親子で体力をはかろう 11.3~5	チャレンジゲーム大会 11.1	オープンスタジオ (やってみようつくって みよう) 10.31~11.5	開館4周年セレモニーと コンサート 11.3
		おはなし人形広場 11.2		
		ファミリーゲーム大会 11.3		
		メイズオープンセレモニー 11.3		
		メイズ記録会 11.4		

3 事業・催し

A V	研修教養	小児保健・保育	企画・広報・国際交流
アニメおもちゃであそぼ う 11.3・5	スペシャル チャレンジ・ゲーム 11.1~5	記念セミナー 「変わる育児事情」 11.25	スタンプラリー・フォトコ ンテスト 優秀作品展示 11.3
青山劇場公演'88-'89ダ イジェスト 11.1~3			こどもの城ニュース展 11.4
バンダイビデオ試写会 11.5			スペシャル・チャレンジ・ ゲーム 11.1~5

II 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
冬 休 み 特 別 期 間	ミニサッカー 12.23~25	クリスマス人形劇フェア 12.23~27	オープンスタジオ 「やってみようつくって みよう」 12.23~1.7	歌はともだち クリスマス特集 12.25
	はねつきバドミントン 1.3~7	お正月昔あそび大集合 12.25~1.15	飛行機帆をつくろう 1.4・14	クリスマスソングコンサート 12.23~25
	ジャンボかるた大会 1.3~7	ロゴであそぼう 12.25~1.7		うたってポカポカ 12.26~28
	体力測定一般利用 (親子で体力測定) 12.26~1.7			たいこがいっぱい 太鼓まつり 1.3~7
	スキーキャンプ 12.26~30			おもしろたいこコンサート 1.3~7
				たたいてみよう世界のタイコ 1.3~7
春 休 み 特 別 期 間	スキーキャンプ 4.1~4	春休み人形劇フェア 3.24~25・31	素材との出会い展 「木と造形」No.3 3.17~4.8	いも虫じゃんけん大会 3.26~4.2
			第1回国際ジュニア・デザイン・コンペティション展 3.25~4.2	みんなでアンクルン 3.26~29
				春休みスペシャル 日本の弦楽器 4.3
				ぼくらのサウンド'89 バリ島のむかしばなし 4.3
				ぼくらのサウンド'89 ドラゴンクエスト組曲 4.4
				ぼくらのサウンド'89 日本のうた・四季 4.5

3 事業・催し

A V	研修教養	小児保健・保育	企画・広報・国際交流
昔のヒーロー特集 12.24~1.7	お正月あそび大集合 あそびコーナー 12.25~1.7	親子あそび 「クリスマス」 12.23	お正月あそび大集合 (凧の展示) 12.25~1.15
バンダイビデオ試写会 12.24~1.7	紙ずもう初場所 1.4~7	親子あそび 「お正月」 1.6	紙ずもう初場所 (企画) 1.4~7
AV実験室 アニメおもちゃであそぼう 12.25~28		冬休み子育て相談コーナー 12.23~26	新春もちつき大会 1.7
マックTV (子どもの城TV局) 12.23~1.7		冬休み一日ドック 1.5・6	
インフォビジョン特集 3.26~4.7	春休みチャレンジゲーム 3.26~4.7	親子あそび 「春が来た」 3.24	渋谷4館スタンプラリー 4.1~5.7
バンダイビデオ試写会		春休み 子育て相談コーナー 3.28~4.1	子どもの城 あそびのパスポート 4.7
ぱたぱたアニメをつくる 4.3~5			
春休みしねまていく 3.29・30			

II 活動状況一覧

4 グループ活動

区分	件数	月別内訳													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	東京都	他府県
														区	市
保育園	10									2	1	2	3	8	1
幼稚園	43	9	3	1					7	2		6	8	7	40
児童館															
通園施設															
幼稚教室															
研究所	2				1									1	2
自主保育グループ															
自主訓練グループ	1											1			1
小学校	5		1		1			1		1	1				2
中学校															
高等学校															
養護学校	12			1	1			1	2	4		2	1	6	3
精薄児施設															
肢体不自由児施設															
小学校特殊学級	26		4	1	1		3	1	5			10	1	18	2
中学校特殊学級	4								3		1				4
子供会															
養護施設															
その他	1										1			1	
計	104	9	8	4	3		3	10	14	7	11	22	13	78	7
															19

4 グループ活動

参加児童数別内訳											参加児童数		引 率 者 数	付 き 添 者 数	活動部門					
10 未 満	10 19	20 29	30 39	40 49	50 59	60 79	80 99	100 149	150 以上	延べ数	1 件 当 たり	体 育	プ レ イ	音 楽	造 形	A V	プ 自 由	A 自 由		
										239	23.9	37		1	1	8		11	1	
9	9	11	5	2	3	3	1			1,152	26.7	140	187	5	5	27	16	4	47	2
										39	19.5	6	20		1		1		2	
	1	1								14	14.0	2	13		1				1	
				1	1			1	1	495	99.0	24	2	3	3	4	2	4	2	5
2	7	3								183	15.2	97	34	2	4	7		2	7	1
18	8									189	7.2	92	22	12	9	6		1	16	1
4										21	5.2	5	8	3	3			1	1	1
										13	13.0	14				1			1	
33	32	18	6	3	5	3	2	1	1	2,345	22.5	417	286	26	27	53	19	11	87	12

II 活動状況一覧

5 講座・クラブ等

(1) 講 座

部 門	プロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	定 員	受講者数
体 育	幼児・母親水泳	幼児・母親	1 年 2コース	(人) 60	(人) 75
	幼児水泳	幼 児	" 6 "	330	354
	幼児体育	"	" 3 "	120	99
	小 学 生 水 泳	小 学 生	" 6 "	320	384
	シニア・スイミング	小・中学生	" 3 "	90	51
	シニア・スイミング・フレッシュ	"	" 1 "	30	35
	小 学 生 体 育	小 学 生	" 1 "	40	23
	小 学 生 総 合 体 育	"	" 1 "	40	31
	ジ ュ ニ ア 新 体 操	"	" 1 "	35	37
	シニア新体操	小・中学生	" 1 "	35	32
	手足の不自由な子どものスイミング	"	" 1 "	20	14
	レディス・スイミング	婦 人	" 3 "	180	210
	レディス・リズム&ストレッチ	"	" 2 "	80	33
	幼児・母親体育	幼児・母親	3か月 3 "	90	89
	幼児リズム運動	幼 児	" 3 "	90	90
	母と子のすくすくランド	乳児・母親	" 3 "	60	66
	母と子のパチャパチャスイムA	"	" 3 "	75	74
	母と子のパチャパチャスイムB	"	" 3 "	45	30
(小 計) (18種)			(46)	(1,740)	(1,727)
プレイ	小学生パソコン教室 I	小 学 生	2か月 2 "	40	32
	小学生パソコン教室 II	"	" 2 "	40	22
	(小 計) (2種)		(4)	(80)	(54)
造 形	こどもクリエイティブクラブ	小・中・高校生	3か月 2か月 9コース	90	67
	こどもと親の造形教室	幼児・親	3か月 2か月 6コース	60	43
	(小 計) (2種)		(15)	(150)	(110)
	おかあさんもいっしょ(リトミック)	幼児・母親	1 年 4コース	80	66
	リズムムードビング	幼児・小学生	" 2 "	35	34

5 講座・グラフ等

部 門	プロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	定 員	受講者数
音 楽	リズムムービング&パーカッション	小 学 生	1 年 1 コース	20	17
	合 唱	"	" 1 "	30	18
	ガ ム ラ ン	小・中学生	" 1 "	10	11
	三 味 線 I	小・中・高校生	" 1 "	12	10
	三 味 線 II	"	" 1 "	8	7
	三 味 線 III	中・高校生	" 1 "	6	5
	おとなのためのガムラン	高校生以上	" 1 "	15	18
	混 声 合 唱	"	" 1 "	15	11
	シ ン セ サ イ ザ ー	小・中・高校生	3か月 7 "	56	54
	(小 計) (11種)		(21)	(287)	(251)
A V	母 と 子 の ビ デ オ 教 室	幼児・母親	3か月 1 コース	8	3
	(小 計) (1種)		(1)	(8)	(3)
研修教養	手 話 講 座	高校生以上	6か月 2 コース	60	68
	点 訳 入 門 講 座	一 般	9か月 1 "	30	14
	お 話 講 座	"	3か月 1 "	30	36
	(小 計) (3種)		(4)	(120)	(118)
国際交流	サウンド・オブ・シザース(切り絵教室)	小 学 生	1 年 1 コース	30	12
	パフォーミング・アーツグループ	"	" 1 "	30	29
	(小 計) (2種)		(2)	(60)	(41)
保育研究 開 発	幼 児 グ ル 一 プ	幼 児	1 年 1 コース	20	19
	母 子 教 室	母親・幼児	3か月 3 "	38	38
	(小 計) (2種)		(4)	(58)	(57)
小児保健	健康スポート教室 <肥満>	小 学 生	1 年 1 コース	30	24
	母と子のリトミック <ダウン症>	幼児・母親	" 1 "	10	8
	マタニティ・スイミング	妊娠(16週~)	通 年 1 "	各月 35	34
	(小 計) (3種)		(3)	(75)	(66)
合 計	44種		100	2,578	2,427

II 活動状況一覧

(注) 1. 以上は、個人を対象とした継続的参加の講座である。

44種 100コース

2. 表の中の「定員」及び「受講者数」の整理方法は、次のとおりである。

(1) 2コース以上ある講座については、各コースの合計数とした。

(2) 1年コースの講座については、第1期、第2期及び第3期の平均数とした。

(3) マタニティ・スイミング（小児保健）については、各月の平均数とした。

3. 表に掲げるもののほか、年間継続的に開講しているが参加者は月ごとに変わるものとして「成人集中水泳講習会」を実施した。

4. 夏休み及び春休みにおいては、次のとおり短期の集中講座を実施した。

(体 育)	こども集中水泳講習会	(夏) 6コース	(春) 2コース
	体育教室	(夏) 1コース	
(プレイ)	小学生パソコン教室	(夏) 1コース	(春) 1コース
(音 楽)	ミュージック・サマーセミナー	(夏) 2コース	
(A V)	お母さんのビデオ教室	(夏) 1コース	
	(小児保健) 健康教室集中講座<太りすぎ>	(夏) 1コース	

5. 以上のほか、継続的に開講しているが参加者は1回ごとに変わるものとして次のプログラムを実施した。また、公開講座も実施した。

パソコン親子体験教室、プラモデル模型工作教室、一日造形教室（夏休み中）

(2) クラブ

部 門	プロ グ ラ ム	会員数
体 育	ダイナミック・ヘルスクラブ	453
	マックロー・スポーツクラブ	11
	小 計	464
プレイ	パ ソ コ ン ク ラ ブ	44
音 楽	児 童 合 唱 団	83
	和 太 鼓 グ ル ー プ	8
	ユ ー ス バ ン ド	19
	ガ ム ラ ン グ ル ー プ	9
	パークッション・アンサンブル	15
	小 計	134
A V	ファミリー・ビデオクラブ	5
研修教養	点 訳 サ ー ク ル	21
保育研究開発	保 育 ク ラ ブ	593
計	11 種	1,261

(注) 会員数は、平成元年度末の数である。

(3) こどもの城友の会

家族単位で入会	3,931家族
<会員数の推移>	
昭和63年度末会員数	3,758家族
平成元年度中の増・△減	173
内訳一入会者	1,423
非継続者	△1,250
平成元年度末会員数	3,931

6 観察・見学実績

6 観察・見学実績

(カッコ内は件数)

年 度	都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共団体	児童館、保育所、幼稚園、学校、施設、サークル、これらの中の団体	外 国 人	そ の 他	計
60 年 度	(100) 1,122	(100) 1,578	(22) 169	(18) 410	(240) 3,279
61 年 度	(121) 714	(192) 4,085	(52) 359	(31) 513	(396) 5,671
62 年 度	(107) 439	(123) 2,437	(36) 347	(20) 477	(286) 3,700
63 年 度	(91) 598	(69) 770	(30) 211	(32) 296	(222) 1,875
平成元年度	4月 (9) 24	(0) 0	(2) 3	(2) 22	(13) 49
	5月 (8) 73	(4) 21	(3) 23	(8) 46	(23) 163
	6月 (5) 27	(8) 42	(0) 0	(5) 18	(18) 87
	7月 (3) 10	(6) 73	(2) 42	(1) 2	(12) 127
	8月 (3) 99	(2) 25	(0) 0	(3) 47	(8) 171
	9月 (7) 47	(6) 123	(0) 0	(0) 0	(13) 170
	10月 (4) 60	(12) 252	(1) 1	(1) 4	(18) 317
	11月 (3) 25	(13) 248	(1) 2	(1) 6	(18) 281
	12月 (3) 23	(3) 14	(0) 0	(1) 5	(7) 42
	1月 (3) 20	(2) 7	(1) 15	(1) 3	(7) 45
	2月 (8) 59	(4) 64	(0) 0	(0) 0	(12) 123
	3月 (16) 74	(11) 62	(0) 0	(2) 42	(29) 178
	合計 (72) 541	(71) 931	(10) 86	(25) 195	(178) 1,753
累計		(491) 3,414	(555) 9,801	(150) 1,172	(126) 1,891 (1,322) 16,278

備考 (1) 「外国人」 韓国、北朝鮮、中國、香港、台灣、タイ、ネパール、マレーシア、シンガポール、フィリピン、インドネシア、フィジー、スリランカ、インド、パキスタン、ミャンマー、オーストラリア、ニュージーランド、ヴァヌアツ、ソロモン、キリバス、トゥヴァル、西サモア、パプア・ニューギニア、イラン、イラク、クエート、イスラエル、イギリス、フランス、西ドイツ、スイス、イタリア、デンマーク、フィンランド、ソ連、チェコ、ポーランド、カナダ、アメリカ、メキシコ

(2) 「その他」 中央官庁、中央団体、会社等

II 活動状況一覧

7 事業経理収支計算書

事業経理収支実績

(単位：千円)

収入の部		備考
款項		
		1.4.1~2.3.31
事業 収 入	1,779,006	
管理運営収入	134,049	入館料収入、友の会収入 他
文化体育事業収入	207,765	受講料収入、集団利用収入、一般利用収入、施設使用料収入 他
保育事業収入	25,574	保育収入、受講料収入 他
小児保健事業収入	18,092	診療収入、相談指導収入、受講料収入 他
劇場事業収入	689,509	公演収入、劇場使用料収入 他
利用者サービス事業収入	704,017	宿泊収入、レストラン等収入 他
特定預金取崩収入	25,977	退職手当引当預金取崩
繰入金収入	881,995	基金経理より繰入収入等
収入合計	2,686,978	
支出の部		
事業運営費	2,686,978	
役員給与	595,383	役員報酬、職員給与 他
諸支出金	63,093	社会保険料事業者負担金
定期預金支出	32,360	退職手当引当金支出
職手当	59,999	
非常勤嘱託手当	11,603	
業務諸費用	845,646	諸謝金、旅費交通費、事業庁費、業務委託費 他
公演事業費	266,049	公演費、公演諸費 他
舞台管理費	310,468	事業庁費、業務委託費 他
利用者サービス事業費	485,151	営業費、業務委託費 他
協賛事業費	11,961	協賛事業費、チャリティー事業費
子どもの城全国連絡協議会助成金	5,265	
支出合計	2,686,978	

III 各部の活動(1)

1	体育事業部	29
2	プレイ事業部	40
3	造形事業部	57
4	音楽事業部	68
5	A V事業部	82
6	保育研究開発部	97
7	小児保健部	107
8	企画部	119
9	劇場事業本部	125

第一 体育事業部

1 体 育

(1) 元年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 場所 時間	火		水		木		金		土	
	体育室	プール	体育室	プール	体育室	プール	体育室	プール	体育室	プール
10:00		レディース スイミング A	レディース リズム& ストレッチ A	幼・母水泳 A		レディース スイミング B	レディース リズム& ストレッチ 母と子の すくすく ランド	母と子の バチャパ チャスイム A・B		幼・母水泳 B
11:00		マタニティ スイミング	幼・母体育	保育研究 開発部		マタニティ スイミング			一般利用	レディース スイミング C
12:00		ヘルス・ ダイナミック クラブ	ヘルス・ ダイナミック クラブ	ヘルス・ ダイナミック クラブ	ヘルス・ ダイナミック クラブ	ヘルス・ ダイナミック クラブ	ヘルス・ ダイナミック クラブ	ヘルス・ ダイナミック クラブ	ヘルス・ ダイナミック クラブ	ヘルス・ ダイナミック クラブ
13:00										
14:00			幼児水泳 A		幼児水泳 B		幼児水泳 C			
15:00	幼児体育 A	幼児水泳 D	幼児体育 B	小学生 水泳 A	幼児体育 C	幼児水泳 E	幼児リズム 運動	幼児水泳 F	一般利用	一般利用
16:00	小学生 総合体育	小学生 水泳 B	ジ ュ ニ ア ・ シ ニ ア 新 体 操	小学生 水泳 C	小学生 体育育	小 学 生 水 泳 総 合 E 体 育	ジ ュ ニ ア ・ シ ニ ア 新 体 操	小 学 生 水 泳 D	健 康 教 室 (ぜんそく・肥満)	
17:00	スポーツ マッカロー ・ クローラー ・ クラブ	小学生 水泳 F コ シ ニア ス イ ミ ン グ A		コ シ ニア ス イ ミ ン グ B	マ ッ ク ロ ー ・ ス	ス ポ ー ツ ク ラ ブ	コ シ ニア ス イ ミ ン グ C	フ シ ニ ア ス イ ミ ン グ D		
18:00	ダイナミック ・ ヘルス ・ クラブ	集中 成人 水泳	集中 成人 水泳	ダイナミック ・ ヘルス ・ クラブ	ダイナミック ・ ヘルス ・ クラブ	ダイナミック ・ ヘルス ・ クラブ	ダイナミック ・ ヘルス ・ クラブ	集中 成人 水泳	ダイナミック ・ ヘルス ・ クラブ	ダイナミック ・ ヘルス ・ クラブ
19:00										
20:00										
21:00										

III 各部の活動(1)

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
バスケット ボール	各第1日曜日と前日の土曜日	10:00~17:00 13:30~16:00	体育室	職 員 1 (人)	14:00~, 16:00~試合
ニュースポーツ ゲーム	各第2日曜日と前日の土曜日	" "	"	"	"
卓 球	各第3日曜日と前日の土曜日	" "	"		
ミニ サッカー	各第4日曜日と前日の土曜日	" "	"	職 員 1	14:00~, 16:00~試合
ユニホック	各第5日曜日と前日の土曜日	" "	"	" 1	"
グループ活動	毎週火・木曜日	11:00~12:00	"	" 1~2	幼児 210円 就学児 260円
母と子のふれあい広場	11.23	13:30~ 15:30~	"	外部講師 2~3	
こどもデパート	6.11	10:00~17:00	"	職 員 1~2	全館合同事業
ギャラリー展示	9.26~10.11	10:00~18:00	ギャラリー	" 1	
水泳大会	3.11	10:00~12:00	プール	" 10	300円
新体操発表会	3.18	"	体育室	" 3	
プール一般開放	水曜日~金曜日 土曜日 日曜日・祝日	16:30~17:30 13:30~16:00 10:30~17:30	プール	ガード 1~2	大人 310円 こども 210円 幼児 100円
体力測定	土曜日 日曜日・祝日	14:00, 15:00 11:00, 13:00 14:00, 15:00 16:00	健康開発室	" 1	100円
D. H. C エアロビクス	木曜日	19:00~19:40	体育室	外部講師 1	4, 5, 6, 10, 11, 12月
" テニス	火曜日	19:20~20:00	"		7, 8, 9月
" ゴルフ	土曜日	"	"		1, 2, 3月
" トレーニング	金曜日	"	トレーニングジム		10, 11, 12, 1, 2, 3月
" 軟式テニス	水曜日	"	体育室		4, 5, 6月
肥満児指導者講習会	9.8・3.24	10:00~12:00	体育室, 健康開発室	外部講師 2	小児保健部との合同事業
父母参観(講座見学 →プール一般利用中止)	6.13~17 11.14~18 2.20~24	講座各時間	体育室, プール		

1 体 育

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
キャッスルクエスト	4.29~5.7	10:00~17:30	体育室	(円)	(人) 職 員 2	全館合同事業 5.1・2は講座のため休み
母と子のふれあい広場	4.3, 7.22・23, 8.26・27	13:30~ 15:30~	"		外部講師 2~3	
トランポリン	7.31~8.2 8.20	10:30~17:00	"		" 4~5	
一日ドック 夏 ・冬	7.27・28, 1.5・ 6	15:30~	健康開発室	5,150	職 員 2	小児保健部との 合同事業
新体操 合宿	7.21~24		こどもの城 館内	28,000	" 外部講師 2	
スポーツキャンプ I	7.26~29		グリーンピア津南	36,000	" " 10	
ドキドキ!わんぱくランド	8.3~8.17	10:00~17:00	体育室		" 2	
児童館対抗 卓球大会	8.18・19	9:00~17:30	"		" 6	企画部、児童館 との合同事業
スポーツキャンプ II	8.19~21		山中湖YMCA	36,000	" 外部講師 5	
夏期特別 健康 スポーツ教室	8.28~30	16:00~17:30	体育室	6,180	" 1	小児保健部との 合同事業
スポーツ遊びの 記録会	11.3~5	10:00~17:00	"		" 1	4.29~5.7 には キャッスルクエストと合併した 形式で行う。
スキーキャンプ 冬	12.26~12.30		グリーンピア津南	45,320	" 外部講師 10	
" 春	4.1~4.4		裏磐梯 猫魔	45,320	" " 5	
はねつき、ジャンボかるた大会	1.3~7	10:00~17:00	体育室		" 2	
新体操、バドミントン、ユニホック、バスケットボール、ミニサッカー	特別期間中	10:30~17:00	"		" 1	
プール 一般開放	特別期間中の火曜日から土曜日 (日曜日・祝日)	10:30~12:00 13:30~17:30 (10:30~17:30)	プール	大人 310 こども 210 幼児 100	ガード 1~3	18才以上 小学生以上 未就学児
体力測定	特別期間中の火曜日から土曜日	11:00, 14:00, 15:00, 16:00	健康開発室	100	職 員 1	
"	特別期間中の日曜日・祝日と月曜日	11:00, 13:00, 14:00, 15:00, 16:00	"	"	" 1	
エルゴバイクに 挑戦!!	10.10	14:00, 16:00	体育ロビー		" 1	

III 各部の活動(1)

4) 講座・クラブ

<講 座 >

(入会金1,000円 - 3年間有効)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回	料 金	講 師 等	備 考		
		定員	受講数								
幼児・母親水泳A B	幼 児 ・ 母 " "	(組) 30 " " 115 " " 112	(組) 115 " " " "	水曜日10:00-11:00 土曜日 " "	プール " "	火曜日の講座 4. 11~ 7. 18 9. 12~12. 19 1. 9~ 3. 20	(円) 幼児水泳 1. 2期各26,000 3 期 18,000	職員 " "			
幼児水泳A " B " C " D " E " F	3 ~ 4 歳児 " " " " 4 ~ 5 歳児 " " " "	(人) 50 " " 121 " " 171 " " 103 " " 60 " " 223 " " 225 " " 220	(人) 121 " " " " 木曜日 " " " " " " " " " " " " " " " "	火曜日13:30-14:30 水曜日 " " 木曜日 " " " " " " " " " " " " " " " "	プール " "	水曜日の講座 4. 12~ 7. 19 9. 13~12. 13 1. 10~ 3. 14	幼児水泳 1. 2期各20,000 3 期 14,000	" "			
幼児体育A " B " C	3 ~ 4 歳児 " " 4 ~ 5 歳児 " "	40 " " 77 99 120	77 " " " "	火曜日14:30-15:30 水曜日 " " 木曜日 " "	体育室 " "	木曜日の講座 4. 6~ 7. 13 9. 14~12. 14 1. 11~ 3. 15	小学生水泳 1. 2期各20,000 3 期 14,000	" "			
小学生水泳A " B " C " D " E " F	小 学 生 " " " " " " " " " 2年生	60 " " 229 " " 223 " " 227 " " 227 " " 40 " " 139 " " 107	229 "	水曜日14:30-15:30 火曜日15:30-16:30 水曜日 " " " " " " " " 木曜日 " " " " " " " " " "	プール " "	金曜日の講座 4. 7~ 7. 14 9. 8~12. 22 1. 12~ 3. 16	シニアスイム 1. 2期各20,000 3 期 14,000	" "			
シニアスイミング " B " C シニアスイミング・フレッシュ	小・中学生 " " " " 小3~中学生	30 " " 45 74 " " " " 35 " " 33 106	30 " " " " " " " " " " " " " " " " " "	火曜日16:30-18:00 水曜日 " " 木曜日 " " " " " " " " " " " " " "	プール " "	土曜日の講座 4. 8~ 7. 15 9. 9~12. 16 1. 13~ 3. 17	小学生体育 1. 2期各16,000 3 期 11,000	" "			
小学生体育	小 学 生	40	70	木曜日15:30-16:30	体育室		新体操、総合体育 1.2学期 28 3 学期 20	総合体育 1. 2期各24,000 3 期 17,000	" "		
小学生総合体育	小1~3年生	" "	92	火・木曜日 15:30-16:30	体育室 プール			新体操 1. 2期各25,000 3 期 19,000	" "		
ジュニア新体操 シニア新体操	小 3 年 生 小3~	35 " "	110 97	水・金曜日 15:30-17:00 水・金曜日 16:30-18:00	体育室 " "			手足の不自由な子の水泳 1. 2期各15,000 3 期 10,000	" "		
手足の不自由な子の水泳	小 学 生	15	41	土曜日17:00-18:00	プール			レディース 1 単位 1. 2期各20,000 3 期 15,000	" "		
レディース・スマミング A " B " C	婦 人	60 " " 213 " " 223 " " 194	213 " " " " " " " "	火曜日10:00-11:00 木曜日 " " 土曜日11:00-12:00	プール " "			レディース 2 単位 1. 2期各30,000 1. 2期 20,000 3 期 17,000	" "		
レディース・スマミング & ストーリッチ A " B	" "	30 " " 57 42	30 " " 57 42	水曜日10:00-11:00 金曜日 " "	体育室 " "			入会金 5,000 月 10,000	" 外部講師		
健康スポーツ教室	小 学 生	30	71	土曜日16:00-17:00	体育室 プール 健康開発室	4. 15~ 7. 8 9. 9~12. 9 1. 13~ 3. 17	12 12 10		職員 小児保健部との合同事業		
マタニティ・スマミング	妊 婦	35	-	火曜日11:00-12:00 木曜日 " "	プール				" 小児保健部との合同事業		

1 体 育

＜講習会＞

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回	料 金	講師等	備 考	
		定員	受講 数							
幼児・母親体育	2・3歳と母	(組)30	(組)89	水曜日11:00-12:00	体育室	水曜日の講習会 4.12~6.21 9.13~11.22 1.10~3.14	10 10 10	1期 〃 〃	(円) 16,000 12,000	外部講師
幼児リズム運動	3・4歳	(人)30	(人)90	金曜日14:30-15:30	〃	金曜日の講習会 4.14~6.23 9.8~12.24 1.12~3.16	10 10 10	〃 〃 〃	職員 〃 〃	
母と子のすくすくランド	お座りのできる乳児と母	(組)20	(組)66	金曜日10:00-11:00	2Fリハーサル室	金曜日の講習会 4.14~6.23 9.8~12.24 1.12~3.16	10 10 10	〃 〃 〃	20,000 22,000 27,000	
パチャパチャスイム A	1・2歳と母	25	74	〃	プール	プール、カウンセリングルーム				
〃 B	1・2歳と母	15	30	〃	プール、カウンセリングルーム			外部講師職員	小児保健部との合同事業	

＜クラブ＞

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 数						
マックロスポーツクラブ	小・中学生	(人) 50	(人) 20	火・木曜日 16:30-18:00	体育室	火・木曜日の講座 に準ずる	年 20,000	職員	
ダイナミックヘルスクラブ	成 人	-	426	火～土曜日 12:00-13:30 18:30-21:00 日・祭日 18:00-20:00	プール 体育室 ジム 他	通 年	入会金 10,000 会費 4か月 26,000 又は年 70,000	"	

＜短期講習会＞

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講師等	備 考
		定員	受講数						
成人集中水泳	成 人	(人) 20	(人) 222	火・金曜日 18:00-19:00	プール	火・金曜日の講座 に準ずる 月 7	1か月	10,000	外部 講師, 職員
こども集中水泳講習会	小 学 生 幼 児	50 40	250 130	8:30- 9:30(ACE) 9:30-10:30(BDF)	プール 〃	7.21~26 (AB) 5 7.27~31 (CD) 5 8.22~26 (EF) 5 3.26~30 (AB) 5	7,000 〃	職員 〃	
ガンバ！'89	小 学 生	30	30	9:00-10:00	体育室	8.22~26 5	6,000	〃	

(2) 体育事業部の活動

一般利用・講座・ダイナミックヘルスクラブの各主要活動それぞれに、内容・参加人数の充実を図った。特にトレーニングジム・シャワー室等の設備の増強に伴い、ダイナミックヘルスクラブの法人募集に力を入れ、施設利用の増加を図った。さらに、職員、指導者の知識・技術の向上を目指すとともに、より効果的な子どもの運動を開発するために、研究活動を積極的に実施した。

1) 平常期間

平日は、講座・クラブが主になるため、各施設の一般利用は土・日曜日、祝日が中心になる。利用日時や活動内容も定着してきて、スムーズに利用がなされた。

(ア) 体育室

- ・第1土・日→バスケットボール
- ・第2土・日→ニュースポーツゲーム
- ・第3土・日→卓球
- ・第4土・日→サッカー
- ・第5土・日→ユニホック

以上の活動プログラムもかなり周知されて、定期的に利用する子どもたちも見られた。卓球など家族で一緒に楽しめるものも人気があった。今後は幼児・小学生・大人みんなが楽しめるよう、さらにプログラムを改善する余地がある。

(イ) プール

- 水～金→16:30～17:30
土 →13:30～16:00
日・祝日→10:30～17:30

平日の講座との併用利用は、少數ながらも徐々に軌道に乗ってきた。土・日曜日、祝日の午前中の利用も広く周知され、利用者のニーズにこたえることができた。

(ウ) 健康開発室

土曜日の利用は少なかったが、日曜日、祝日の利用は前年よりも多くなってきた。小学生や、親の健康・体力に対する関心も少しずつ高まっていることを感じた。また、それらの関心に対して、全国平均と比べて優れている項目、劣っている項目についての指導など、かなり具体的にこたえることができた。

2) 特別期間

(ア) 児童福祉週間

プールの一般開放と体力測定に加え、今年度は次のプログラムを行った。

1 体 育

* スポーツ遊びの記録会 (4.29~ 5.7)

ジグザグドリブル・縄跳び・玉入れなどの種目を行い、その結果をコンピューター処理し、得点によって綱のぼり・鉄棒ぶらさがり・リングくぐりなどの「フィールドアスレチック」(全館事業として行われたキャッスルクエストの一部門) の種目数が決まるというやり方にした。フィールドアスレチックの結果もコンピューター処理したが、その処理に時間がかかってしまい、流れがスムーズにいかなかつたことが反省点。

(イ) 夏休み

- ・体育室で主に次のプログラムを行った。
- ・新体操への誘い (7.21~24)
- ・トランポリン (7.31~ 8.2, 8.20)
- ・母と子のふれあい広場 (7.22・23, 8.26・27)
- ・ミニバスケット (7.25~30, 8.22~25)
- ・ドキドキわんぱくランド (8.3~17)
- ・卓球大会 (8.18・19)
- ・ユニホック (8.28~ 9.1)

今年度から、わんぱくランドと卓球大会が新たに加わった。わんぱくランドは、ろく木越え・跳び箱登り・片足ケンケン・ゴムとびなどに挑戦した結果をコンピューター処理し、利用者に分かりやすい結果を出して好評を得た。卓球大会は、都内の児童館から小学生と中学生合わせて43チームが参加し、トーナメント方式で行った。

- ・講座・クラブ・講習会 (マタニティスイミング、成人集中講習会等) と平行してのプール一般開放は、前年と同様のため、大きな混乱もなく利用者への定着がうかがえた。また、今年から5階屋上のちびっこプールも体育事業部の管轄になったが、天候に恵まれたため、子どもを中心に地下2階プール利用者が5階屋上に移るケースがあった。
- ・健康開発室は前年と同様、8月の中旬に初めての利用者が多く、自分の体力を改めて認識し、健康に対する関心を高めていた。

(ウ) 開館記念日

体育室で「スポーツ遊びの記録会」を行った。土曜日と祝日が重なったこともあり、利用者も多かった。内容的には、開館以来縄跳び・クロックバスケットなど同じ種目を実施してきたため、そろそろ見直しが必要かと思われる。

(エ) 冬休み

- ・体育室で主に次のプログラムを行った。
- ・ミニサッカー (12.23~25)
- ・ユニホック、チュックボール (12.26~28)
- ・バトミントン、はねつき (1.3~7)
- ・ジャンボカルタ大会 (1.3~5)

全体的に、利用者は少なめだったが、お正月にちなんだプログラムは、子どもたちに、人

気があった。

(オ) 春休み

- ・体育室で主に次のプログラムを行った。
 - ・ミニサッカー (3.24~27)
 - ・ユニホック (3.28~31)
 - ・母と子のふれあい広場 (4.1・3)
 - ・バトミントン (4.2~5)
 - ・ニュースポーツ (4.7・8)

(カ) 「体育の日」特別プログラム

ギャラリー展示 (10.3~11)

タイトルを「美しさを表現するスポーツ、新体操」として、新体操の写真・用具等のほか、体育講座の写真を展示した。新体操発表会のビデオも流して、入館者の関心を集めた。

3) 講座・クラブ・講習会・合宿

体育事業部の柱となる講座・クラブの中でも、乳幼児部門を充実させるため、元年度はパチャパチャスイムA・Bを新規事業として実施した。

これは幼児期に必要な運動感覚を、水中でお母さんと一緒に体験することが大きなねらい。また、幼児母親水泳講座にキャンセル待ちをしていた人に対しても、新しい機会を提供することができた。Aコースは水泳講習のみ、Bコースは水泳講習後に小児保健部担当で、子育てのレクチャー・健康カウンセリング等を加えて行った。しかし、Bコースの形では、幼児にとって負担が大きかったため、2年度はAコース方式にしばることにした。

(ア) 講座

① 幼児・母親水泳、幼児プログラム

幼児・母親水泳は人気が高く、親子の触れ合いの場、運動の場として評価を得ることができた。幼児水泳は、3・4歳児のクラスが定員に対し7~8割の充足率、4・5歳児のクラスは継続して受講する子が多く満員で、活発な活動ができた。幼児体育は、前年に比べ受講者が増え、かなり活発になった。

② 小学生のプログラム

水泳講座は、ここでも幼児からの継続者を中心に、年間を通して人数的にまとまった形ができ上がってきた。泳力も徐々にレベルアップし、シニアスイミングへの流れもできてきた。体育講座は、内容が少しずつ理解されてきて受講者も増えてきたが、更に増加に努めたい。

以上の講座全体を通して、マタニティスイミング（小児保健部と協力）から、幼児と母親～幼児～小学生への1つの系統的な流れができたと言える。

③ 成人のプログラム

レディースエクササイズコースは、今年からエアロビクスをやめ、スイミングとリズム＆ストレッチの5コースを実施した。スイミングは広く定着してきたようで、受講者は多い。

リズム＆ストレッチはもう少し広報活動をし、メンバーの増加を図りたい。

④ 受講者への主な行事

例年どおり、講座の趣旨の普及と質的向上をねらって、次のことを行った。

- ・講座参観 —— 各学期に1回、父母にプールサイド・体育室内で、指導や子どもたちの練習の様子を参観してもらった。ふだん、なかなか見られない様子がよく分かると好評だった。
- ・泳力判定 —— 各学期の水泳技術の進歩を、規定のレベル表に合わせ判定し泳力判定表を渡した。指導者の記録としても大切な資料になり、子ども自身の大きな励みにもなっている。また、指導者と子どもの信頼関係を形成するうえでも役立った。
- ・ガイダンスとカウンセリング
—— 年度末、年長児（次年度就学児）を対象に、講座の選択方法や、全体的な相談、カウンセリングを行った。父母からも好評を得た。

(イ) クラブ

① マックロースポーツクラブ

マックロースポーツクラブでは、シーズン制をとり、前期はバスケット、後期はサッカーを行った。前期は個人技を中心に、後期は幅広い運動能力の向上を目指した。ウォーミングアップには、いろいろなゲームを行い、総合的な運動の体験をした。

② ダイナミック・ヘルス・クラブ（DHC）

10月からトレーニングジム等の増改築が始まり、12月に完成。エントランス側エレベーターからの通路・トレーニングジム・カウンセリングルーム・シャワー室が整備され、1月から使用開始。トレーニングジムの完成により、フロアでの活動も活発になり会員数も増加、年度末には400人を突破。同時に、記名式・無記名式の2形態で、法人会員も募集。合わせて9法人の加入があった。

(ウ) 講習会

- ・幼児母親体育、幼児リズム運動、母と子のすくすくランド

（4月～7月、9月～11月、1月～3月、全10回）

この3種類がそれぞれ全10回で完結するなどの実施形態や、対象年齢（幼児母親体育2・3歳、幼児リズム運動3・4歳、母と子のすくすくランド5か月以上でお座りができる子）が周知され、スムーズに募集・実施をすることができた。内容的にも年齢的にもニーズが高く、親子に対して有効な機会を提供することができたと思う。また、この講習会から講座への継続も多く、事業部内の1つの流れがてきた。

- ・春のこども集中水泳（2コース）、夏のこども集中水泳（6コース）

特別期間の集中講習会は人気が多く、ほぼ満員で実施された。内容的にも、集中的に行うため、技術に加え子どもたちの水泳に関する興味・関心をかなり高めることができた。引き続き講座に入る子もいた。

III 各部の活動(1)

・ ガンバ'89（夏期体操教室）

器械体操（跳び箱、マット、鉄棒、トランポリン）を軸に、さまざまな動きを加えた内容で行った。今年は2年目ということで、宙返りの運動にも挑戦したり、来年につなげる講習会としても、内容を充実させることができた。

・ 成人集中水泳（各月7回）

年間を通して人気が高く、毎月翌月のキャンセル待ちが出たほど。20人という限定された人数のため、個々人に合った充実した指導がなされ、好評を得た。

・ 肥満児指導者講習会

小児保健部との協力事業として、9月8日と3月24日の2回、講義（摂取エネルギーと消費エネルギーについて）と実技（ストレッチ、ユニホック、エアロバイク）を併せて行った。

(二)合宿

①新体操合宿（7.21～24、こどもの城）

子どもたちの意識の向上を図るため、初めて選抜メンバーでの合宿という形で行った。ビデオを使っての視聴覚的な練習をしたり、個人の練習記録をまとめるなど、講座の中ではできない充実したプログラムをこなした。

②スポーツキャンプI（7.26～29、新潟・グリーンピア津南）

4年目を迎えた津南でのキャンプも、受講者を中心にかなり定着してきた。貴重な自然の中での体験は、子どもたちにとってとても有意義だった。

③スポーツキャンプII（8.19～21、山梨・Y M C A 山中湖センター）

8月1日から予定されていた千葉県ロマンの森でのキャンプが、大雨のため途中で中止。急きょ、8月19日から2泊でY M C A 山中湖センターでキャンプに切り替えた。プログラムの中心であった水泳の練習は気温が低かったため行えなかったが、石割山登山や山中湖でのボートこぎなどの楽しいプログラムが展開された。

④スキースクールI（12.26～30、新潟・グリーンピア津南）

小学校低学年から中学生まで幅広い参加があった。レベル的にも幅が広く、上級者は初めて「タイムレース」を行った。初心者も慣れないながらも後半には各自成果をあげていた。

⑤スキースクールII（4.1～4、福島・猫魔スキー場）

毎年年末に行っているスキースクールに、今年から新しく、1～3年を対象としたパートIIを加え実施した。雪不足のため、場所を決定するのが困難だった。猫魔スキー場はやっと滑れる積雪で、子どもたちはほとんど初めてだったのでよく頑張り、大きな成果を得た。

4) グループ活動

前年同様、今年も3学期の利用が多かったが、徐々に1・2学期の利用も増えてきた。内容的にはほぼ昨年と変わらず、ユニホック・パラバルーンなどの使い方、楽しみ方が中心であった。今後は、新しいスポーツプログラムの開発をしていきたい。

5) 研究活動

今年度は、講座での活動を踏まえて、また講座での指導に反映させるため、次のような研究を行い、発表した。

①小児保健学会で発表。

- 「肥満児のユニホックにおける動きの特徴 3報 (11月2~5日)
——AVシステム、コンピューターを用いた方法論の研究——」
「 同 4報 (11月2~5日)
——個々の動きに視点をあてて——」
「 同 5報 (11月2~5日)
——集団としての動きに視点をあてて——」

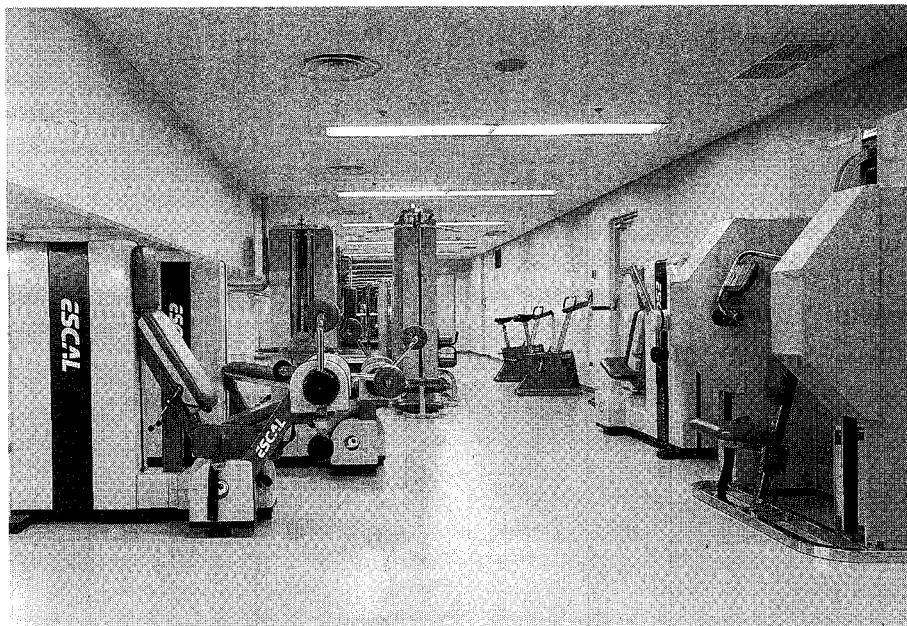
②教育心理学会で発表。

- 「視点抽出に基づく子どものテレビ番組の見方の解析」(放送文化基金の賛助)

③「体育科教育」1989年12月号に掲載。

- 「現代っ子の感性にアプローチするハイテク指導法」

④「幼児の動きの特徴——サッカーゲームの中での量的・質的考察——」を、厚生省“幼児期を中心とした小児成人病の免疫学調査に関する研究”班に論文として提供。



新しくなったトレーニング・ルーム（地下2階）

2 プレイ事業部

III 各部の活動(1)

(1) 元年度活動一覧表

1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム
10:00	グループ活動 パソコン体験教室 クリエーション	グループ活動 パソコン体験教室 クリエーション	グループ活動 パソコン体験教室 クリエーション	グループ活動 パソコン体験教室 クリエーション	グループ活動 パソコン体験教室 クリエーション	グループ活動 パソコン体験教室 クリエーション	一般	一般	一般	一般	一般	一般
11:00												ソノラブ用室
12:00												
13:00	一般利用 コンピュータブレイ・屋上遊園 いの集い おはなし紙しば	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般	一般	一般	一般	一般	プラモデル模型工作教室
14:00		一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	場II おはなし人形広	一般	一般	一般	一般	
15:00		一般	一般	一般	一般	一般	場I おはなし人形広	一般	一般	一般	一般	パソコン体験教室
16:00		利	利	利	利	利	みんなであそぼ うゲーム大会	利	利	利	利	
17:00		用	用	用	用	用		用	用	用	用	
18:00												

2 プレイ

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
プラモデル模型工作教室	毎週日曜日 ・祝日	13:00～ 15:00	プレイホール	(入) プラモデル協会 指導員 職員・ボラン ティア	プラモデル工業協同組合の協力で、手作り工作の基礎を学ぶ教室。 47回開催、延べ1,400人参加。
おはなし紙しばいの集い	火曜日	15:00～ 15:30	" (幼児コー ナー)	職員1 ボランティア	子どもの城婦人ボラン ティアの協力により、 幼児向けの30分ぐらい の楽しいお話の時間。
チャレンジゲーム大会	水曜日	15:30～ 16:30	プレイホール	職員2	年齢に関係なく、だれ でも練習すれば上手に なっていく「セーフテ ィダーツ」の大会。
おはなし人形広場Ⅰ	木曜日	15:00～ 16:00	"	職員2 ボランティア	プレイ事業部のスタッ フとボランティアが、 幼児に向けて人形劇や 影絵やパネルシアター の楽しい集い。
みんなであそぼうゲーム 大会	金曜日	16:00～ 17:00	"	職員2	だれでも参加できるこ とを目標に「ビンゴゲ ーム」を中心としたゲ ーム大会。
おはなし人形広場Ⅱ	土曜日	14:00～ 15:00	"	職員1 外部人形劇サー クル	外部のサークル、ボラ ンティア集団による人 形劇の集い。水曜日の 広場より少しうっくり とした時間で実施。
マックロ一人形劇場	第3土曜日 月1回	15:00～ 16:00	"	職員1 ボランティア	「子どもの城」の青年 ボランティアによる、 子どもの城キャラクタ ーの楽しい人形広場の 集い。
サタデープレイタイム	土曜日	15:00～ 17:00	"	"	自分の手で作って遊ぶ 「遊びは自分で作り出 すもの」を合い言葉 に、じっくり遊んでみ ようという小学生のた めのクラブ的な活動。

III 各部の活動(1)

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<児童福祉週間> みんなでつくろうデカデ 力鲤	4. 29～ 5. 7	11:00～ 16:00	プレイホール	(人) 職員 ボランティア	
こどもの日人形劇フェア	5. 3～7	①13:00 ②15:00	フリーホール	人形劇団8グ ループ 職員 2	(出演者) 人形劇団チト, 聖徳学 園児童文化研究部, 大 妻女子大パネルシア ター同好会, 人形劇団 HOPPY, はるおじさ ん, わけちゃん, ひま わり座, 空中分解
<夏休み> キャッスル・キャンプI	7. 26・27	1泊2日	プレイホール 屋上ふしぎが 丘ほか	プレイ職員 3 保育職員 3 ボランティア 10	5・6歳児39人 (参加費5,150円)
キャッスル・キャンプII	8. 24・25	"	"	"	5・6歳児39人 (")
ちびっこ冒険団	" 10～12	2泊3日	国立那須甲子 少年自然の家	プレイ職員 1 企画職員 2 ボランティア 20	小学校1～3年生78人 (参加費23,690円)
夏休み人形劇フェア	" 11～15	①12:00 ②15:00	フリーホール	人形劇団10グ ループ 職員 2 ボランティア	(出演者) 人形劇団たけとんば, パペットマーケット, 東京家政大学ほうき 星, 法政大学児童文化 研究会, 上智大学チロ リン村, 学芸大学狐の しっぽ, こどもの城 マックロー人形劇団・ パネルシアターグルー プ・婦人紙芝居グルー プ・婦人影絵グループ
<冬休み> クリスマス人形劇フェア	12. 23～27	①13:00 ②15:00	"	人形劇団5グ ループ 職員 2 ボランティア	ばねるっぽ, テアトル ジアスターゼ, 人形劇 団たけとんば, 劇団は てな, こどもの城婦人 影絵グループ
お正月昔あそび大集合	" 25～ 1. 15	11:00～ 16:00	ギャラリー フリーホール プレイホール スタジオB 屋上ふしぎが 丘 体育室	(全館行事参 照)	(全館行事参照)

2 プレイ

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<春休み> 春休み人形劇フェア	3. 24・25 3. 31・ 4. 1	①13:30 ②15:30	スタジオB	(人) 人形劇団4グ ループ プレイ職員2 A V職員3	(出演者) 劇団夕やけ, テアトル ジアスターぜ, 劇団は てな, 人形劇団空中分 解
(母の日) おかあさんへ手作りプレ ゼント	5. 13・14	(13日) 13:00～ 16:00 (14日) 11:00～ 16:00	プレイホール	職員2 業者1 ボランティア	「おし花ごっこ」利用 のカード作り
(横浜開港記念日) スペシャルゲーム大会	6. 2	14:00(ビン ゴ大会) 15:00(わな げ大会) 16:00(つど い)	"	職員3 ボランティア	
こどもデパート	6. 11	9:30～ 16:00	体育室	職員3 パソコンクラブ 員 高校生ボラン ティア	(全館行事参照)
(父の日) ここはとうさんラリー	6. 17・18	(17日) 13:00～ 16:00 (18日) 11:00～ 16:00	プレイホール 屋上ふしぎが 丘	プレイ職員2 A V・企画・研 修職員各1 ボランティア	(17日) 76組, 152人参加 (18日) 182組, 364人参加
N C C 杯 第2回パンパー大会	6. 17・24	15:00～ 17:30	プレイホール	職員2 ボランティア	(17日) 中学生の部17人参加 (24日) 小学生の部8人参加
(七夕まつり) ねがいごとかなえ	7. 4～9	(4～7日) 13:00～ 16:00 (8～9日) 11:00～ 16:00	"	プレイ職員2 音楽職員1 ボランティア	
(敬老の日) 昔あそびの名人におしえ てもらおう	9. 15～17	11:00～ 16:00	プレイホール 屋上ネットの 広場	渋谷区老友会 渋谷区ゲート ボール協会 職員4 ボランティア	手影絵, 紙芝居, 人形 劇, 語りきかせ, あや とり, お手玉, 折り紙, ケン玉, グランドボー ルなど。

III 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(体育の日) なんでもチャンピオン シップ	10. 8・10	11:00～ 16:00	コンピュータ ・プレイルー ム プレイホール 屋上ネットの 広場	(人) プレイ職員3 企画・研修職員 各1 ボランティア	N C C 杯ヨット・熱氣 球レース、親子わなげ 大会、ユニカールゲー ム大会など。
(開館記念) 人形劇フェア	11. 3～5	①13:00 ②15:00	フリーホール	人形劇団4グル ープ 職員2 ボランティア	人形劇団H O P P Y, テアトルジアスター ゼ、ぱねるっぱ、こど もの城マクローラ人形 劇団
スペシャルゲーム大会	11. 3・5	12:00（わな げ大会） 15:00（ダ ーツ大会） 16:00（ビン ゴ大会）	プレイホール	職員2	
めいろくんオープン記念 タイムトライアル	11. 4	13:00～ 16:00	プレイホール (めいろく ん)	職員3	
(埼玉県民の日) スペシャルゲーム大会	11. 14	14:00～ (ダーツ大 会) 15:30～(ビ ンゴ大会)	プレイホール	職員2	
(勤労感謝の日) ファミリーゲーム大会	11. 23	11:30(ダ ーツ大会) 15:30(ビ ンゴ大会)	"	職員2	
N C C 杯 第3回バンパー大会	11. 18・25	15:00～ 17:00	"	職員2 ボランティア	(18日) 中学生の部10人参加 (25日) 小学生の部15人参加
(成人の日) ファミリーゲーム大会	1. 14・15	11:30(わな げ大会) 15:00(ビン ゴ大会)	"	職員2	
(節分会) 桃太郎の鬼たいじ まめまき大会	2. 3・4	(3日) 13:00～ 16:00 (4日) 11:00～ 16:00	全館	プレイ職員4 企画・研修・A V職員各1 ボランティア	

2 プレイ

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(ひなまつり) みんなでひなまつり	3. 3・4	(3日) 13: 00~16:00 (4日) 11: 00~16:00	プレイホール 音楽ロビー	プレイ職員2 音楽職員4 ボランティア	(人)

3) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員	受講数						
小学生パ ソコン教 室 I - A	小4~6	(人) 20	(人) 20	日曜日 10:30~12:30	パソコン ルーム	4. 16~ 5. 21 (5回)	(円) 5,000	小倉康仁	
" II - A	"	"	16	"	"	6. 18~ 7. 16 (5回)	"	"	
" I - B	"	"	19	連続 10:30~12:30	"	8. 22~ 8. 26 (5回)	"	"	
" II - B	"	"	6	日曜日 10:30~12:30	"	10. 15~ 11. 12 (5回)	"	"	
" I - C	"	"	12	"	"	1. 21~ 2. 18 (5回)	"	"	
" I - D	"	"	17	連続 10:30~12:30	"	3. 26~ 3. 30 (5回)	"	"	
親子体験 教室	小3~中 3の子と 親			日曜日 16:00~17:30	"	4. 16~ 3. 18	200 円/組	職員	11回実 施延べ 132人
パソコン クラブ	小4~高3	100		水・木曜日 14:00~17:30 土曜日 13:00~17:30 日曜日 10:00~17:30	"	1年	3,000	"	延べ 1,107人 参加

III 各部の活動(1)

(2) プレイ事業部の活動

1) 平常期間

プレイ事業部は前年度と同様に、遊びの場とプログラムの提供を通して、子どもたち同士の結びつきや交流が深められるような活動を基本とした事業展開を行った。

前年度、手ごたえのあった、子どもたちの反復利用をさらに促進するため、平常期間プログラムへの若いボランティアリーダーの参加を図った。かつ、彼らへのスーパーバイズを通してリーダーの子どもへの対応技術の向上に努めた。

実験的な試みとして、県民の日などの近隣自治体の記念日には、親子での利用者が多いので、ファミリー単位で参加するイベントを実施した。これは最近の親子関係の現状を踏まえ、親子が協力をしなければできないゲームを中心に実施をした。上手に役割分担をして参加する家族、大きな声で親の応援をする子どもの姿など、ファミリーゲーム大会ならではの場面が多く見られた。設備整備の面でも、三輪車などの乗り物の数を増やすとともに、新たにふしきが丘の活用も考え、遊具の種類の充実に努めた。さらにプレイホールの「ふしきの館」が老朽化したので、これを「めいろくん」に改修した。

コンピュータプレイ

本年度の利用者は延べ58,827人で前年度比6,762人の増。幼児と母親の利用増加が目立った。また利用の傾向として、グラフィックスソフト（絵をかくソフト）に幼児向けのぬり絵

コンピュータプレイ利用実績

(1) 個人・集団別

	個人プレイ	集団プレイ		計(人)
		組数	人数	
4月	3,742 (3,329)	219 (194)	742 (593)	4,488 (3,922)
5月	3,690 (3,306)	233 (218)	755 (691)	4,445 (3,997)
6月	3,371 (3,040)	232 (220)	718 (672)	4,089 (3,712)
7月	5,136 (3,305)	269 (279)	900 (904)	6,036 (4,209)
8月	8,440 (7,880)	377 (356)	1,315 (1,284)	9,755 (9,164)
9月	3,055 (3,184)	198 (204)	614 (653)	3,669 (3,837)
10月	3,192 (3,055)	161 (205)	502 (660)	3,694 (3,715)
11月	3,846 (3,033)	197 (202)	604 (610)	4,450 (3,643)
12月	3,217 (2,203)	198 (182)	547 (513)	3,764 (2,716)
平2.1月	3,949 (3,560)	185 (225)	590 (733)	4,539 (4,293)
2月	3,404 (2,864)	158 (199)	450 (614)	3,854 (3,478)
3月	5,255 (4,530)	243 (259)	789 (849)	6,044 (5,379)
計	50,301 (43,289)	2,670 (2,743)	8,526 (8,776)	58,827 (52,065)

注 カッコ内は前年度

2 プレイ

(2) 年齢層別

(人)

	幼児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中	高	大人	合計
男	4,202	2,823	3,331	3,477	3,291	3,101	2,825	1,934	167	3,677	28,828
女	2,696	1,685	2,548	3,590	3,774	3,495	2,535	1,726	222	7,728	29,999
合計	6,898	4,508	5,879	7,067	7,065	6,596	5,360	3,660	389	11,405	58,827

の機能を持たせたところ、高学年の子どももぬり絵を選ぶ率が高くなり、より簡単に楽しめるソフトを望む傾向が見られた。

また、体育の日には、集団プレイゲームを利用し、スポーツにちなんで「N C C 杯ヨット・熱気球レース大会を実施した。

パソコンルーム

パソコンルームは、パソコン教室、親子のためのパソコン体験教室、パソコンクラブのメンバーの利用、そして一般来館児童も教室以外の時間帯には自由に利用できる。本年度は途中から新しいロゴシステムを導入したことにより、より幅の広いプログラミング活動が可能となった。

パソコンルームには幼児から大人までの幅の広い利用者がやって来る。ここで活動は小学校低学年までの子どもには少々荷が重いが、母親や父親といっしょに取り組む姿が徐々に定着してきたようである。しかし利用の中心は小学校高学年以上の子どもたちである。この子どもたちの多くは社会や家庭へのコンピュータ機器の普及とともに、パソコンに触れ、ただ体験するよりも、パソコンがどんなことに利用できるのか、活用できるかという方向に意識が変わりつつある。表現すること、コミュニケーションすることなど知的に遊ぶ手段としてのコンピュータの活用を今後はパソコンルームの活動として示していくことになる。

屋上遊園・ふしきが丘

本年度の屋上遊園の整備は、遊園の中にキーステーションとして、ロッジふうのハウスを2棟設置した。(うち、1棟は辻正雄氏の寄付による)。これと、数を増やした乗り物とを組み合わせ、ごっこ遊びや、親子の憩いの場としてよく利用されている。プレイポートは昨年同様年間を通して、多くの子どもたちに人気が高かった。

ふしきが丘の平らなスペースは、従来、休日や特別期間中のイベント中心の場所だったが、今年度、竹馬、三馬などをそろえたところ、平日にも多くの子どもたちが、これらの遊びに挑戦する姿が見られるようになった。

[めいろくんオープン]

プレイホールで開館以来親しまれてきた「不思議の館」が迷路遊びのコーナーとして生まれ変わり、11月4日にお目見えした。愛称も事前に公募し、「めいろくん」と名付けられた。このコーナーはビニールシートを利用した迷路遊びができる遊具で、壁の下はエスケープルートとしてすきまを設けてあり、幼児にも楽しむことができるよう工夫した。オープニングには迷路抜けのタイムを競う「めいろくんタイムレース」のゲーム大会を実施した。

III 各部の活動(1)

プレイホール週間プログラム

名 称	期 間	時 間	対 象	内 容
プラモデル模型工作教室	毎日曜日・祝日	13:00～15:00	小学生以上 (教材により異なる)	47回開催され、延べ1,400人が参加した。教材は、前年度のミニ四駆だけから、様々な種類に変わった。参加者の傾向として、低学年と女子の参加が多くなってきている。
おはなし紙しばいの集い	火曜日	15:00～15:30	幼 儿	こどもの城婦人ボランティアの協力による、幼児向けの楽しい紙芝居の時間。今年度より青年ボランティアも加わり、バラエティーも豊かになってきた。演じ方も1人で行う紙芝居のみではなく、2人、3人で配役を分けるなどの工夫がされた。
チャレンジゲーム大会	水曜日	15:30～16:30	小 学 生	だれでも練習さえすれば上手になる「わなげ」や「ダーツ」などのゲーム大会。今年度は夏休み前までは「わなげ」を、9月以降はマジックテープで的に付くダーツを毎週の種目とした。3年目を迎えて、常連の子どもの定着化が図られてきている。
おはなし人形広場Ⅰ	木曜日	15:00～16:00	幼 儿	幼児を対象に、スタッフが交替で人形劇、パネルシアター、ペーパーサートなどを実施。テーマソングを歌いながら楽しい集いを始める形もでき上がってきました。また第3木曜日は、婦人ボランティアによる影絵と青年ボランティアのパネルシアターを定期的に行つた。
みんなであそぼうゲーム大会	金曜日	16:00～17:00	幼 儿 小 学 生	1年間「bingoゲーム」を実施した。年齢や力に関係なく遊べるので、毎回、幼児から小学生、母親の参加が多い。数字合わせのbingoばかりではなく、オリジナルの「動物園bingo」「しりとりbingo」「なぞなぞbingo」など変化を持たせて運営した。これらの課題を解く楽しさがゲームへの参加性を高めたようだ。
おはなし人形広場Ⅱ	土曜日	14:00～15:00	幼 儿	外部の人形劇団やサークルによる人形劇の集い。水曜日の広場より少しうつたりとした時間をもって実施。舞台と客席とのコミュニケーションを大目に考え、大きな劇場で行われる人形劇とは一味違った楽しさを提供した。
マックロー人形劇場	月1回 第3土曜日	15:00～16:00	同 上	こどもの城の青年ボランティアによる、こどもの城キャラクターの楽しい人形劇の集い。
サタデープレイタイム	土曜日	15:00～17:00	小 学 生	小学校3年生以上を対象に、いろいろな遊びを通して子どもたち同士が自然に交流を深めるプログラム。ニュースポーツや、ボードゲームを中心に、子どもたちとの対話を大切に取り組んだ。

2) 季節行事、その他の特別行事

(ア) 母の日プログラム

・おかあさんにプレゼント（5月13日（土）・14日（日））

お母さんにプレゼントする、押し花をあしらったカード作りのプログラムを行った。これは電子レンジを利用して、簡便に押し花を作ることができる器具を使った。押し花を作るコーナーは、子ども以上に母親たちの関心を引いていた。

(イ) こどもデパート（6月11日（日））

毎週土曜日に実施している、“サタデープレイタイム”の活動の一環として、ポスターで一般来館児から参加を募り、こどもデパート（6月11日）に出店した。またL.I.T (Leader in Training) を希望する高校生にも呼びかけた。小学校4・5年生6人、高校生9人が参加、準備に5日間を要した。店名は「ハイスピード4WDショップ」ミニ四駆のプラモデルを売り、その場で製作をし、できたプラモデルを競争会に参加させた。また、周りで見ている人たちにも、どのプラモデルが勝つか、「予想あてゲーム」に参加するという内容のお店を企画、運営した。まったく知らない子どもたち同士が準備を進めていくうちに親しくなり、分担、協力して活動を進め、当日も、高校生が小学生のめんどうを見ながら、自分たちでお店を運営した。

(ウ) とうさんラリー'89（6月17日（土）・18日（日））

前年、好評だったお父さんと子どもが一緒になってさまざまな課題を解きながら、全館を回るラリー形式のプログラムを課題の幾つか変えて実施した。いちばん大きく変更したところは、前年には無かった音楽的要素を加えたところである。親子に課題曲を与え、伴奏に合わせて歌ってもらうというもの。子ども時代や学生時代に歌っていた歌を子どもと一緒にちょっぴり照れながらも、ふだん、カラオケ等で鍛えたのどを、誇らしげに歌う父親の顔が印象的であった。

(エ) 七夕特別行事「ねがいごとかなえ」

日時：7月4日～9日 11:00～16:00（平日は13:00～） 場所：3階プレイホール
今年の七夕行事では短冊を作る「ワークショップ」のコーナーと、「カラクリBOX」のコーナーを設けた

昨年は視覚遊びを盛り込んだ「カラクリBOX」を作ったが、今年は六角形に組まれたパテーションの内側にエコーマイクやボコーダーマイクなどを仕込み、穴に向かって願いごとを唱えると、自分の声が変調されて返ってくるという仕掛けを用意した。

ワークショップの短冊は1日約180枚ほどのペースで参加があった。筐の下部には枝を多めに残し、小さな子でも短冊を付けやすいように配慮した。

(オ) 敬老の日（9月15日（金）～17日（日））

本年も“渋谷区老友会”的方に協力していただき、あやとり、お手玉、折り紙などの昔遊びや手品ショーを通して子どもたちとの交流プログラムを実施した。また、ゲートボール

III 各部の活動(1)

協会の方々に、グランドボールの遊び方を教えてもらった。高学年の子どもや、外国の子どもたちの参加も見られ、お年寄りとの交流プログラムの新しい方向が見られた。

(カ) 体育の日「なんでもチャンピオンシップ」(10月10日)

体育の日にちなんで、ファミリーで参加し、協力しあえるスポーティーゲームの大会を実施した。1つは親子(特に幼児対象)で参加する「おやこ輪なげ選手権」を3階プレイホールで、そして、5階ふしぎが丘では、小学校高学年以上のグループを対象に、「ニューススポーツに挑戦、ユニカールゲーム大会」を行った。また、3階コンピュータプレイルームの集団プレイゲームを使い、「NCC杯ヨット・熱気球レース大会」を行った。どの大会もグループ参加を原則としたため、親子や友達同士が力を合わせ、応援しあいながら楽しく参加していた。多くの人が来館する祝日には、ファミリーを対象としたプログラムを組むことの意義を再確認するイベントとなった。

(キ) 節分行事「豆まき大会」「桃太郎の鬼退治」(2月3日(土)・4日(日))

この時期は大学の試験シーズンと重なり、青年ボランティアの協力が難しい。そのため今年はスタンプラリー形式の行事とし必要人員の削減に努めた。

「桃太郎の鬼退治」は、受付で渡すクイズカードのナゾを解きながら犬・猿・キジ・桃太郎の4種類のスタンプを探すゲーム。スタンプを集めたら、ゴールの鬼とジャンケンの3回勝負をし、勝てば大きな参加賞がもらえる。

「豆まき大会」は毎年恒例になっているが、今年もプレイ事業部のスタッフを中心に青年ボランティアの協力を得て、2日間、1日2回の豆まき大会を行った。

(ク) みんなでひなまつり(3月3日(土)・4日(日))

プレイホールと音楽ロビーの2か所でプログラムを実施した。プレイホールでは千代紙でおひな様を折り、最後にひなあられをもらうための菓子袋にはりつけた。音楽ロビーでは、ひな段に上がり、スタッフの笛に合わせてしめ太鼓やうちわ太鼓を演奏し五人囃子に挑戦した。

一生懸命折り紙を折る子どもを手伝う母親や、和太鼓をたたく子どもに声援を送る親など、ほのぼのとした雰囲気であった。

(ケ) スペシャルゲーム大会

6.2	横浜開港記念日	ビンゴ・わなげ		(以後ファミリーゲーム大会)
6.15	千葉県民の日	ビンゴ	11.14	埼玉県民の日 ダーツ・ビンゴ
7.1	川崎市政の日	ビンゴ	11.23	勤労感謝の日 ダーツ・ビンゴ
6.23・24	秋分の日	ビンゴ・わなげ	1.14・15	成人の日 わなげ・ビンゴ
11.3	開館4周年記念	わなげ・ビンゴ	2.11・12	建国記念の日 わなげ・ビンゴ

祝日や学校が休みになる近郊都県市の記念日には日曜日同様、多数の来館者を迎えたように、スペシャルゲーム大会を行った。毎回わなげ大会やダーツ大会は30組、ビンゴ大会は200~400人の参加で実施していたが、祝日や記念日には家族連れが多いので、11月からは

家族単位で参加する「ファミリーゲーム大会」の形式をとった。この結果、子どもを応援する親たち、一発逆点をねらって張り切るお父さん、がんばるお母さんと、会場は大いに盛り上がった。

(イ) バンバー大会

本年は、第2回大会を6月17日（中高生、参加数17人）、24日（小学生参加数8人）、第3回大会を11月18日（土）（中高生、参加数10人）、25日（土）（小学生参加数15人）に実施。回を重ねるごとに参加者も増え、子どもたちの技術の向上もめざましくなっている。大会を目指し、何度も足を運び、日々と練習する子どもたちの姿が多くみられた。何より、大会を通して友情をはぐくんだメンバー同士、自分が負けても勝者に声援を送るといったエールの交換が見られるようになった。

3) 特別期間

(ア) 児童福祉週間

① みんなでつくろうデカデカ鯉（平成1年5月1日（月）～5日（金））

児童福祉週間恒例のデカデカ鯉作りも3年目となり、準備から当日の運営まで手際よく行われた。5日間を通して延べ2,200人を超す子どもたちが思い思いのデザインの鯉のウロコを作り、最終日にはプレイホールに全長15m、高さ2.5mの巨大な鯉が出現した。

② こどもの日人形劇フェスティバル

日時：5月3日～7日

場所：B1フリーホール

①13:00～ ②15:00～

学生の団体とプロの人形劇団が入り交じった、フェスティバルになった。

人形劇とは別に、乳酸飲料の空きびんや封筒などを使って人形を作るワークショップのコーナーを設け、親子で楽しめた、温かい雰囲気になっていた。

	出 演 団 体	演 目
3日	人形劇団チト 聖徳学園児童文化研究部	「なかよし」 「しゃぼん玉」「とんでもったバナナ」
4日	大妻女子大 パネルシアター同好会	「おもちゃのチャチャチャ」「あんぱんまん」「どうぶつ村」他
5日	HOPPY	「3匹のこぶた」「動物コンサート」他
6日	はるおじさん 和氣ちゃん	「3匹のこぶた」「じんばん時計」 「なかよし」「日天さん月天さん」
7日	ひまわり座 空中分解	「日天さん月天さん」 「へっこきあねさ」

(イ) 夏 休 み

① キャッスルキャンプ（I期7月26日（水）・27日（木）、II期8月24日（木）・25日（金））

幼児（5・6歳児）を対象としたこのキャンプは、今年が初めてだったが、前年までのインドアキャンプ（小学校低学年を対象とした館内キャンプ）の経験を生かすことができ、充

III 各部の活動(1)

実した内容となった。

夏休み期間に、2回実施し、計78人が参加した。ごっこ遊びの要素を加えた野外炊事、夜のスライド劇場や屋上遊園のプレイポートを利用した水遊びは、幼児にとってたいへん魅力のあるプログラムとなったようだ。

生活面での対応は、共同で行った保育研究開発部のスタッフの知識と経験が大いに役立った。次年度は、さらにお互いのノウハウを生かして、より充実したキャンプとしていきたい。

② ちびっこ冒険団（8月10日（木）～12日（土））

小学1年生～3年生を対象に、野外における集団宿泊生活を目的としたキャンプを実施。福島県にある「国立那須甲子少年自然の家」で、8月10日から12日にかけて、2泊3日の日程で行われた。参加者78人、スタッフ3人、ボランティアリーダー20人、総勢101人の参加があった。冒険団ハイキング・野外炊事・キャンプファイヤー、団長からの挑戦状といった課題ゲームなどのプログラムを通して、子どもたちは、初めて出会った友と日ごとに仲よくなり、元気に活動を進めていた。ただ、2泊3日の短時間では、じっくりと活動に取り組める日が丸1日しかなく、子どもたちの体力も消耗しがちなため、期間の延長を検討したい。

③ 夏休み人形劇フェア

日時：8月11日～15日 ①12:00～ ②15:00～ 場所：B1フリーホール

今回の人形劇フェアは婦人・青年ボランティアによる影絵や紙芝居、パネルシアターをメインとし、外部人形劇団は「たけとんぼ」のみとなった。特に今回は、フェア用に大型紙芝居や大型絵本を製作するなど、婦人ボランティアの努力、活躍が目立った。

	出 演 団 体	演 目
11日	婦人ボラ紙芝居グループ	大型紙芝居「ごきげんの悪いコックさん」 大型絵本「ぐりとぐらのかいすいよく」 パネルシアター「カレーライス」「ふしぎなポケット」「おおきなかぶ」他
	青年ボラパネルシアターグループ	マックロー人形劇場「マックローの魔法」
12日	青年ボラ人形劇グループ	マックロー人形劇場「マックローの魔法」 パネルシアター「カレーライス」「ドラえもん」「おはようクレヨン」他
13日	青年ボラ人形劇グループ たけとんぼ	大型紙芝居「ごきげんの悪いコックさん」 大型絵本「ぐりとぐらのかいすいよく」 影絵「影絵クイズ」「歌のアルバム」 パネルシアター「カレーライス」「ふしぎなポケット」「おおきなかぶ」他
	婦人ボラ紙芝居グループ	大型紙芝居「ごきげんの悪いコックさん」 大型絵本「ぐりとぐらのかいすいよく」 影絵「影絵クイズ」「歌のアルバム」 パネルシアター「カレーライス」「ふしぎなポケット」「おおきなかぶ」他
	婦人ボラ影絵グループ 青年ボラパネルシアターグループ	大型紙芝居「ごきげんの悪いコックさん」 大型絵本「ぐりとぐらのかいすいよく」 影絵「影絵クイズ」「歌のアルバム」 パネルシアター「カレーライス」「ふしぎなポケット」「おおきなかぶ」他
15日	婦人ボラ紙芝居グループ 婦人ボラ影絵グループ 青年ボラパネルシアターグループ	大型紙芝居「ごきげんの悪いコックさん」 大型絵本「ぐりとぐらのかいすいよく」 影絵「影絵クイズ」「歌のアルバム」 パネルシアター「カレーライス」「ふしぎなポケット」「おおきなかぶ」他

(ウ) 開館記念特別期間

① 開館記念人形劇フェスティバル

日時：11月3日 ①13:00～ ②15:30～ 場所：B1フリーホール
 11月4日～5日 ①13:00～ ②15:00～

今回の人形作りワークショップはテーブルの上に材料と工具がおいてあるだけの簡素なものであったが、それがかえって来館者にとって立ち寄りやすい空間になったようである。スタッフは少なかったが、親子での共同作業が多くみられた。

	出 演 団 体	演 目
3日	HOPPY	「ワニに食べられた王様」「ゲタダンス」 「何ができるかな」「コーラス人形」他
4日	テアトル・ジアスターぜ	「しゃもじ王国とたわし大魔王」 「森もり森ものがたり」
5日	ぱねるっぱ	「カレーライス」「お誕生日」「私のワンピース」 「星の歌」「あひるのおさんぽ」

(エ) 冬休み特別期間

① クリスマス人形劇フェスティバル(12月23～27日)

今回は人形作りのコーナーはとりやめ、じっくりと見て楽しむ公演内容とした。内容もパネルシアター、影絵、人形劇、大型絵本と多彩だった。

	出 演 团 体	演 目
23日	ぱねるっぱ	「カレーライス」「私のワンピース」「まるいたまご」「たまねぎ」「星の歌」「おもちゃのチャチャチャ」「あわてんぼうのサンタ」
24日	テアトル・ジアスターぜ	「しゃもじ王国とたわし大魔王」「森もり森ものがたりⅡ」
25日	たけとんぱ	「オープニング」「ピエロとXmasツリー」「Xmasメドレー」他
26日	婦人ボランティア ローズ・ヴィチャーム	「くるみわり人形」「青いクツのショーン」
27日	劇団はてな	「ホニヤラの手紙」「ブッターマン誕生」

② 昔あそび(12月25日(日)～1月15日(月))

全館行事である「昔あそび大集合」のプログラムのうち、「見る」「作る」「あそぶ」のテーマの中で「あそぶ」プログラムをプレイホールと屋上ふしげが丘で展開した。プレイホールではめんこ、けん玉、すごろく、カルタなど、また屋上ふしげが丘では、こま、三馬、竹馬

III 各部の活動(1)

を用意した。できない子どもにはボランティアが指導し、楽しい活動となった。

(オ) 春休み特別期間

① 春休み人形劇フェスティバル（3月24日～4月1日）

今回の人形劇フェアは音楽事業部の「わいわいスタジオ」の枠で4階Bスタジオを会場に行った。

場所の問題からワークショップは行わなかったが、小劇場のような雰囲気が演出でき、それでいて舞台との一体感が強い空間となった。スタジオの音響や照明も多用し、劇効果もおもしろいものとなった。AV事業部の協力によりリアルタイムで館内テレビに放映した。

	出 演 団 体	演 目
24日	劇団夕焼け	「創作影絵キーウィ」
25日	テアトルジアスターぜ	「スリーリングで こわくて ザーッとするような それでいてわくわくするようなおもしろーい おはなし」
31日	劇団はてな	「トモキチのなんでも玉手箱」
4.1日	人形劇団空中分解	「たぬどんのはなし」

3) 講座・クラブ

(ア) パソコン教室

パソコン教室は、小学校高学年を対象とし、初心者のための「小学生パソコン教室Ⅰ」を4コース、その修了者のための「小学生パソコン教室Ⅱ」を2コース、計6コースを開講し

小 学 生 パ ソ ン 教 室 I カ リ キ ュ ラ ム	内 容
1 日 目	「パソコンの操作とロゴの基本命令」 キーボードの操作から、ロゴ言語で絵を書くしくみ。
2 日 目	「くり返し命令を使った図形」 くり返し命令を使い、多角形や円の作図を楽しむ。
3 日 目	「プログラムの作り方」 色々な命令を組み合わせて使い、図形を書くプログラムを作る。 また、フロッピーディスクの使い方
4 日 目	「プログラムの組み合わせ」 小さなプログラムを組み合わせ、大きなプログラムを作る。
5 日 目	「グループでの共同製作プログラム」 グループでみんなが協力して、大きなプログラムを作る。

2 プレイ

回	内 容
1	・復習（基本命令、エリアの意味、ツールボックスの使い方など） ・「変数」を使ったプログラム
2	・いろいろなくりかえしの方法（リピート、再帰呼出） ・条件文（IF文）の使い方 ・テンキーでタートルをうごかす方法
3	・ゲームでキャラクタを作る ・複数のタートルを動かす（マルチタートル機能） ・ゲームプログラム作り
4	・ゲームプログラム作り
5	・ゲームプログラム作り

た。コースⅠでは、パソコンの操作の基本から、グループでの共同作業によるプログラム作りをねらいとした。コースⅡではコースⅠで学んだことを土台にして、ゲームづくりのプログラムを楽しんだ。特に6月のコースでは、作ったゲームのプログラムをもっとおもしろくしたいとの要望が強く、夏休みにフォローアップ講習会を実施した。全期間を通し、子どもたちの自由で柔軟な発想でプログラムに取り組む姿が非常に印象的であった。

(イ) パソコン親子体験教室

このクラスは親と子が一緒になってパソコンの初步を体験するコースで、キーボードの操作からロゴ言語によるコンピュータグラフィックスを内容とした。親子が一緒になって新しいものに取り組めること、また子ども以上に親にとってもパソコンに対する理解を深めるよい機会となっている。今年度は11回実施し、延べ132人が参加した。

(ウ) パソコンクラブ

パソコンクラブには、小学校4年生から高校生までの約50人が所属しており、本年度は延べ1,107人が活動に参加した。プログラム作り、グラフィックス、コンピュータミュージック、ワープロとさまざまなパソコン活動に取り組んだ。クラブとしての催しは、城の全館行事であるこどもデパートに「パソコンチェック」「パソコン名刺」のお店を企画、出店した。

またこのクラブで育ってきた中学生が中心となり、自主的にメンバーに呼びかけ、プログラミング、ミュージック、ワープロの3つのテーマで下級生や初心者を指導する講習会を開くという新しい活動形態も生まれてきた。このような活動を通して、子どもたちが交流を深め、まだまだ十分とは言えないまでも、よい形の運営形態ができつつある。

4) グループ活動

昨年まで実施していたプログラムを再検討し、そのうち「コンピュータープレイゲーム」の実施をとりやめた。このプログラムは、障害児を対象に実施していたが、その他のプログラムで、かなりの重度の障害を持ったグループにまで対応できるようになったためである。

III 各部の活動(1)

今後もさらに多くのプログラムを開発し、より深く幅の広い対応を考えていきたい。

グループ活動実施状況	プログラム名	内容	実施回数
	グループクリエーション	歌やゲームやダンスの楽しい集い (幼児・小学校低学年向) ジャンケンバリエーションのゲーム大会 (小学校中・高学年向)	5回
	ファンタジックドラマ	参加劇活動 (幼児・小学校低学年・障害児に実施)	14回
	パソコン体験教室	ロゴ語をつかってのグラフィック作り、マウス という機器を作つての楽しいお絵書き (小学校中・高学年・及び障害児に実施)	7回
	大型遊具あそび	プレイホールに常設の遊具やその他、安全でダ イナミックに遊べる大型の遊具を使っての活動	
	プレイホール自由遊び	プレイホールやプレイポートの中で 自由に遊ぶプログラム	80回

5) その他の活動

〈次年度へ向けて〉

平常期間の活動の中で、多くなってきた反覆して来館する子どもたちに対しては、特に土曜日の「サタデープレイタイム」を幅広い遊びのクラブとして子どもたちと職員、ボランティアリーダーの活発な交流の場になるよう心がけていきたい。

一方、パートタイム・スタッフの養成・訓練も課題になる。

このスタッフはプレイホールやコンピュータプレイで職員活動の補助として、子どもたちと遊びながら、安全を守り、その年齢に見合った活動が展開できるよう指導助言することが主な役目である。

乳幼児から高校生までの幅広い年齢の子どもたちを対象とするわけであるから、教育や児童福祉といった、児童理解のための基本的トレーニングを積んでいる人が理想的である。また、専攻は違っていても、子ども好きな、子どもにより年齢の近い親しみのもてるお兄さん、お姉さんという存在であってほしい。

ところが、最近の傾向として、教育・心理・福祉といった学部の学生は、実習等を含む学校のカリキュラムが厳しくなり、採用が難しくなってきてている。そのため、いわゆる一般の学部学生の占める割合が高くなり、子どもたちに対して十分な対応をしてもらうためには、長時間トレーニングを行う必要が生じてきた。そのうえ、彼らの中には決められた仕事を決められたとおりにしたいといった、いわゆるマニュアル指向も強くなっている。

今後さらにこの傾向の強まることが予想されるが、マニュアルだけで対応するのではなく、子どもたちとの人間関係づくりを大切にしたいだけに、パートタイム・スタッフの養成・訓練についてのいっそうの配慮が必要になってきている。

3 造形事業部

3 造 形

(1) 元年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火	水	木	金	土	日
10:00						
11:00	プログラム準備	プログラム準備	グループ活動	グループ活動	来館児プログラム	クリエイティブクラブC
12:00						
13:00						
14:00	来館児プログラム	来館児プログラム	来館児プログラム	来館児プログラム	来館児プログラム	クリエイティブクラブB
15:00	子供と親Aの 造形教室	子供と親Bの 造形教室			クリエイティブクラブA	クリエイティブクラブB
16:00						
17:00						
18:00						

III 各部の活動(1)

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
光とあそぼうステップ1	4.11～5.7	開館時間中	造形スタジオ	スタッフ 指導員	
" ステップ2	5.9～6.18	"	"	"	
" ステップ3	6.20～7.2	"	"	"	
" ステップ4	7.4～20	"	"	"	
やってみよう、つくって みよう ステップ1	9.1～10.1	"	"	"	
" ステップ2	10.3～11.5	"	"	"	
" ステップ3	11.7～12.3	"	"	"	
" ステップ4	12.5～22	"	"	"	
木であそぼうステップ1	1.9～2.9	"	"	"	
" ステップ2	2.10～3.4	"	"	"	
" ステップ3	3.6～16	"	"	"	
第2回「遊びと造形発想」展	5.16～31	"	アトリウム・ ギャラリー		「遊びと造形発想 の会」との共催

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<夏休み> 造形発見展 「光と造形'89」	7.21～8.31	開館時間中	造形スタジオ アトリウム・ ギャラリー	スタッフ 指導員	
<開館記念> 第4回造形スタジオ展	10.31～11.26	"	アトリウム・ ギャラリー	"	
<冬休み> オープニング「やって みよう、つくってみよ う」	12.23～1.7	"	造形スタジオ	"	
<春休み> 素材との出 会い展「木と造形」No.3	3.17～4.8	"	造形スタジオ アトリウム・ ギャラリー	"	
<児童福祉週間> ひか るこいのぼりをつくろう	4.29～5.7	"	造形スタジオ	"	
<クリスマス> インディアンドン・クリ スマスツリーをつくろう	12.20～25	"	"	"	
<正月> 飛行機帆をつくろう	1.4～14	13:00～ 16:30	"	広井力氏 スタッフほか	(材料費500円)
<節分> きみも鬼に なってみないか! 「はっ ぱをうつそう鬼のつの」	1.30～2.4	開館時間中	"		
<ひなまつり> みんな でつくろう「ひなまつり」	2.27～3.3	"	"		
第1回国際ジュニアデザ インコンペティション展	3.25～4.2	"	フリーホール		(協力事業)

3 造形

3) 講座・クラブ等

名 称	対 象	人 数		曜 時 日 間	場 所	期 回 間 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 数						
子供と親の造形教室 A	5歳児と親	(組) 10	(組) 6	火曜日 15:00~16:00	造形スタジオ	4.18・25 5.9・16・23 ・30 6.6 (7回)	(円) 24,000	スタッフ 指導員	
" B	"	"	10	水曜日 15:00~16:00	"	4.19・26 5.10・17・24 ・31 6.7 (7回)	"	"	
こどもクリエイティブクラブA「たのしい造形<光>」	小1~	(人) 10	(人) 10	土曜日 15:00~16:30	"	4.15・22 5.13・20・27 6.3・10・17 ・24 7.1 (10回)	20,000	"	
" B 「アニメ体験」	小3~	"	2	土曜日 15:00~16:30	"	"	"	"	
" C 「わたしの宇宙空間」	小1~	"	10	日曜日 10:30~12:00	"	4.16・23 5.14・21・28 6.4・11・18 ・25 7.2 (10回)	"	"	
子供と親の造形教室 A	5歳児と親	(組) 10	(組) 5	火曜日 15:00~16:00	"	9.26 10.3・17・24 ・31 11.7・14 (7回)	24,000	"	
" B	"	"	9	水曜日 15:00~16:00	"	9.27 10.4・11・ 18・25 11.1・8 (7回)	"	"	
こどもクリエイティブクラブA 「版画で表現するⅠ」	小1~	(人) 10	(人) 10	土曜日 15:00~16:30	"	9.16・30 10.7・14・21 ・28 11.4・11・18 ・25 (10回)	20,000	"	
" B 「アニメ体験」	小3~	"	9	"	"	9.16・30 10.7・14・21 ・28 11.4・11・18 ・25 (10回)	"	"	
" C 「リサイクルアートⅠ」	小1~	"	7	日曜日 10:30~12:00	"	9.17・24 10.8・15・22 ・29 11.12・19・ 26・ 12.3 (10回)	"	"	

III 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 時 日 間	場 所	期 回 間 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數						
子供と親の造形教室 A	5歳児と親	(組) 10	(組) 4	火曜日 15:00~16:00	造形スタジオ	1.23・30 2.6・20・27 (5回)	(円) 17,000	スタッフ指導員	
" B	"	" 9	"	水曜日 15:00~16:00	"	1.24・31 2.7・14・21 (5回)	"	"	
こどもクリエイティブクラブ A 「版画で表現するⅡ」	小1~	(人) 10	(人) 10	土曜日 15:00~16:30	"	1.20・27 2.3・10・17 ・24 (6回)	12,000	"	
" B 「アニメ体験」	小3~	" 6	"	"	"	1.20・27 2.3・10・17 ・24 (補) 3.3・10 (6回)	"	"	
" C 「リサイクルアートⅡ」	小1~	" 3	"	日曜日 10:30~12:00	"	1.21・28 2.4・18・25 3.4 (6回)	"	"	
〈夏休み一日 造形教室〉									
プログラムA ・にじいろめがねをつくろう	小3~	80	70	火・水・木・金 曜日 10:30~ (1回目) 14:30~ (2回目)	"	7.25・26・27 ・28 (各日2回, 計8回)	1,500	"	
" B ・ひかるUF Oをつくろう	"	" 80	"	"	"	8.1・2・3・4 (各日2回, 計8回)	"	"	
" C ・動くかけの箱をつくろう	"	" 77	"	"	"	8.8・9・10・11	"	"	
" D ・ガラスのランプをつくろう	小3~	" 80	"	"	"	8.15・16・17 ・18	"	"	
" E ・色のはんしゃパネルをつくろう	"	" 74	"	"	"	8.22・23・24 ・25	"	"	
特別プログラム・光センサーでうごく動物をつくろう	小5~	20	15	月・火 13:00~16:30	"	8.28・29	3,000	"	
第2回遊びと 造形発想展・ 講演とワーク ショップ	一般	30	32		研修室	5.20	2,000	高山正喜 久氏	

(2) 造形事業部の活動

造形事業部は、前年度と同様に

- (1)一般来館児へのワークショップ活動
- (2)クラブ・教室活動
- (3)グループ活動

を中心にしてスタジオ運営を行った。

一般来館児のワークショップは、例年のように、年間の三本柱である造形発見展、オープニングスタジオ、素材との出会い展を、夏休み、冬休み、春休みの期間中に実施した。前年度のテーマを深め、さらに展開するというのが、今年度のそれぞれのワークショップの特徴である。「光と造形」「木と造形」「やってみよう、作ってみよう」は、スペースの運営の仕方やプログラムの構成など、今までの経験を生かし、展開できたように思う。

クラブ・教室活動は「子供と親の造形教室」「版画」「リサイクルアート」など、新しいプログラムを行い、ダイナミックな広がりを心がけた。

本年度からは、「季節行事」を重視し、特にプログラムを作成して、実行した。

1) 平常・特別期間

(ア) 光と造形

〔平常期間〕

光とあそぼうステップ1～4（4.11～7.20）

夏休み特別プログラム「造形発見展－光と造形'89－」に向けての準備プログラムとして「光とあそぼうステップ1, 2, 3, 4」を実施した。この期間には、前年の「光と造形」での制作プログラムの一部に、さらに検討を加えたもののほかに、新たに、透過光、反射光、蛍光、感光、影などの光の要素をもとに、子どもたちが造形することを通じて、それらを楽しく体験できるように考えられた制作プログラムも各種試行された。(a)「ひかるむしのワッペン」(b)「ひかるクルリン」(c)「UFOクルリン」は、幼児にも光の美しさや意外性が、体験できるように配慮されたプログラムである。いずれも、ブラックライトの点灯された暗い部屋の中で、白い紙や蛍光紙で張られたもの、蛍光スタンプ、クレヨンで描かれたもののすべてが光り輝く。(b)と(c)は、さらにそれに動きまで加わったものである。子どもたちは小部屋の中で、それまで見えていたものとは全く別物に変身した作品に、驚きと感嘆の声を上げた。

透過光を体験する制作プログラムとしては、(d)「ひみつのペンダント」(e)「コロコロをつくろう」(f)「インディアンドン」などが試行された。(d)は2つ折りの白い紙の間に絵を描いたり張り絵をしたもので、片側に作られたトレーシングペーパーの窓から、光に透かしながら見るペンダント。(e)はセロハンテープの芯の両側に、色セロハンやケント紙をピンと張り、裏側に強い光線が仕組まれた“コロコロマシーン”で転がして遊ぶ愉快な造形。(f)は4木の

自然木で組まれた枠に、裏返しにした張り絵をつなぎ合わせて張りつめ、その内側に点滅する光源を入れた光のオブジェ。反射光のプログラムとしては(g)「ミラーバッジ」(h)「はんしゃめがね」(i)「いろいろな光のチューブ」、光と影のプログラムとして(j)「まわるかけえ」(k)「かけとあそぼう」などが試行された。いずれのプログラムともオリジナルのユニークなもので、特別な技法や用具を使わずとも、子どもたちが光の美しさ、不思議さを十分に感じられるように、さまざまな面で検討が加えられた。また、この期間には、夏休み特別期間に向けての環境設定のための準備も、試行錯誤を繰り返しながら、併せて行われた。

〔特別期間〕

造形発見展「光と造形'89」(7.2~8.31)

前年度に引き続き、造形発展のテーマを〈光と造形〉とした。今回は1階、2階のギャラリーから3階のロビーまでを“展示・体験のコーナー”，3階の造形スタジオを“制作コーナー”とし、全体が大きな流れをもって一体となり、それぞれの要素が有機的に関係づけられるよう構成された。

(1)展示・体験コーナー=入り口には、巨大な布製のエアードームの「白のトンネル」(直径2m、全長約20m)が設置された。内部を通り抜けることで、鏡面の反射光、ストロボ光、各色の照明光、動く映像、レーザー光、光のモアレなどの、さまざまな種類の光に会える装置が仕掛けられた。一瞬前の自分の全身の姿を、影の形に残して遊ぶ「光のかべ」は、前年よりもさらに広いスペースをとって再制作された。数十本のブラックライトの取り付けられた「黒のトンネル」には、子どもたちが制作した“ひかるむしのワッペン”などの作品が壁一面に張られた。2階から3階への誘導のために、子どもたちの共同制作による“インディアンドン”的展示や、階段全体を色光で染める試みも行った。造形スタジオ入り口には、子ども自身が光を操作して遊べる「光のステージ」も制作、設置された。いずれの装置とも好評で、2度3度と繰り返し体験する子どもも多かった。

(2)制作コーナー=スタジオ内は、大きく①「子どもと親でつくるコーナー」と②「子どもだけでつくるコーナー」に分けた。①では、「はんしゃめがね」「ひかるむしのワッペン」「ひかるクルリン」「UFOクルリン」を、②では「ひみつのペンダント」「ミラーバッジ」「ひかりのてんびょう」「うごくかけえ」「ひかりのうつしえ」(以上小1~)「コロコロをつくろう」(小2~)「いろいろな光のチューブ」「まわるかけえ」(以上小4~)の制作プログラムを実施した。多数の来館者で、スタジオ内はしばしば混雑をし、子どもたちの制作に支障がないように、やむをえず入場制限を行うこともあった。

(3)一日造形教室=期間中の火曜日から金曜日には、小学校3年生~中学校3年生を対象とした有料の一日教室を開催した。「にじいろめがね」「ひかるUFO」「動くかけの箱」「ガラスのランプ」「色の反射パネル」のほか、特別プログラムとして、小学校5年生以上を対象とした「光センサーでうごく動物」を実施した。いろいろな素材で造形することで、〈光〉との出会いをさらに深められるプログラムであったが、予定した時間を大幅に超えてしまうことがたびたびあった。毎回その内容についてはユニークなものと好評で、定

員に対する参加率は90%以上と高率だが、いま一度、制作時間と内容や受け付け方法などについて検討する必要があるようだ。

(4)イベント・ミニワークショップ＝期間中の土曜日と日曜日には、光をテーマに活動を行っているアーチストたちによる次のようなイベント・ミニワークショップを行った。森脇裕之氏による「レーザー光であそぼう」、田中清隆氏による「変形ミラーボールをつくろう」、IKIFによる「光のシートであそぼう」、松村泰三氏による「ストロボ光であそぼう」身近な素材や簡単な技法で子どもたちの手によって作られたものが、アーチストの扱う器材や環境のもとで一変して、魅力的で不思議な世界となる体験を行った。

(イ) オープンスタジオ

[平常・特別期間]

「やってみよう、つくってみよう」ステップ1～4（9.1～12.22）、冬休み
オープンスタジオの基本的な考え方は過去4年間行ってきたものと変わらず、子どもたちが素材・道具・技法の関係を分かりやすく体験できるように設定したワークショップである。今回は、今までのオープンスタジオのプログラム（'86「やってみよう、つくってみよう」）（'87「造形ジャングル」）（'88「かお」）の内容を再構成した。また、造形発見展、素材との出会い展、こどもクリエイティブクラブのプログラムで、オープンスタジオに活用できるものは生かして実施した。各プログラムは単に繰り返し行うのではなく、それまでに実施した内容を検討し、より子どもに密着した形で実施した。今回は統一テーマを特に掲げなかった。しかし、紙、木、毛糸、パラフィン、アルミ板、針金、廃材などの素材を体験・制作できるように環境を設定した。以下が実施プログラムである。

「糸版画」「から刷り」「紙ダイコ」「バッジをつくろう」「ストローウィーヴィング」「紙で生き物をつくろう」「アルミバッジをつくろう」「カードをつくろう」「ジグソーパズルをつくろう」「ろうそくをつくろう」「モビール」、そしてクリスマスイベントとして12月12日から24日まで共同制作の「型染めツリー」を実施した。

また、冬休み期間における子どもたちの利用形態を考察した結果、冬休みは特別な企画を行うよりも、夏休み以降試行してきたプログラムをスタジオでまんべんなく行うほう、子どもにとって親しめるのではないかと考えた。

そのような理由で、本年の冬休み特別期間は上記のプログラムをコーナー別、時間帯などに分けて全プログラムを展開した。

(ウ) 素材との出会い展「木と造形」No.3

[平常・特別期間]

「木であそぼう」ステップ1～3（1.9～3.16）、春休み

素材を通して、造形することの意味を考えていくのが「素材との出会い展」である。造形スタジオが特に素材を重んじる理由は、材料は造形という狭い分野のみならず、生活の中で非常に大切ななものであり、子どもたちに広義の材料の重要性と狭義の造形の中の素材について考えてもらいたいという希望から発生しているからである。つまり木を素材の木としてだ

け考えるのではなく、自然と人間が共生していくために大切な物質なのだという点を体験させることが主眼であった。

昭和62年から3年計画で、春休み期間中に実施してきた「木と造形」展の最後のワークショップである。身近にあった木との出会い、いろいろな造形的木の楽しみ方が今回のテーマである。ギャラリーに小さい子どもたちが体験できる木や枝のプログラムを、そしてスタジオには、木から1つのものをコツコツと作り上げていくプログラムを実施した。東京の真ん中でやむをえず切られることになった樹齢200年の櫻(けやき)を、みんなで使い、それぞれに違った形で再生させようとする動きが《一本の樹》プロジェクトになった。たくさんの子どもが訪れる利点を生かし、より多くの子どもたちに身近な樹の存在と自然との出会いのきっかけになれば、と造形スタジオも参加した。1月から3月まで、「葉っぱのフロッタージュ」「木のカード」「はっぱむしのペンダント」「葉っぱの版画」「小枝とねんどでつくろう」「はっぱのワッペン」など、櫻の小枝や葉っぱを材料にした作品が、子どもたちの手で作られていった。

それらは春休み特別期間にギャラリーに提示し、制作に参加できなかった子どもたちも、見ることを通して自然と造形の世界の出会いを体験した。そのほか、木の皮で染めたテントや小さな魚で釣り遊びをし、「木」との出会いも楽しいごっこ遊びの中に溶け込んでいた。スタジオの「木でつくろう」では、部屋いっぱいにのこぎりやかなづちの音が威勢よく鳴り響く。小学校1年生から参加できる。最初、のこぎりに慣れず、なかなか1本の枝が切れずにいても、作りたい物の形が少しずつ現れてくるころになると、のこぎりやかなづちの音もリズミカルになってくる。そのときは、子どもたちの手も道具になじんでみえてくる。参加名簿に名前を記入するときには、緊張ぎみだった子どもも、制作の場に溶け込んで大工気どりったり、最初に勢いのよい男の子も予想と反して手ごわい木との対決に謙虚になり始めたり、子どもたちは自らでそれぞれの経験を獲得していったようだ。

(エ) 季節行事

「こども歳時記」として、特に次のような催しを行った。

(1) 児童福祉週間「ひかるこいのぼりをつくろう」

子どもと親のコーナーで、頭にかぶるこいのぼりの制作を行った。“光とあそぼう”のステップ期間中でもあり、光の要素を制作内容に取り入れた。

(2) クリスマス「インディアンドン・クリスマスツリーをつくろう」

自然木の枝で作った四角錐の骨組みに、子どもたちがクリスマスにちなんだ張り絵を行い、内部に点滅する光源を仕組んだ。また、オープンスタジオの高学年コーナーでは、布に型染めの技法により、同様の「ホワイトツリー」を制作した。

(3) お正月「飛行機帆をつくろう」

創作帆の制作や研究をされている彫刻家の広井力氏の指導により、飛行機帆を制作するワークショップを行った。ギャラリーでの帆の展示に併せた関連企画である。2日間で延べ50人の児童が参加、4時間近くかけて全員が、大きな飛行機帆を完成した。

(4) 節分「はっぱをうつそう 〈鬼のつの〉」

子どもと親でつくるコーナーで「きみも鬼になってみないか！」と呼びかけ、鬼のツノの制作を行った。スタジオ入り口には、大きな鬼の顔のゲートを制作し導入部とした。

(5) ひなまつり「はっぱのもようのおひなさまをつくろう」

節分と同様の方法で、葉っぱの模様のついたケント紙のひな人形を制作した。入り口のゲートには、かわいらしいダンボール製のおひなさまも飾られた。

2) 講座・クラブ

① 子供と親の造形教室 [A, B] (4~2月)

親と子（5歳児）による造形遊び体験の教室である。

線で描く、紙で遊ぶ、木に釘を打つ、などのテーマを親と子のグループに分け、別々に体験する。親は子どもと同じ体験をすることによって、子どもの自由な創造する心の大切さを知る。親たちは、子どものように素直に描き、作ることができないことを実感するのである。

型染めのカレンダーは親子が協力して作るプログラムである。布にそれぞれの月の季節感を出すように工夫しながら図柄を決める。親子で何月を担当するかを相談し決めていく。制作過程も、制作後も、新しい1年を通して親子の協力を象徴するものである。

新聞紙、牛乳パックや紙すきによって豊かな「紙」体験をしたプログラムである。通常は、大人の豊富な経験によって、子どもに対して教える立場になることが多い。しかし、紙すきやハガキ作りに関しては、スタートが同じということで、母親は真剣そのもの。神経を集中させなくては、繊細な紙との対話ができないことを体験し、「子どもの気持ちが分かります」との母親の感想も聞かれた。

親子で陶芸板の体験もした。10cm×10cmの大きさに、粘土の形をとり、その上に、レリーフをほどこしたり、絵を描いたり、あるいはスクラッチしたりして、窯で焼く。乾いて焼けたときの色や感触の違いが、視覚的な楽しさとともに味わえたプログラムであった。

② こどもクリエイティブクラブ

「たのしい造形〈光〉」(4~7月)

日常なにげなく見過ごされている“光”を改めて見つめ直し、その美しさや、不思議さに気付くことから始め、“光”を造形のきっかけや道具として利用しながら、子どもたちは楽しく制作を行った。1回目には館内とその周辺をめぐり、自然や人工によるさまざまな光の様相を探検した。引き続き、和紙に張り絵をし、その裏側に光源を仕組んだ「光のオブジェ」。アルミ板に鍛金の技法でバッジを作り、その表面に2個の点滅ムギ球を取り付けた「光るアルミバッジ」。スクリーントーン、セロハン、マーカーでOHPフィルムに絵を描き、大きく映写した「光のかみしばい」。20cm×20cmの板の上に白い紙粘土で風景を作り、数個の豆電球を埋め込み、その中央に円筒鏡を置いた「光のジオラマ」などを制作した。それぞれの制作プログラムには、透過光、反射光、光と影などの要素が含まれており、また、電気の知識が必要な場面もあったが、それらは、造形することの楽しさの中に溶け込んで、自然な形で体

験されたようだ。

「アニメ体験」(I期4~7月・II期9~11月・III期1~3月)

「アニメ体験」では、子どもの体験が深まると、それぞれに個性を伴う方向に広がっている。I期は今までに経験のない子どもたちのみ、II期は経験のない子どもたち、前回の参加者、および昨年一年間継続して体験していた子どもたちが参加した。体験内容から3グループに分かれた。III期には、II期に長い作品を手がけ始めた子どもたちが継続して参加した。〈動く〉ことを簡単な2枚の絵から経験し、ストーリーぱたぱたアニメの制作など、活動内容は第1回目からの基本を子どもの性格と制作速度によって臨機応変に変化させながら、進めていった。3年生の子どもたちは自由な発想から正に自在に物を動かす制作風景である。経験年数も2年になる6年生の子どもたちは、動きやストーリーにその子どもたちなりの計画や計算によって、機知に富んだユーモアのあるものが生まれていった。アニメの制作は、ひとコマひとコマを動かすことという一見単純作業のようでありながら、その過程で試行錯誤のきっかけを得てイメージの世界を具体化させることができるようである。

「わたしの宇宙空間」(4~7月)

身の回りにある小さな物、例えばガラスコップやサラダボールの中に粘土や小枝で空想の宇宙をつくる。日ごろ見慣れたものと、子どもたちのイメージするものとの出会いが、見る者すべてに新鮮な驚きを引き起こす。それは、指導者がイギリスパンの中に小さな部屋を作ったり、使い古しの電話帳をくりぬいて外見とは全く違った世界を示してあげたときの子どもたちの驚きに勝るとも劣らない。

子どもたちはその体験を今度は、フレーム4つに段階別の風景や情景を粘土で作り、ボックスに収めることによって、より意識的な自らの宇宙を想像し、創造するのである。恐竜であったり、昨日耳にした「おいもー、えー、おいも」の声に触発されたものであったり、雪景色であるなど、直感的な発想から素材と道具と子どもの手によって具体化される世界は、意外にも鮮明である。

「版画で表現する」(I期9~11月、II期1~2月)

版面にボンド糊でさまざまな素材をコラージュのように固定して版をつくり、白の紙に黒のインクで刷るコラグラフ。

インクの色を変えたコラグラフで刷り上がった面にリトグラフで重ね刷りする併用版。

磨き上がった銅版の上を専用のビュランなどで彫って版をつくるドライポイント。

これらはすべてB3判の大きさで、子どもたちは、技法を十分に駆使できなくても、制作意欲は自由に働く。さらに、子どもたちは自由に手を動かし、指導員をびっくりさせるような個性的な表現を生んでいった。

「リサイクルアート」(I期9~12月、II期1~3月)

毎日コーヒー、ジュースなど、たくさんのかんやびんが捨てられている。それを生かして作品をつくる「リサイクルアート」をクラブの1つに加えた。I期とII期のテーマは金属とガラス。材料はジュースのかんやびんのふた、お菓子のかん箱など、身近にある廃品物を素

3 造形

材にした。子どもたちはジュースのかんを大きなハンマーでたたきつぶしたり、金切りばさみで切ったり、制作するための素材づくりの過程で金属の特徴である“硬さ”を実感した。ガラスを使ったものでは、ガラスびんの中にねじや釘など、好きなものを入れ、そのまま窯で溶かした。溶けて思わぬ形に変身するビンは個性的で、その意外性を子どもたちは楽しんでいた。そのほか、割れたガラスを並べて動物やおもしろい形に並べて溶かしたり、彩色してランプシェードを作ったりした。家庭で使わなくなった物も使い方によっては、驚くような展開を示し、リサイクルからアートの世界へと広がっていく。

3) グループ活動

「かげをうつそう」「木をつくろう」とも、初年度から実施しているものである。参加する子どもたちの環境や行動を前もっての打ち合わせによって把握し、さらに、当日の子どもたちの様子や雰囲気によって、指導者が柔軟に対応した。

4) その他

① 第4回造形スタジオ展（10.31～11.26）

例年どおり、造形事業部の活動をより多くの人々に知ってもらうために「第4回造形スタジオ展」を企画した。

前年実施したオープンスタジオ「顔」、素材との出会い展「木と造形No.2」、造形発見展「光と造形'89」とこどもクリエイティブクラブの作品展示で構成した。今回は、特に各プログラムをより分かりやすく理解してもらうためにテーマ説明や内容のキャプション作りをし、これによって造形スタジオのコンセプトがより明確に提示できた。また、こどもクリエイティブクラブの作品に力作が多く見受けられ、それに対する反響もあり、興味深く見入っている親子連れの姿が目立った。

② 遊びと造形発想展（5.16～31）

元筑波大学教授高山正喜久氏を代表とする「おもしろ発想の会」との共催で行った展覧会である。氏の30年間にわたる教職の実践活動から得られた造形指導の全貌を3回にわたって展開する第2回目の催事であった。平面から立体を構成していく学生たちのさまざまな習作が展示された。氏は、その実践教育の中で造形における立体の構成力が非常に大切であることに早くから着目し、学生たちの実力養成のために課題を出した。それにこたえた作品の集大成が本展である。

造形事業部が日ごろ試行している領域と隣接しているところもあり、共催で事業を行った。なお、本展を見に造形教育関係者が1,000人ほど来館したが、このことは「子どもの城」にとって、極めて有意義であった。

4 音楽事業部

III 各部の活動(1)

(1) 元年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	スタジオ		ロビー	スタジオ		ロビー	スタジオ		ロビー	スタジオ		ロビー
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
10:00												
11:00												
12:00												
13:00												
14:00												
15:00	リーズ ビングA	リーズ ビングB	一般来館 プログラム	（グループ活動） （施設貸与）	（AV） ビデオアミリー （施設貸与） （グループ活動） （施設貸与）	（AV） ビデオアミリー （施設貸与） （グループ活動） （施設貸与）	（AV） 母と子のビデオ 教室	（AV） おもしろ 館	一般来館 プログラム	合唱団I	合唱団II	シンセ日曜コースI
16:00	リーズ ビングB	リーズ ビングA	一般来館 プログラム	（AV） おもしろ 館	（AV） おもしろ 館	（AV） おもしろ 館	（AV） おもしろ 館	（AV） おもしろ 館	合唱団II	合唱団I	シンセ日曜コースII	ガムラン
17:00	リズム カッピング	アーバン カッピング	アーバン カッピング	（AV） おもしろ 館	（AV） おもしろ 館	（AV） おもしろ 館	（AV） おもしろ 館	（AV） おもしろ 館	合唱団II	合唱団I	ガムラン	シンセ土曜コース
18:00												
19:00												
20:00												
21:00												

4 音 樂

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
音はともだち (いろんな楽器さわってみよう)	元年4月～ 2年3月	開館期間中	音楽ロビー	(人)	
アフリカン・タムタムで あそぼう 元気がでるリズム！	9月～3月 毎週日曜日 ・祝日	14：30	"		
ほっとひといきコンサー ト	9月～3月 毎週土・日 曜日・祝日	16：00	"		
童謡の日プログラム 「うたのお姉さんがやっ てくる」	7.2	13：00 15：00	"	外部ゲスト 3	
みんなでひなまつり	3.3・4	14：00～16：30 (土) 11：30～16：30 (日)	"		
<わいわいスタジオ> スライド劇場・14匹の朝 ごはん	4.16	13：30 15：30	音楽スタジオ B		
リズムは友達パート10	" 23	"	"	外部ゲスト 5	
スライド劇場・14匹の朝 ごはん	5.21	"	"		
ギターは小さなオーケス トラ	" 28	"	"	外部ゲスト 1	
インドの国からこんにち わ	6.18	"	"	"	
おもしろ楽器がせいぞろ い	9.3	"	"	外部ゲスト 2	
アンクルンで聴く南国の歌	" 10	"	"		
絵かき歌であそぼう	10.1	"	"		
「アンデスのフォルクロ ートコンサート」	" 29	"	"	外部ゲスト 3	
「これは楽しい太鼓のリ ズム」	11.12	"	"	外部ゲスト 2	
「パークッション・コン サート」	" 23	"	"	外部ゲスト 4	
中国の笛	" 26	"	"	外部ゲスト 1	
おはなし劇場	1.21	"	"		
これは楽しい太鼓のリズム	" 28	"	"		
おもしろ楽器せいぞろい	2.18 " 25 3.21	"	"		
サンバでカーニバルオ ッパ！	3.4	"	"	外部ゲスト 5	

III 各部の活動(1)

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<春休み> いも虫じゃんけん大会	3.26～4.2	11：00～ 15：00～	音楽ロビー	(人)	
サンバでポン！	" 30～4.2	13：00～ 16：00～	"		
みんなでアンクルン	" 26～29	"	"		
わいわいスタジオ 春休みスペシャル 「日本の弦楽器」	" 26	13：30～ 15：30～	音楽スタジオB	外部ゲスト 4	
ぼくらのサウンド'89 バリ島のむかしばなし	4.3	15：00～ 16：30～	円形劇場		
ドラゴンクエスト組曲	" 4	15：30～ 17：00	"		
日本のうた・四季	" 5	13：00～ 15：30～	"		
<児童福祉週間> キャッスルクエスト'89	4.29～5.5	11：00～17：30	音楽スタジオA 音楽スタジオB 音楽ロビーほか		(企画部ほか合同行事)
<夏休み> みんなでうたおう 「うたはともだち」	7.21～31	11：00 14：00 16：00	音楽ロビー		
サンバでポン！	" 21～8.20	15：00	"		
わいわいスタジオスペシャル 「これはたのしい太鼓のリズム」	" 21～23	"	音楽スタジオB	外部ゲスト 2	
うきうきポルカコンサート	" 21～8.31	10：30 12：00 14：30	"		
ほっとひといきコンサート	" 21～8.31	13：30 17：00	"		
おもしろ楽器せいぞろい	" 21～8.31	11：30 16：30	"		
アフリカンタムタムであそぼう 「元気のでるリズム！」	8.1～20	11：00 14：00 16：00	"		
みんなでサンバ 「夏のおわりはカーニバル」	" 22～31	11：00 14：00 16：00	"		
ためになるなる「楽器クイズ大会」	" 22～31	15：00	"		
ミニミニおはなし劇場	" 9	15：00	"		
楽器体験コーナー	" 1～31	11：00～17：30	音楽スタジオA		
手作り楽器をつくろう	" 8～20	13：00 15：00	"		

4 音 樂

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
わいわいスタジオスペシャル 「怪談」	8. 25~27	13:00 15:30	音楽スタジオB	(人)	
<開館記念> 「マックローとうたおう」	11. 3	14:00	音楽ロビー		
「うたはともだち」	" 5	"	"		
「のりのりどうようコンサート」	" 3・5	11:30 13:30 16:00	"		
<冬休み> クリスマスソングコンサート	12. 23~25	14:00 15:00	"		
うたってボカボカ	" 26~28	14:00 16:00	"		
たいこがいっぱい 「太鼓まつり」	1. 3~7	10:00~17:30	"		
おもしろたいこコンサート	"	13:30 15:30	"		
たたいてみよう世界のタイコ	"	13:00 14:30 16:30	"		
わいわいスタジオスペシャル 「ユースバンドのクリスマスコンサート」	12. 17	13:30 15:30	音楽スタジオB		
" 「ハートフルクリスマスコンサート」	" 23・24	13:30 16:30	"		

3) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 時	日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員	受講数							
リズムムービング A	3・4 歳	(人) 15	(人) (1)15 (2)16 (3)15	火曜日	14:00~15:00	音楽スタジオA	(回) (1)4. 11~7. 18 (全13回) (2)9. 5~12. 19 (全15回) (3)1. 9~3. 13 (全8回)	(円) 11,000 12,000 7,000	柳沼 輝子 米原 敬子 (代理河辺 桐子)	
" B	5・6 歳	20	(1)19 (2)20 (3)19	火曜日	15:00~16:00	"	"	"	"	
リズム・ムービング&パークッション	小1~4年	"	(1)18 (2)18 (3)15	火曜日	16:15~17:15	"	"	"	"	

III 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 時	日 間	場 所	期 間 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數							
パー カッ ショ ン・アンサン ブル	小 4 ~ 中 3 年	(人) 15	(人) (1)17 (2)16 (3)15	火曜日	17:30~19:30	音楽ス タジオ B	(回) (1)4.11~7.18 (全13回) (2)9.5~12.19 (全15回) (3)1.9~3.13 (全8回)	(円) 16,000 19,000 10,000	柳沼 輝子 米原 敬子	
おかあさんも いっしょ リトミック I	3 ~ 5 歳	(組) 20	(1)21 (2)16 (3)16	水曜日	13:30~14:30	音楽ス タジオ A	(1)4.12~7.19 (全12回) (2)9.6~12.20 (全15回) (3)1.17~3.14 (全9回)	13,000 16,000 10,000	吉村 温子 川口あづさ	
" リトミック II	"	"	(1)16 (2)17 (3)16	水曜日	14:30~15:30	"	"	"	"	
" リトミック III	"	"	(1)13 (2)" (3)12	水曜日	15:30~16:30	音楽ス タジオ B	"	"	"	
" リトミック初 級	"	"	(1)17 (2)20 (3)19	木曜日	13:00~14:00	音楽ス タジオ A	(1)4.13~7.20 (全12回) (2)9.7~12.21 (全15回) (3)1.11~3.15 (全9回)	"	"	
シンセサイザ ー&コンピュ ータ・ミュ ージック 土曜日コース	小 5 ~ 高 3 年	(人) 8	(1)10 (2) (3)	土曜日	16:00~18:00	シンセ サイザ ー室	(1)4.8~7.8 (全12回) (2) (3)	19,000	岩下 哲也	
シンセサイザ ー&コンピュ ータ・ミュ ージック 日曜日コース I	"	"	(1)9 (2)7 (3)6	日曜日	14:00~16:00	"	(1)4.9~7.16 (全12回) (2)9.10~12.17 (全15回) (3)1.14~3.18 (全9回)	19,000 23,000 15,000	"	
" 日曜日コース II	"	"	(1)8 (2)7 (3)"	日曜日	16:00~18:30	"	"	"	"	
合 唱	小 1 ~ 4 年	30	(1)19 (2)18 (3)17	水曜日	16:30~18:30	音楽ス タジオ B	(1)4.12~7.19 (全12回) (2)9.6~12.20 (全15回) (3)1.17~3.14 (全9回)	13,000 16,000 10,000	吉村 温子 川口あづさ	
三味線 I	小 5 ~ 高 3 年	12	(1)7 (2)12 (3)"	日曜日	10:00~11:15	音楽ス タジオ A	(1)4.16~7.16 (全12回) (2)9.3~12.17 (全15回) (3)1.14~3.18 (全9回)			

4 音 樂

名 称	対 象	人 数		曜 時	日 間	場 所	期 間 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數							
三味線Ⅱ	小3～高3年	(人) 8	(人) (1)7 (2)〃 (3)〃	日曜日	12:30～13:45	音楽スタジオA	(回) (1)4.16～7.16 (全12回) (2)9.3～12.17 (全15回) (3)1.14～3.18 (全9回)	(円) 15,000 19,000 11,000	田島 佳子 川原江里子	
" III	"	6	(1)6 (2)5 (3)〃	日曜日	11:15～12:30	"	"	"	"	
ガムラン	小4～中3年	10	(1)9 (2)12 (3)11	日曜日	13:30～15:30	音楽スタジオA	(1)4.9～7.16 (全12回) (2)9.10～12.17 (全15回) (3)1.14～3.18 (全9回)	15,000 19,000 11,000	田村 史子 中村 美郁	
和太鼓グループ	小3～高3年	12	(1)7 (2)9 (3)8	水曜日	17:00～19:00	"	(1)4.12～7.12 (全12回) (2)9.13～12.20 (全15回) (3)1.17～3.14 (全9回)	12,000 15,000 9,000	川島 佑介	
児童合唱団I	小2・3年	30	(1)32 (2)31 (3)30	土曜日	14:30～16:30	音楽スタジオB	(1)4.15～7.22 (全12回) (2)9.2～12.16 (全15回) (3)1.13～3.10 (全9回)	13,000 16,000 10,000	吉村 溫子 川口あづさ	
" II	小4～中3年	60	(1)63 (2)56 (3)53	土曜日	16:30～18:30	"	"	"	"	
ユースバンド	小5～高3年	28	(1)19 (2)20 (3)19	日曜日	10:00～12:00	"	(1)4.9～7.16 (全12回) (2)9.3～12.17 (全15回) (3)1.14～3.18 (全9回)	18,000 23,000 13,000	山本 武雄 山本真理子 三田村 健 (代理大田聰)	
ガムラン・グループ	小4～高3年	15	(1)10 (2)9 (3)〃	日曜日	15:30～17:30	音楽スタジオA	(1)4.9～7.16 (全12回) (2)9.3～12.17 (全15回) (3)1.14～3.18 (全9回)	15,000 19,000 11,000	田村 史子 佐々木美奈子	
混声合唱	高校生以上	"	(1)10 (2)11 (3)〃	土曜日	18:30～20:30	"	(1)4.15～7.22 (全12回) (2)9.2～12.16 (全15回) (3)1.13～3.17 (全9回)	13,000 16,000 10,000	吉村 溫子 川口あづさ	
おとなためのガンラン	"	"	(1)20 (2)17 (3)16	日曜日	17:30～19:30	"	(1)4.9～7.16 (全12回) (2)9.10～12.17 (全15回) (3)1.14～3.18 (全9回)	18,000 23,000 13,000	田村 史子 福沢 達郎	

(2) 音楽事業部の活動

開館4周年を迎えた平成元年度事業は、講座・クラブに関しておおむねこれまでの大枠を継承し、その充実進展を図ることを基本としたが、一般来館児対応（主にロビー活動）において新たな展開を見ることができた。

平成元年度の事業は次のように大別される。

(a) 一般来館対応事業

- ①音楽ロビー活動
- ②日曜・祝日イベント
- ③特別期間プログラム
- ④全館・他部合同プログラム
- ⑤音楽特別セミナー

(b) メンバー対応事業

- ⑥音楽講座・クラブ活動
- ⑦子どもの城外での活動

(c) グループ活動

(d) その他 音楽施設レンタル業務

音楽事業の3本柱の1つである講座・クラブに関しては、今年度は大きな手は加えず、一般来館者対応の中心であるロビー活動に、以前にも増して、力を注ぎ、また、その成果が今までにないほど良い形で現れた年といってよいだろう。夏休みを中心に行ったプログラム「アフリカ、タムタムコンサート」「ホッとひといきコンサート」などがメインプログラムとして夏を過ぎても存続し、それらがグループ活動や全館事業などのさまざまな事業に形を変えて発展している。これは職員の共同作業によって生まれたオリジナルプログラムであるからだと考えられ、平成2年度もより充実・発展を図る。

講座・クラブは依然として受講者数の偏り、クラスの細分化、グレード分けなど多くの問題を抱えているが、参加児童の充足度受講者の定着性では着実な成果が出ている。

ユースバンド、ガムラン、和太鼓、三味線、合唱が外部主催の催しに出演し、平常講座時間では得られない貴重な体験をした。

今年度の事業で全くの新規はなかったが、サマーセミナーで、対象を小・中学校の先生に絞り、1日1種3日間を1コースとし、よりねらいのはっきりとした設定を試み好評を得た。

そのほか、他部と協力して行った事業に関しても、前年以上の良いスタイルが確立された。特に前年度から実施した児童福祉週間ににおける「キャッスルクエスト」は、音楽的部分をより消化しまとめながら、全体として企画部マターの事業として成功しゴールデンウイーク恒例のメインプログラムとなった。

1) 平常期間

〈音楽ロビー活動〉

音楽ロビーは一般来館児が常に音の遊びができるメインのスペースである。昨年までは「カムカム劇場」など、鑑賞型のプログラムが多く、来館児童が触れられる楽器類も少なかった。今年度は夏季特別期間を境にプログラムの種類も増え、より音楽に対して能動的な活動ができる場となってきた。常備される楽器類のうち、今年度のメインとなったのはオイル缶にテント布を張った「手作りタムタム」約60個である。1歳児～小学校高学年までそれぞれ違った楽しみ方ができ、ロビー全体が明るくにぎやかな雰囲気となった。

① 音はともだち～いろんな楽器やってみよう（平常期間毎日・開館時間中）

平日は幼児対象のプログラムとして、童謡・アニメソングなどの演奏に合わせて自由に楽器を演奏する「音はともだち」が年間通してのベーシックなものとなった。昨年度は平日も「世界の音楽」をテーマとしたが、今年度は幼児を中心になじみやすい音楽を提供するとこし、常に楽しい音楽が流れ、自然に音楽に参加でき、その中で幅広いコミュニケーションが得られることを目的とする最も基本的な導入プログラムとして位置づけた。スタッフが演奏するのは、シンセサイザー、マリンバ、サックス、トランペット、フルート、アコーディオン、ドラムスなどに加え、民族楽器やパーカッション類も活用した。子どもたちは、クルクル、手作りタムタム、シロフォン、ガンザ、カスタネット、鈴、タンバリン、ボンゴ、コンガなどを演奏した。その中にはふだんあまり見ることのできない楽器もある。それらの楽器によって幅広い年齢の子どもたちが外国の友達も一緒に同じ空間で同じ音楽を楽しむところは、子どもの城ならではの活動状況といえるだろう。

音楽の特徴を年齢などもさまざま一般来館児の対応に良い形で生かす1つの試みである。ここではスタッフは単なる演奏者ではなく、積極的に子どもに働きかけ、音楽を通じ子ども同士や親子のコミュニケーションをコーディネイトする役目を果たすよう心がけた。

今年度はこのような音楽環境づくりや演奏面は、ほぼ整理されてきたと思われるが、イベントを実施しているとき以外の子どもと音楽を結ぶフリーな形のスタッフ個々の役割という点では、まだ完成されたとはいえない。これはスタッフそれぞれの資質に頼る部分が大きいが、個性を生かし、音楽と子どもの出会いをより良くサポートできるよう努力したい。

また、来年度へのもう1つの課題は、平日各曜日ごとにテーマを決めたメインプログラムの実施である。「音はともだち」を導入とし、次の段階として「手遊び・歌あそび・絵かき歌」、「手作り楽器」、「ミュージックシアター」など、目的別プログラムを定期的に実施することが必要と思われる。

② 元気がでるリズム～アフリカンタムタムであそぼう！（毎週日曜・祝日、9～3月）

夏季特別期間のメインプログラムとして新たに開発されたもので、9月以降の平常期間も毎週日曜・祝日に行い、来館者からのリクエストもでる人気プログラムとなった。

(詳細は夏季特別期間参照)

③ ほっとひといきコンサート (毎週土曜・日曜・祝日, 9~3月)

これも夏季特別期間に実施し、その後も9月から毎週土曜・日曜・祝日に行った。内容はいろいろな楽器のミニ・コンサート。

(詳細は夏季特別期間参照)

④ みんなでひなまつり (平成2年3月3・4日)

ひなまつりの季節行事としてプレイ事業部、研修教養部との共同企画として実施した。音楽では「うれしいひなまつり」の曲に合わせてみんなで和楽器を演奏するという内容。大太鼓・締太鼓・桶胴・鉦・うちわ太鼓・えつき太鼓といった打楽器を子どもたちが20人1組で合奏した。リーダーの指揮に合わせ、3種類のリズムを使い、幼児から小学校高学年、外国の子どもたちも一緒に参加し、ふだんなかなか触れることのできない和楽器を体験した。前年度は琴などのメロディー楽器も併用したため、1回のグループに時間がかかり、多くの子どもが参加するのは難しかったが、今年度は打楽器に絞ったため、簡単に合奏でき、イベントとしての流れもスムーズであった。ただし、高学年にはリズムが簡単すぎて、物足りなかった点もある。幅広い異年齢集団を対象とするプログラムには必ず生じる問題点があるので、来年度に向けて改善していきたい。

〈スタジオイベント活動〉

平常期間は例年と同じく音楽スタジオBを使った「わいわいスタジオ」を毎週日曜・祝日に実施した。昨年同様、外部専門家をゲストに招いてのコンサート、職員によるプログラム、関連グループ（音楽講座・クラブ、ボランティア）によるものの3種類18タイトルの催しを行った。今年度は職員によるプログラムを新たに開発することに重点を置いた。

新たなものとしては、「これは楽しい太鼓のリズム」（インドネシア・セネガル・ブラジルの打楽器の紹介とコンサート）と「おもしろ楽器せいぞろい」（素材をテーマに、世界の珍しい民族楽器や電子楽器、手作り楽器など20種類もの楽器を紹介するコンサート）「絵かき歌であそぼう」であり、「おはなし劇場」のバリエーションもいくつか増えた。専門家によるコンサート形式も継続して行いたいが、今後も「こどもの城」ならではのユニークなオリジナルプログラムの開発を目指したい。

2) 特別期間

(ア) 春休み

平成元年春休みは、サンバのリズムを活用したオリジナルゲーム「いも虫ジャンケン」と「サンバでポン！」を行った。ゲームしながら自然にリズムを体で感じてもらうものである。

平成2年の春休みは、体験型楽器展示「楽器ワンサカ！」を実施した。これは「こどもの城」にある世界の楽器ができるだけ展示し、見るだけではなく、実際に自分の手で音を出して体験してもらうことを目的としたプログラムである。ロビー全体を10のエリア（室別）に分け、約80種類の楽器を展示し、各コーナーにスタッフを配置して奏法などの説明をした。

イベントは、展示してある中からいくつかを紹介・演奏する「ワンサカコンサート」を1日2回、「元氣がでるリズム」（夏季特別期間参照）を1日1回実施した。

たくさんの子どもたちが数多くの楽器を体験し、その音の鳴るしくみや素材を知ることができた点ではよかったです、混雑時にはお互いの出す音がぶつかり合い、音の小さな楽器は聞こえないことが多かった。楽器同士の音の隔離を考えなければ、落ち着いた状態での体験はできない。このプログラムの最も改善を要する点である。

(イ) 児童福祉週間

前年実施した「キャッスルクエスト」を今年度は全館行事として行った。今年もインドネシアのラーマヤナ物語をモチーフにして、昨年より規模を拡大して行った。音楽体験として今年は魔王を呼び出すという設定で、子どもたちはガムラン音楽の演奏に挑戦した。簡単なメロディーを約15分でグループごとに覚えて合奏した。魔物たちがBスタジオ内でジェゴッグの生演奏するなど、昨年より更にインドネシアの音楽に深く触れられる機会となった。

(ウ) 夏季特別期間

夏休みは期間を大きく3つに分けて、それぞれ異なるメインテーマを設けた。7月21日～31日は、歌をメインとした「みんなでうたおう・うたはともだち」、8月1日～20日はアフリカのタムタムをテーマとした「元氣がでるリズム」、そして8月22日～31日はブラジルのサンバがテーマの「夏のおわりはカーニバル」である。これら3つのメインテーマのプログラムは、それぞれの期間に1日3回のイベントとして実施し、それ以外は目的別プログラム5～6種類を30分ごとに行い、30分区切りで各種のイベントを提供していく流れを作った。

① 「みんなでうたおう・うたはともだち」

タイトルどおり、子どもたちが歌で参加することを目的とし、人気のある童話やアニメソングなどを歌のリーダー（スタッフ）を中心にして演奏した。歌だけでなく、踊りや打楽器演奏などの参加も織り込み、アクセントをつけた。メインプログラムとしてはでな演奏スタイルを演出し、ショー的な要素を強くしたが、それによりスタッフ側と子どもとの間に距離が生まれてしまうという問題もあった。開館からのロビープログラムの経過をみても歌を中心としたものが完成されていない。今後も重要な課題として検討していきたい。

② 「元氣がでるリズム～アフリカンタムタムであそぼう」

このプログラムの目的は、アフリカのタムタムによるシンプルなビートに乗って展開するリズム遊びであり、音楽の最も基本的な素材であるリズムを通して集団でプレイする音楽の楽しさを共有することにある。これは今年度行った新メニューの中でもオリジナル性、内容の完成度とも高かったと思われるものである。タムタム大王・大臣、そして子どもたるタムタム国民というような設定で、導入もしやすく、幼児から小学校高学年まで幅広い年齢層に対応できた。また、手作りのオリジナル楽器である缶のタムタムは、シンプルな構造でありながらバチで皮を打つ、フチを打つ、手で皮を打つなどの奏法を使い分けられ、声を出すことも加えてリズム遊びのバリエーションが豊富に作られるといった利点があった。問題点としては、スタイルとしてある程度完成されたので、遊びがパターン化されやすく、惰性でリ-

ドしてしまう恐れがある。1回1回違う対象であることを踏まえて、その都度新たにアレンジをしていく姿勢を保っていく必要がある。

③ 「ほっとひといきコンサート」

夏のにぎやかなメインイベントの間に静かなリラックスした雰囲気を作ろうという趣旨で企画したもので、リコーダー、オカリナなどの演奏が中心となった。しかし、静かな曲ばかりの30分間のコンサートでは子どもが集中しづらいということもあり、回を重ねるにつれて、弦楽器やマリンバ、ビブラフォンなどの打楽器、管楽器などを丁寧にソロで演奏する、楽器紹介プログラムに変化していった。9月以降にも民族楽器やパーカッション類の演奏を加え、平常期間の定期的イベントとしてのスタイルを確立した。

④ 「うきうきポルカコンサート」

前年度の「世界の音楽～ヨーロッパ」の素材であったポルカをアレンジしなおした形で実施した。約30分、リズムにのりやすいポルカをメドレーで演奏し、子どもは打楽器類を演奏して参加した。クルクル大王というリーダーを中心にいろいろなリズム打ちを展開した。

⑤ 「おもしろ楽器せいぞろい」

世界の珍しい楽器をいくつか登場させ、その楽器が生まれた国、素材や名前のついた由来、演奏方法などを紹介するミニ・コンサート。このプログラムは特に小学生中・高学年が興味を示し、実際にその楽器を自分の手で確かめてみるとおり、他のプログラムに比べて、より知的好奇心を刺激するものとなった。これは9月以降「わいわいスタジオ」としてアレンジし、オリジナルプログラムの1つとした。

⑥ 「ためになるなる楽器クイズ大会」

世界の楽器について、その特徴などをクイズ形式で紹介した。1つの問題について3つの回答例を出し、子どもはその中から1つを選ぶ。問題は約10問で、正解者には色分けした輪ゴムを1つずつ渡して最後に優勝者を決めた。クイズに参加することで、遊びながらいろいろな楽器について知ることができたようだ。

〈問題の例〉(1) ①ラチェット②ビブラスラップ③フレックスアトーンの3つの楽器をまず見せる。(これらは見た目ではでてくる音が想像しにくい。) そのあと楽器をかくして、そのうち1つの楽器を鳴らし、「いま鳴ったのは、どの楽器でしょう?」という問題を出す。

(2) 韓国の琴、アジュンは、70センチくらいの長さの棒をつかって演奏する。その棒をどのように使って演奏するかが問題。

- ①棒の先で弦をはじく
- ②棒で弦をたたく
- ③棒で弦をこする

(正解は③)

⑦ 「楽器体験コーナー」

8月中、Aスタジオ内に楽器体験コーナーを設けて琴・シンセサイザー・ガムランなどを設置した。スタジオを使用することで外の音が遮断され、集中して体験できた。

⑧ 「手作り楽器をつくろう」

8月8日～20日、Aスタジオ内で1日2回実施した。今年度はブラジルのカシシをモデルとしたマラカス作りのプログラムを実施、1回30人の定員がほぼ毎回満員となった。

⑨ 「夏のおわりはカーニバル」

8月後半は前年度のテーマであったサンバのリズムを決めて取りあげてメインとした。サンバで使う約10種類の打楽器の紹介とそのリズムの絡み、ブラジルの歌の演奏などに加えて、子どもたちはガンザの演奏と簡単なステップで行進するなどして参加した。

⑩ その他

その他夏季特別期間中に実施したプログラムとしては、ジャンケンゲーム「サンバでポン！」、オリジナルのリーダースシアターを中心とした「ミニミニおはなし劇場」をそれぞれロビーで行った。このほかBスタジオでは「わいわいスタジオ夏休みスペシャル」として、ブラジル・アフリカなどの打楽器を紹介した「これは楽しい太鼓のリズム」と、ボランティアや他部の職員の協力を得て「怪談」を行った。

(エ) サマーセミナー

成人向けの短期集中型講座「サマーセミナー」は対象を小・中学校の先生を中心とした。これは小・中学校の指導要領に、民族音楽、邦楽、電子音楽といった種類の音楽がより充実した形で取り入れられるようになったためで、今まで受講者1人が1つの音楽に限定されていたものを、1コース、3日間で3種類が体験できるように変え、2コース設定した。

Aコース 表現活動→シンセサイザー→ガムラン

Bコース 表現活動→ガムラン→三味線

受講者には好評で、ねらいのとおりこれからこの種のニーズは増してくると予想できたが事前の的確な広報活動も必要とされる。

(オ) 開館記念特別期間

開館4周年記念行事として、11月3日に「マックローとうたおう」(企画部主催)を行い、マックローの着ぐるみといっしょに童謡に合わせた歌遊びやリズム遊びを展開した。また、「うたはともだち」、「のりのりどうようコンサート」といった歌のプログラムをメインに、「元気ができるリズム」、「ほっとひといきコンサート」など、今年度の新プログラムの主なものを集めて実施した。

(カ) 冬休み

① 年末

12月23日～25日ロビーではクリスマスソングコンサート」と題して、特に幼児に人気のクリスマスの歌をメドレーで演奏し、来館児は歌と打楽器で演奏参加した。また、Bスタジオでは「わいわいスタジオ冬休みスペシャル」として、ユースバンドの卒業生による「ハートフルクリスマスコンサート」を実施した。12月26日～28日は、ロビーで冬にちなんだ曲を中心に戯遊び・リズム遊びを展開する「うたってポカポカ」を行った。

② 正月

1月3日～7日は「たいこがいっぱい！太鼓まつり」を実施した。これは日本・タイ・韓国・インドネシア・ブラジル・アフリカなど各国の打楽器を展示し、子どもたちが自分で触れて体験するプログラムである。各コーナーにスタッフを配置し、楽器の素材・奏法などを説明・指導した。イベントとして「元気ができるリズム」を1日2回、今回はひな段型のステージを設置して約50人の子どもが乗り、子ども主役のコンサート形式での参加を試みた。また、展示してある太鼓を実際にどのように合奏するかを紹介する「おもしろタイコ・コンサート」を1日2回、子どもたちが自分の好きな世界の太鼓をそれぞれ1つ選び、リズム遊びや童謡に合わせて合奏する「たたいてみよう世界のタイコ」を1日3回実施した。

3) 講座・クラブ

本年度の講座は9種17コース、クラブは5種6コースであった。

特に大幅な方向転換は行わず、前年度からの種類、コースにはほとんど変更はなかった。

ただ講座・クラブによって受講生のレベル差から時間を分割したり、2つの場所で同時に行うなど変則的に運営したものがある。城の講座・クラブは技術を詰め込む場ではないが、ある程度技術も積み重ねないと本来の楽しみが生まれないとといった大きな課題が残った。

〈合宿〉

講座・クラブの合宿は、子どもたちにとっても音楽事業部にとっても、意義のある事業の1つと、職員、講師たちが確認しあったうえで本年度も合宿の条件に合う幾つかの講座・クラブが実施した。ユースバンドと三味線は、前年度同様、合同合宿の形をとり、7月21日から3日間、「子どもの国」で行った。両講座の対象年齢が近く、単独合宿には人数が少ないとときは合同の形をとることで相互に補われる点も多い。一講座の枠を越えて横のつながりを持たせる上で、有意義な合宿になった。

合唱講座、合唱団はスタッフも含め総勢117人。8月18日から3泊4日の日程で、神戸市総合児童センター「こべっこランド」と、兵庫県立「子どもの館」を中心に実施した。

本年度は、「子どもの城」と地方の地域児童館とのつながりを活動の中心とした。「こべっこランド」でのサマーミュージックフェスタへの参加（8月20日）、宿泊先の自然の家での地域児童館の子どもたちを招待しての山の交流コンサート（8月19日）、「子どもの館」での交流コンサート（8月21日）など、幾つかの新しい試みを展開した。

パーカッション・アンサンブルは、楽器運搬などの問題から、「子どもの城ホテル」を利用した館内合宿を、8月23日から2泊3日で行った。

講座・クラブの夏季合宿は、特別期間中の他の事業とのバランスなどさまざまな課題を残しているが、単に集中練習としてではない、多くのメリットが見られるため、今後も続けて実施できるよう、残された課題と取り組んでいきたい。

4) グループ活動

この活動は年間を通して、ほぼ平均した利用がある。新しい幼児向けのプログラム、ロ

ビーでの一般来館児活動から発展した、就学児、障害児向けの職員が開発した新プログラムも増え利用側の希望や障害の程度に応じてのバリエーションを持つこともできた。

障害児の利用は例年どおり多く、盲学校やろう学校の子どもたちとの活動も経験した。そこで得たものを今後のプログラムに生かし、さらに新プログラムの開発に力を入れたい。

5) 劇場の催し

〈音楽事業部主管〉

本年度は「第4回音楽講座・クラブ発表会—ぼくらのサウンド'90」(3月26~28日、円形劇場)を開催した。毎年行ってきた「おまつり劇場」(子どもたちによって守り、受け継がれている日本の伝統芸能を広く紹介する催し)は今年度より劇場事業部の制作となり、前記の趣旨を貫き継続している。

今年度の「ぼくらのサウンド'90」は、日ごろの講座・クラブの活動を素直に披露する発表会形式とし、前回と比べ合同の演目も減り華やかさは無かったが、各講座・クラブの特徴が十分に發揮された催しとなった。

〈賛助出演〉

外部団体主催の催しに合唱、ユースバンド、ガムラン、三味線、和太鼓の各講座・クラブが賛助出演を依頼され、出演した子どもたちにとっても貴重な経験となった。

主なものは次のとおり。

① 5月10日 合唱団出演

中央児童福祉審議会表彰式(朝日生命ホール)

② 6月3日 三味線講座出演

和佳寿会(日刊工業新聞社ホール)

③ 6月4日 ガムラン・合唱団出演

東西の地平音楽祭・ガムランの宇宙(水道橋パリオホール)

③ 10月29日 ユースバンド出演

ヤングサウンドフェスティバル'89(都児童会館)

④ 12月26日 和太鼓グループ・三味線講座

第2回こども邦楽まつり(江戸川区総合文化センター)

6) その他

前年度同様、音楽事業部・A V事業部及び子どもの城内部(主に劇場事業部)利用以外の時間帯を一般に貸し出す業務を行った。子どもの城の内部利用を優先しているため、レンタル時期や時間は限定されているが、このような事情を理解のうえで利用され、固定利用者もあった。

5 A V 事 業 部

III 各部の活動(1)

(1) 元年度活動一覧表

1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	AVライブラリー	映像調整室	AVライブラリー	映像調整室	AVライブラリー	映像調整室	AVライブラリー	映像調整室	AVライブラリー	映像調整室	AVライブラリー	映像調整室
9:00												
10:00			グループ活動	グループ活動	グループ活動	・ファミリー・ビデオ	グループ活動					
11:00	グループ活動	グループ活動	グループ活動	グループ活動	グループ活動	・母子教室の	自由利用	自由利用	自由利用	自由利用	自由利用	マックTV・子どもの城情報局
12:00	グループ活動	グループ活動	グループ活動	グループ活動	グループ活動	ビデオ館						
13:00	自由利用	自由利用	自由利用	自由利用	自由利用	おもしろ						
14:00	自由利用	自由利用	自由利用	自由利用	自由利用	おもしきらべ	クラブアニメ体験	ばたばたアニメ	バンダイビデオ試写会	わいわいスタジオ		
15:00	自由利用	自由利用	自由利用	自由利用	自由利用	おもしろ						
16:00												
17:00												
18:00												

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
ディズニービデオ試写会	4. 9(日) 16(“) 23(“)	12:30~17:15 " 12:00~17:30	フリーホール	(人) 職員1 アルバイト2	バンダイと提携の、 ディズニー短編及び 長編アニメ上映会。 利用者数1,318
	5. 6(土) 7(日) 14(“) 21(“) 28(“)	12:00~17:30	8階研修室 " フリーホール " "	"	利用者数1,520
バンダイ・ビデオ試写会	6. 4(日) 11(“) 18(“) 25(“)	12:00~17:20 " 12:00~18:00	フリーホール	"	バンダイと提携の、 人気ビデオ作品の上 映会。 利用者数 894
	7. 2(日) 9(“) 16(“)	12:00~17:20	"	"	" 721
	9. 3(日) 10(“) 15(金) 16(土) 17(日) 23(土) 24(日)	12:20~17:40	"	"	" 1,849
	10. 1(日) 8(“) 10(火) 15(日) 22(“) 29(“)	12:15~17:30	"	"	" 1,116
	11. 5(日) 12(“) 19(“) 23(木) 26(日)	12:45~17:30	8階研修室 フリーホール " " " " " "	"	" 1,442
	12. 3(日) 10(“) 17(“) 23(土)	12:45~17:30 " 11:00~17:30	フリーホール " " 8階研修室	"	" 715
	1. 14(日) 15(月) 21(日) 28(“)	12:45~17:30	8階研修室 " フリーホール " "	"	" 2,249
	2. 4(日) 11(“) 12(月) 18(日) 25(“)	12:45~17:30	フリーホール	"	" 2,647
	3. 11(日) 18(“) 21(水) 25(日)	12:45~17:30 " 11:00~17:30	フリーホール " 8階研修室 " "	"	" 1,117

III 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
名作アニメ特集	6.1~30	10:00~18:00	AVライブラリー	(人) 職員1~3 アルバイト1~5	「フランダースの犬」、「赤毛のアン」などの原作にもとづいたテレビ・アニメを特集して、ソフトカタログを作成する。
スポーツ・ソフト特集	10.1~31	10:00~17:30	"	職員1~3 アルバイト1~3	体育の日に関連させ、スポーツ・ソフトのカタログを更新する。
こどもの城アニメフェスティバル	3.3・4	"	AVライブラリー フリーホール	職員1~3 アルバイト6	アニメフェスティバルのサブ会場として、アニメ映画を終日上映。
し ね ま て い く	カナダのアニメーション	4.9	13:30~14:10 15:30~16:10	音楽スタジオB	職員2 アルバイト2
	"	6.4	"	"	"
	"	7.9	"	"	"
	"	9.23・24	"	"	"
	"	10.22	"	"	"
	"	11.19	"	"	"
	"	12.10	"	"	"
	科学と映像の世界	1.14・15	"	音楽スタジオB	職員2 アルバイト2
カナダのアニメーション	2.11・12	"	"	"	上映作品 = 『いたずら椅子』『隣人（お隣り同志）』『E』 協力・カナダ大使館

名 称		期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
し ね ま で いく	カナダのアニメーション	3.11	13:30~14:10 15:30~16:10	音楽スタジオB	(人) 職員2 アルバイト2	上映作品=『スーエー・テール』『ふくろうとからす』『イリュージョン』 協力・カナダ大使館
お も し ろ ビ デ オ 館	世界のおはなし大集合	4.12~7.14 (4.28を除く 毎週金曜日。 全12回)	15:30~16:00	"	職員2 アルバイト1	<人形アニメ>と <切り紙アニメ>を特集。
	おたのしみまんが映画	9.1~10.27 (毎週金曜日。全8回)	"	"	"	昭和30年代に作られた日本の古いアニメを特集。現在でも受け入れられるものを持っている。
	親子で楽しむおはなしアニメ	11.10~12.15 (毎週金曜日。全6回)	"	"	"	<セルアニメ>を中心童話や昔話のアニメを特集。
	日本のおはなし大集合	2.2~3.16 (毎週金曜日。全7回)	"	"	"	最近では見る機会の少ない<人形アニメ>を特集。
わ い わ い ス タ ジ オ	おもしろビデオ館スペシャル	5.14	13:30~14:10 15:30~16:10	"	職員2 アルバイト2	《人形アニメでみる世界のお話大集合》
	ビデオであそぼう	6.25	13:30~14:30 15:30~16:30	"	"	来館児(小3以上)にビデオの撮影を体験してもらうプログラム。
	おもしろビデオ館スペシャル	9.15・17	13:30~14:10 15:30~16:10	"	"	《おたのしみまんが映画》
	アニメおもちゃであそぼう	10.15	13:30~14:30 15:30~16:30	"	"	低年齢の子どもには「くるくるアニメ」、 小3以上には「プラキシノスコープ」という視覚玩具に挑戦してもらった。
	"	11.3	11:00~12:00 15:00~16:00	"	"	
	"	11.5	11:00~12:00 13:00~14:00 15:00~16:00	"	"	
	ビデオであそぼう	12.3	13:30~14:30 15:30~16:30	"	"	
	"	3.18	13:30~14:30 15:30~16:30	"	"	
ぱたぱたアニメをつくろう		4.8~ 平2.3. 17(特別期間 および祝日を 除く毎週土曜日。 全38回)	16:00~閉館	音楽ロビー	職員1 アルバイト2	家庭用ビデオ・デッキについているコマ撮り機能を使ったプログラム。2枚の絵を描かせ、それを約1/4秒ずつ交互にコマ撮り、その場で再生して見せる。

III 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
マックTVこどもの城 情報局+わいわいスタジオ	日・祝日	10:30～閉館	映像調整室・ 音楽スタジオB	(人) 職員2 アルバイト2 (音楽事業部との共同)	アトリウムを始め館内に設置してある案内テレビを有効利用するため、催事案内地図を来館児・者に提供すると同時に、音楽スタジオBで行われる各種イベントを中継。

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<春休み> ばたばたアニメをつくろう	4.3～5	10:30～16:00	音楽ロビー	職員2 アルバイト2	毎週土曜日の定番プログラム「ばたばたアニメをつくろう」を拡大して実施。
インフォビジョン特集	3.26～4.7	開館時間中	AVライブラリー	職員1～3 アルバイト5	新作の加わるインフォビジョンを特集し、新作の浸透をはかる。
ディズニービデオ試写会	3.26～4.5	12:00～17:30	フリーホール	職員1 アルバイト2	バンダイと提携の、ディズニー短編アニメ上映会。利用者数1,533(4.1～4.5)
<児童福祉週間> 童話・お伽話新特集	4.29～5.5	開館時間中	AVライブラリー	職員1～3 アルバイト1～5	アンデルセン、グリムなどの童話を特集して、ソフトのカタログを作製。
ディズニービデオ試写会	"	12:00～17:30	フリーホール 8階研修室	職員1 アルバイト2	利用者数3,209
<夏休み> 夏休みおもしろビデオ館	7.28～30	13:30～14:00 15:30～16:00	音楽スタジオB	職員2 アルバイト2	《うごく！すてきな絵本たち》をテーマに上映。
夏休みしねまいく	8.12～16	11:00～11:40 13:30～14:10 15:30～16:10	"	"	カナダやベルギーの大企業の協力を得て、世界のアニメーションを特集。日替わりで5プログラムを上映した。全20作品。
	8.17～18	11:00～12:00 13:30～15:00 16:30～閉館	"	"	11:00と13:30の回は「ばたばたアニメをつくろう」16:30の回は「アニメおもちゃであそぼう」。
AVアニメーションフェスタ'89	8.19	11:00～12:00 13:30～14:30 15:30～16:30 16:30～17:30	"	"	2, 3回目はアニメーターの石田卓也さん、やまむら浩二さんを招いて、アニメ作りの実際を聞く「アニメなるほど教室」。1回目と4回目は高校生の作ったアニメ作品の上映。

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
A Vアニメーション フェスタ'89	8.19	14:00~15:00 16:00~17:00	音楽スタジオ A	(人) 職員 2 アルバイト 2	映像作家の加藤到さんを招いて、ビデオや光センサーなどの最新テクノロジーを使ったくうごく>ことを見つめ直すパフォーマンス。
					1, 2, 4回目は石田卓也さんの作品集の上映。3, 5回目は「アニメなるほど教室」
	8.20	11:00~11:30 12:00~12:30 13:30~14:30 14:30~15:00 15:30~16:30	音楽スタジオ B	"	前日と同じ映像パフォーマンス「ダンステクノロジー&テクノロジーダンス」
オリジナルソフト特集	7.21~8.18	開館時間中	A Vライブラリー	職員 1~3 アルバイト 5	新作の加わったオリジナルソフト及びインフォビジョンを特集し、浸透をはかる。
自由研究に役立つかな	8.19~31	"	"	職員 1~3 アルバイト 5	夏休み後半に宿題と関連したソフトを特集し、話題づくりをはかる。
バンダイ・ビデオ試写会	7.21~23 7.25~30 8.12~17 8.24~31	11:00~17:40	8階研修室	職員 1 アルバイト 2	バンダイと提携の、人気ビデオ作品の上映会。 利用者数5,680
<開館記念> 青山劇場公演ダイジェスト88-89	11.1~3	開館時間中	A Vライブラリー	職員 1~3 アルバイト 1~5	開館5周年を記念して、青山劇場・円形劇場の公演ダイジェストのビデオソフトを作成
<冬休み> A V実験室 アニメおもちゃであそぼう	12.25~28	11:00~12:00 13:30~14:30 15:30~16:30	音楽スタジオ B	"	「くるくるアニメ」や「プラキシノスコープ」など、描いた絵がくうごいて>見える視覚玩具に挑戦。
昔のヒーロー特集	12.24~1/7	開館時間中	A Vライブラリー	職員 1~3 アルバイト 3~5	日ごろ、子どもに番組選択の主導権を握られ、ブースで寝ているお父さんお母さんの子ども時代のテレビ番組を特集、親子で一緒に見てもらい共通の話題を提供。
バンダイ・ビデオ試写会	12.24 1.3~7	" (1.3のみ12:20 から)	8階研修室	職員 1 アルバイト 2	利用者数1,602
<春休み> インフォビジョン特集	3.26~4.7	"	A Vライブラリー	職員 1~3	新作の加わったインフォビジョンの浸透をはかる。

III 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
バンダイ・ビデオ試写会	3/26~28	11:00~17:30	8階研修室	(人) 職員1 アルバイト2	利用者数550(3/28まで)
春休みしねましていく	3.29・30	11:00~12:15 13:30~14:45 15:30~16:45	音楽スタジオB	職員2 アルバイト2	子供達に圧倒的人気を得た童話「はれときどきぶた」と「あしたぶたの日ぶたじかん」を原作としたアニメーション『はれときどきぶた』を上映した。上映時間は約75分という長編。
<春休み・児童福祉週間・夏休み・冬休み・春休み> マックTVこどもの城情報局	特別期間中、毎日	10:30~閉館	映像調整室ほか	"	さまざまな活動プログラムが各所で展開される特別期間。それらの情報を館内案内テレビを通して来館児・者へ提供。スタッフの関係で文字情報が中心にならざるを得ないが、極力映像情報を盛り込んだ。

4) 講座・クラブ

名 称	対象	人 数		曜 日 時 間 帯	場所	期 間 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員	受講数						
母と子のビデオ教室	母と子	(組) 8	(組) 3	木曜日 10:30~12:30	音楽スタジオB	(回) 4.20~7.13 (5.4を除く 全12回)	(円) 20,000	木辺 高敏 昼間ほか1人	応募者が少ないのでⅡ期以降は休止。
ファミリー・ビデオ教室終了者	ビデオ教室終了者	8	6	木曜日 1:30~3:30	"	"	15,000	"	
" (Ⅱ期)	"	"	"	"	"	9.14~12.7 (11.23を除く 全12回)	"	"	
" (Ⅲ期)	"	"	5	"	"	1.11~3.15 全10回	12,000	"	
クリエイティブクラブ(造形事業部) 「アニメ体験」(Ⅰ期)	小3~高3 (人)	10	2	土曜日 15:00~16:30	造形スタジオ	4.15~7.1 (4.29・5.6 は除く) (全10回)	20,000	木辺 高敏 昼間造形事業部 スタッフ	前年度からの継続者には遠慮してもらい、新規のみとしたため講師者が少なかった。
" (Ⅱ期)	"	"	9	"	"	9.16~12.2 (11.4を除く) 全10回	"	"	前年度からの継続希望者にも参加してもらった。
" (Ⅲ期)	"	"	6	"	"	1.20~2.24 (全6回)	12,000	"	
(短期) 夏休みお母さんのビデオ教室	母と子	8	5	8.29・30 10:00~12:00	音楽スタジオB		4,000	木辺 高敏 昼間ほか1人	

(2) A V事業部の活動

A V事業部の活動は、A Vライブラリー・A V資料室・マスターコントロールと、ビデオ活動の2つに大きく分かれる。

A Vライブラリーは、子どもたちが自分でソフトを選ぶことによって、主体的に映像に接するための視聴施設。ほぼ順調に運営できたと考えているが、休日の利用は相変わらず多く、ほとんど空きがないため、受け付け中断によって、待ち時間が長くなりすぎないように配慮した。これによって、待ち時間に関する苦情は、大幅に減少した。7月には大幅な分類変更を行い、アニメなど数の多い作品が選びやすくなるよう配慮した。また3月に日本アニメフェスティバルのサブ会場として、参加作品を上映し、非常に多くの利用者があった。

A V資料室は、A Vライブラリーの後方支援部門。年間約730本の市販ソフトを購入し、このうち年度内に約400本の試視聴・データ登録をし、インフォビジョンも2本を製作、うち1本のプログラミングを行った。また「バンダイ」と提携して行っていた「ディズニー・アニメ試写会」は、ディズニー・ビデオの日本での販売組織の変更のため、5月で終了し、引き続いて「バンダイ・ビデオ試写会」に衣替えして、アニメやウルトラマン・仮面ライダーなどを中心に年間を通して行った。このほかにA Vライブラリー用目録の製作、A Vライブラリー機器のメンテナンス、館内放映用週間催物案内の製作、マスターコントロールの収録時の支援などを行った。

マスターコントロールは、A Vライブラリーの映像製作部門であり、A Vライブラリー用の番組製作、外部依頼による劇場公演の収録、アトリウム映像、案内テレビ映像の送り出し、および機器のメンテナンスなどを行っている。

ビデオ・カメラが普及し、〈映像〉と私たちを取り巻く環境が大きく変化してきた。受け手の立場にのみ置かれていた私たちが、作り手、送り手の立場に立てるようになった。〈映像〉という伝達の手段を手に入れ、使えるようになり、多くの人がそれを使い始めた。このような状況の中で、ビデオ活動では単に〈みる〉ことだけでなく、〈つくる〉ことを考慮したプログラムを行っている。

テレビ、ビデオ、コンピュータ・ゲームなどの映像があふれかえる中で、映像（情報）の選択が重要になってきている。映像を「見る目」を養う必要がある。〈みる（みせる）〉ことが大きな意味を持つ。「おもしろビデオ館」（毎週金曜日）や16mm映画の上映会「しねまていく」（毎月1回程度、日・祝日に開催）で、目に触れる機会の少ない作品を上映することによって、少しでも視野を広げられればと考えている。

また〈つくる〉活動として、一般来館児を対象とした「ぱたぱたアニメを作ろう」「A V実験室 アニメおもちゃあそぼう」「同 ビデオあそぼう」などを行っている。〈つくる〉ことの喜び、楽しさ、おもしろさを体験するプログラムである。

講座・クラブとしては、造形事業部と一緒に「造形こどもクリエイティブクラブ アニメ

体験」(対象は小3以上) や母親を対象とした「ファミリー・ビデオクラブ」を行っている。

このほか、催し物の案内、記録等々の〈映像〉を用いた情報の伝達・提供・記録などに積極的に関与している。

1) AVライブラリー・AV資料室・マスターコントロール

(ア) 課題と実績の評価

AVライブラリーとAV資料室・マスターコントロールの課題及びその達成のための具体的方法として、次の4つがあった。

①AVライブラリーの類似施設の増加に対して、子どもの城AVライブラリーに特色をもたせる。

- インフォビジョンの充実
- オリジナルソフトの充実
- 徹底した子ども向けソフトの収集

②AVライブラリーの利用者増、ディズニー・アニメ試写会(元年6月からバンダイ・ビデオ試写会に変更)利用者増を図り、入館者増に結び付ける。

- AVライブラリーについては、平日の利用者増を図る。

○ディズニー・アニメ試写会(バンダイ・ビデオ試写会)については、「バンダイ」との連携をよくし、必要な時期に適切なプログラムで開催する。

③マスターコントロール収入の増大を図るとともに、AVライブラリー・AV資料室・マスターコントロールの運営をより効率化し、支出を抑制して、AV事業部の赤字を減らす。

- 収入につながる劇場収録・体育合宿の収録
- 体育講座の収録

- AVライブラリー・AV資料室・マスターコントロールの人員の一体運用

④AVライブラリー・AV資料室・マスターコントロールの機器更新のための準備を行う。

以上の4つの課題から、平成元年度の実績を評価してみよう。

① AVライブラリーの特色の強化

インフォビジョンに関しては、「怪盗デュパンからのプレゼント」「クイズことばのたんじょう」の2本の幼児向けインフォビジョン(それぞれ15分)を製作し、プログラミングを行い、前者は春休みからAVライブラリーで利用可能となった。インフォビジョンの利用回数は順調に増えている。インフォビジョンは他の施設にない、「子どもの城」独自の対話型番組であり、ボタンを押すのが好きという幼児の一般傾向からみても、子どもの城AVライブラリーに特色を持たせるための最も強力な手段である。更に自前の著作権の作品であり、AVライブラリーの目的である、子どもの映像に対する主体性を育てることに最も適した番組

で、アニメーションなどを除けば数少ない幼児向け市販ソフトを補完することができる、などの点からも、来年度以降も小さいものを毎年1本程度は製作していきたいと考えている。マスターコントロール製作のこどもの城オリジナル・ソフトについては、前年度実績の20本から44本に増加した。マスターコントロールの収益に結び付く仕事を優先するため、大幅増は望めないが、なんとか60本～80本を目指したいと考えている。人手を増やさずに仕事量の増加に対応するには、現在ネックとなっているテロップの製作専用機導入が必要である。

購入した市販ソフト約730本は、ほとんどが、子ども向けである。著作権の関係で購入できないものもあったが、ほぼ満足できる内容であった。ただ、本年度については、前年度と同じように、購入時期が大幅に遅れ、2月～3月にかけて品物を入手した。購入ソフトの試視聴・登録は、前年度からこぼれたものを含め約400本をさばいたが、本年度購入分については大部分を、次年度に残してしまった。次年度はなるべく早く購入するようにしなければならない。

新規ソフトは人気が高く、何を購入するかは、AVライブラリーの魅力の増減に直結する。視聴の傾向は前年度と同様、アニメと特撮TV（ウルトラマン、仮面ライダーなど）を中心で、全視聴数の88%を占める。このほか視聴数の多いのは、インフォビジョン、陸の乗り物などである。毎年消耗ソフトの代替分が増えており、限られた新規分の枠の中で、できるだけ子ども向けで内容の良いソフトを集めよう、努力している。

ソフトを選ぶためのAVライブラリーの目録は、特集カタログ（写真入り）、総合カタログ（35分以内版・全ソフト掲載版）、年齢別カタログ（3・4歳向け、5・6歳向け）、新着ソフトカタログ（35分以内版・全ソフト掲載版）、外国語カタログの5種類を常備している。特集カタログ及びポスターについては、特別期間・平常期間のAVライブラリーのテーマに合わせ、本年度は、「インフォビジョン」「童話・おとぎ話」「オリジナルソフト」「自由研究」「昔のヒーロー」「名作アニメ」「スポーツ」「アニメフェスティバル」の8種類を製作した。なるべく写真を多くし、字の読めない幼児でも選べるようにしている。また総合カタログ、年齢別カタログ、新着ソフトカタログは傷みが早いのでほぼ月1回の割合で更新している。

② AVライブラリー及びバンダイ・ビデオ試写会利用者

AVライブラリーの本年度の利用回数は、80,188回、利用人数は184,823人で前年度比1%増（前年度78,385回、183,860人）であった。これを休日（土・日・祝・特別期間等の午前10時開館日）と平日（通常期間の午後1時開館日）に分けてみると、休日は利用回数で前年度比変わらず（58,697回）、利用人数で3%減（135,578人）、平日は利用回数で8%増（21,491回）、利用者数で10%増（49,245人）であった。全利用者の73%が休日に、27%が平日を利用している（前年度は75%、25%）。こどもの城こども活動エリアの入館者数（有料・招待の合計、6歳未満は含まれていない）は、4%増（314,551人）、休日4%増（271,631人）、平日1%増（42,920人）である。全入館者の86%が休日に、14%が平日を利用している（前年度と同じ）。平日の利用者数が、入館者数1%増に対し10%増になっているのが目立つ。これは、大部分は

III 各部の活動(1)

講座の受講証による利用者増と思われる(7,006回、前年度は5,957回)。

3月のアニメフェスティバルへのAVライブラリーの参加は、ふだん利用されにくい中学生以上の年齢層にAVライブラリーの存在を知ってもらえるという意味があり、更にこのフェスティバル用に53タイトルの人気番組が特に用意され、平日の利用者増にも貢献した。

バンダイ・ビデオ試写会は、91日(前年度比12%増)、818回(前年度比50%増)開催し、28,162人(前年度比18%減)の利用者があった。ディズニー・アニメ試写会からの移行は、スムーズにいったものの、作品のパワー不足はいなめない。特に本年度は提携メーカーのバンダイの意向もあり、子どもたちに絶対的な人気のあるソフト(ウルトラマン・仮面ライダーなど)だけを上映するわけにはいかなかったこともある。しかし、混雑時にあふれたAVライブラリーの利用者をさばくという意味では、大きな機能を果たしており、適切な日数の適切な時間帯に開催していくことを心がけたいと思う。

③ マスターコントロール収入の増大と運営の効率化

本年度のマスターコントロール収入は、前年度比24%減であった。この原因は、「青山バレエフェスティバル」収録ビデオの劇場観客向け販売が音楽著作権の関係でできなかつたためである。青山劇場・青山円形劇場の収録は、外注・内部依頼を合わせ、14本、62本の計76本を行い、体育関係は、体育合宿の収録、講座の収録などを計8回行った。次年度は波の大きな劇場向けに比べ、安定した体育向けのビデオ販売の増加を考えたい。

運営の効率化はかなりうまくいったと考えている。本年度で常勤職員は1人減り、AVライブラリー、マスターコントロール、AV資料室、バンダイ・ビデオ試写会の運営を3人で行うようになった。

④ 機器更新の準備

機器更新の準備は、平成3年度に向けて行っている。2年度は準備作業が本格化するため、かなりエネルギーを割かざるを得ないと考えている。

2) ビデオ活動

本年度のビデオ活動は、過去3年半の財産で辛うじて体面を保ったと言っても過言ではない。

子どもの城をより良くするために、なんらかの前進をするために、そして子どもたちの健全育成により貢献するために、今何をなすべきか、今何ができるのか——無我夢中のうちに歩んできた軌跡を反省して、再度考えなければならない時がきたことを痛感させられた年であった。特に新しい活動を創造しえなかった(目新しいものでなくても、内容的になんらかのものを付加することを含めて)ことは、深く反省しなければならない。

これには、いろいろな理由が考えられるが、根本的問題は〈目指すもの〉が私たちに見え

てこなかった、ということに集約されると思う。見過ごすことのできない重大な問題である。

ビデオ活動は何を目指し何をしていけばよいのか、AV事業部とは、そして子どもの城とは何なのか。5年という「くぎり」をきっかけに、目指す「子どもの城像」を、「AV事業部像」を、「ビデオ活動像」を再構築する必要を感じる。

(ア) 平常期間

① おもしろビデオ館

AVライブラリー所蔵ビデオ・ソフトの紹介をかねて、あまり視聴されていない作品を音楽スタジオBでみんなで視聴する。普及に力点を置いていないAVライブラリーの活動を補完するものとして、毎週金曜日の午後3時30分から音楽スタジオBで実施している。

平日とあって、親子連れの幼児がほとんどで、番組選びに苦慮している。幼児向けのビデオ・ソフトが日本には少ないとや、著作権などの関係から、選択の範囲が狭いものになっているためだ。どういう作品をAVライブラリーに収蔵するかということ（AVライブラリーの内容的な性格付け）と関連する問題である。

毎日たくさんのビデオ・ソフトが市販されて、ついには過去の映画作品はほとんどビデオ化され尽くしたとも言われている。そして、たくさんの人がビデオ・ソフトを購入するので価格も下がり、価格が下がったから購入するという現象が顕著になった。書店などの新しい販売ルートを使った新装・低価格のビデオがその代表といえる。子ども向けのビデオをみてても、おもちゃ屋や書店ルートで低価格のものが販売されている。ほとんど全部が＜アニメ＞であるが、なかには＜ビデオ紙芝居＞といったほうが適当なものも少なくない。

このように私たちの周りには、玉石が混った映像（情報）があふれている。映像とのつきあい方をどうすればよいか、が問題になってくるだろう。一般の情報と同じように、選択して取り入れることなども考えていかなければならない。

このような状況のなかで、子どもの城AVライブラリーの在り方を再考する必要もあると思うし、「おもしろビデオ館」の在り方を検討し直す必要がある。平日の一般来館児・者対応のプログラムとして、単にソフトを見せておきさえすればよいというのではなく、＜意図＞を持った内容のあるプログラムを目指して＜見る＞＜見せる＞プログラムの在り方を総合的に考えていかなければならない。

② しねましていく

映画の上映会。本年度から毎月1回の割合で定期的に実施した。映画として作られたものを本来の形（映画）で視聴するのが目的。ビデオは確かに手軽ではあるが、映像として比較すると、まだ映画のほうが数段優れている。例えば、明るいところから暗いところまでの幅がフィルム（映画）のほうが広く、奥行きのある表現ができるなどをあげることができる。

また、子ども向けのビデオ・ソフトがアニメやテレビ作品（主に特撮もの）に集中しているため、AVライブラリー所蔵作品もそれらに偏る傾向がある。「健全育成」を考えるならば、そして映像を「文化」として考えるならば、この現状に対してなんらかの対応をしなけ

III 各部の活動(1)

ればならないのではないだろうか。

ひとつの方法はいろいろな映像（作品）があることを呈示すること、と考えている。「映像の時代」といっても、その映像はほとんどすべてが「テレビ」である。映画館で春休みや夏休みに上映されるアニメや特撮映画のほとんどが「テレビ」の特別版である。与えられる、見ることができる「映像」は非常に限られているのではないかろうか。広く、そしてできれば深く、映像に触れる機会を作ることが、「子どもの城」の目指すところにかなうのではないかと考えている。

アニメーションひとつをとってみても、世界には優れた作品がいっぱいある。しかも色々な手法（作り方）を使って、その手法を生かした表現をしている。それらの作品に接することの意味は少なくない。幸い、カナダ大使館の協力が得られ、カナダの誇るN F B C（カナダ国立映画製作庁）の作品（大使館にあるもの）が上映できることになった。

N F B Cの作品は「言葉」が分からなくても理解できるように作られたものが多く、小さい子どもたちにも理解できるように作られている。切り紙、立体、ピクシレーション（人間アニメ）、シネカリグラフ（フィルムの乳剤を削って絵や模様を描いて作るアニメ）、直接フィルムに絵を描いたものなどさまざまなアニメーションがある。

また、富士フィルムの協力を得て、科学映画『科学と映像の世界——サイエンス・グラフィティ』の上映も行った。これは、富士フィルムの創立50周年を記念して作られた「企業のP R 映画」であるが、科学技術映画祭などでグランプリを受賞している。肉眼では見えないものを見せてくれる科学映像のすばらしさとその歩みを美しい映像で見せてくれる作品。P R 呆さは全くない。幼児には無理のようであったが、小学生たちは科学映像の不思議な世界に見入っていた。

アニメーション以外の世界へも視野を広げていきたいと考えている。

③ わいわいスタジオ

音楽事業部と協力して実施している。毎月1～2回の割合でA V事業部が企画を担当している。元年度は、<つくる>に重点を置いたA Vプログラムをシミュレーション的に行った。ビデオ撮影を体験してもらう「ビデオであそぼう」と、動く映像の仕組みを体験する「アニメおもちゃであそぼう」の2つのプログラム。

「ビデオであそぼう」は、小学3年生以上を対象としたもので、ビデオ・カメラを自分で撮影してみる。必要最小限のスイッチ操作を指導した後、1つのテーマを決め各人自由に撮影するもの。ばく然と自由に撮影しなさいと言っても、何を撮影していくか分からないので、「映像によるしりとり」をテーマに取り上げた。何をどのように撮影するかは、ビデオに限らず撮影の重要なポイント。しりとりという明確なテーマがあると、撮影しやすくなる。

グループ活動で実施してきたものを一般来館児のプログラムとして実施した。

④ ぱたぱたアニメをつくろう

土曜日夕方の定番プログラムとして今年度も、特別期間と祝日を除いて実施した。4月から9月の夏時間の期間は午後4時30分から同6時、9月から4月の冬時間の期間は同4時か

ら同5時30分までの1時間半。閉館時間ぎりぎりまで参加を受け付けている。

⑤ その他

直接的に来館児・者に接するものではないが、ビデオやテレビに関連するさまざまな活動も行っている。

たくさんの来館児・者がある日曜・祝日や特別期間中には、「マックTV子どもの城情報局」という名称で、館内案内テレビを通して催事情報を提供。あり合わせの機器をファミコンの裏技よろしく組み合わせて、どこで何が行われているのかを文字を中心とした画像情報を流している。臨時の情報にも対応できるシステムをとっている。

できるだけ生の情報（ニュースのようにその場を撮影したものなど）を提供したいと考えているが、人手の問題もあり、十分な活動ができていると言い難い。子どもの城全体として、来館児・者への案内情報提供（サービス）の在り方とからめて考えていく必要があろう。

<放送>というシステムとは別に、ビデオを単独で使う方法もいろいろある。デパートの売り場で用いられているように、売り場独自のPRを利用する方法や、大規模なコンサート会場で演出の一部として使用する方法などである。

児童福祉週間特別期間の全館プログラム「キャッスルクエスト」における活動がその1例といえる。受付での、ゲーム参加をうながすビデオを制作し、館内案内テレビで放送するのは、これに手を加えて使用した。また、「キャッスルクエスト」のゴールはAV機器をフルに活用して、悪の大王と対決する場を演出した。

ビデオ機器——特にモニターTVは、映像を映し出す発光体（変化する光を作り出すもの）を考えると、環境空間の演出などにもさまざまに利用できる。ビデオ=記録にこだわらなければ、いろいろな形で利用できる<道具>である。

(1) 特別期間

ほぼ前年度と同様のプログラムを実施した。細かい点については、手直しや充実を図ったつもりだが、全体としては大きな差異はない。平常期間の活動を時間的、場所的に拡大して実施したものが多い。

平常期間と大きく異なるプログラムは、夏休みに行った「AVアニメーションフェスタ'89」。毎年実施しているもので、今年もアニメーション作家を招いて、アニメーション作りの秘密を分かりやすく話してもらった。

更に、初めての試みとして、ビデオや光センサーなどのハイテク機器を使って<動き>をテーマにした映像パフォーマンスを音楽スタジオAで行った。武井よしみち（ムーブメント）、藤枝守（音楽）、津田佳紀（美術）、加藤到（映像）の4氏による『ダンステクノロジー&テクノロジーダンス』。人間や映像の動きに合わせていろいろな音が聞こえてくるという不思議な体験をした。人間と光センサーなどのテクノロジーの組み合わせが、音や動きを気づかせてくれた。

また、夏休みの「しねまていく」も「AVアニメーションフェスタ'89」に関連させ、フランス、ベルギー、カナダ、日本のアニメーションを上映。5日間にわたって5プログラム20

作品という、少々規模の大きい上映会となった。

(ウ) 講座・クラブ

母と子を対象とした「母と子のビデオ教室」と同教室修了者を対象とした「ファミリー・ビデオ・クラブ」の2つを実施した。また、造形事業部と一緒に造形こどもクリエイティブクラブ「アニメ体験」を開講した。

「母と子のビデオ教室」は、受講者が少なく、第1期のみで2期以降は開講しなかった。「ファミリー・ビデオ・クラブ」受講者は6組（1期）、6組（2期）、5組（3期）だった。

子どもの成長記録などをビデオで撮影することは、だれでも手軽にできることはあるが、一面たいへんことでもある。ちょっとした決意というか、熱意がいる。このことは、カメラ（ビデオに限らずスチールも）は買ったけども、ごくたまにしか撮影しないというケースが多いことからも推察できる。カメラがカメラとして機能していないのである。

「手軽に撮影できる」というのは「撮影しようと思えば手軽にできる」という意味であり、「思い」の部分を忘れてしまうと手軽ではなくなってしまう。ファミリー・ビデオ・クラブに来ているお母さん方はこの「思い」を大切にしてビデオ作りに励んでいるわけだが、新しく受講される方々へうまく伝わっていない。「母と子のビデオ教室」の内容も含めて、どのような働きかけをしていったらよいか検討していかなければならない。

×

×

×

「アニメ体験」は第1期は、新しく受講する子どもが参加しやすいように、また指導が混乱しないように新規受講者のみとしたため、受講者が少なかった。2期以降は当初から予定していたように継続受講者も受け付けることにした。

子どもたちは1期分の基礎的なコースを終了するころには、ビデオ機器の基本的な使い方をほとんどマスターしてしまい、2回目からはオリジナルのキャラクターとストーリーを考えてアニメ作りに取り組む。半年以上をかけて約3分の大作を完成させた子どももいる。約1/4秒のコマ撮りとすると、720回もスイッチを押したことになる。たいへんな作業量である。

このように膨大な作業を子どもたちは、いやな顔もせずに取り組む。「させられる」のではなく、主体的に「する」という気持ちがあるからできるのであろう。子どもたちの能力のすばらしさを教えられた。

6 保育研究開発部

6 保 育

(1) 元年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00							
10:00							
11:00 母子教室	保育	幼保児育 グクル ラブ	保育	幼保児育 グクル ラブ	保育	幼保児育 グクル ラブ	保育
12:00	育		育		育		育
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							

III 各部の活動(1)

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
保育室Ⅱの一般開放	4.1～2・3.31 毎週土、日曜日、祝・祭日 特別期間	10:00～17:00	保育室Ⅱ	(人) 職 員	一般来館者対象
授乳室	4.1～12.30 毎週日曜日、祝・祭日	10:00～17:00	保育室Ⅰ	"	"
青空プレイ大会	10.10	9:30～12:00	渋谷区立渋谷小学校	"	保育クラブ会員
保育フェティバル	12.18	14:00～15:45	青山円形劇場	職 員 ピッコロ座	保育クラブ会員、一般親子
親子遠足「砧公園」	5.29	10:00～13:00	都立砧公園	職 員	保育クラブ会員
保育活動展	2・3. 1～3.7	10:00～17:00	保育室 廊下 ロビー	職 員	保育クラブ、幼児グループの年間活動の展示
保育相談カンファレンス	7.8 9.9 12.9 2・3.9	14:00～17:00	研修室	山崎美貴子 山田美和子 職 員	保育所、児童館など児童施設の電話相談担当者

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<親子あそび>				(人)	
(夏休み) 「夏がきた」「パネルシアター」 「親子であそぼう」－体操のお兄さんと一緒に－ 「おやつの実演会」	7.29 8.5 8.19 8.26	14:00～14:30 15:00～15:30	保育室Ⅱ	職 員 大妻女子大学学生	一般来館親子対象
(冬休み) 「クリスマス」「お正月」	12.23 2・1.6	14:00～14:30 15:00～15:30 14:00～14:30	" "	職 員	
(春休み) 「春がきた」	3.24	14:00～14:30 15:00～15:30	"	"	
<保育セミナー>					
1 ボディーワークショップ	8.9	9:30～17:00	研修室	大阪からだとこころの出会いの会 松井 洋子氏	保育関係従事者対象 (6,000円)
2 保育セミナー ・シンポジウム ・実践研究 ・ディスカッション ・ボディーワークショップ	8.10・11	9:30～18:00	青山円形劇場 研修室	日本女子大学教授 森上 史朗氏 大妻女子大学教授 昌子 武司氏 昭和女子大学教授 高杉 自子氏 松山東雲短期大学助教授 吉村真理子氏 大阪からだとこころの出会いの会 松井 洋子氏 童話作家 中川季枝子氏	(10,000円)

6 保 育

3) 講座・クラブ

名 称	対象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員	受講数						
母子教室 14期	1歳児 母	(人) 12	(人) 12			(回) 2か月9回	(円) (消費税別) 18,000	巻野 悟郎氏 青山学院大学教授 永井千恵子氏 職員	
15期	1歳児 母	13	13	日曜日 10:30~ 12:30	保育室Ⅱ	4か月16回	32,000	巻野 悟郎氏 東京外語大助教授 田島 信元氏 永井千恵子氏 職員	
16期		"	13			3か月9回	18,000	巻野 悟郎氏 田島 信元氏 職員	
保育クラブ	1~5歳	(備考 欄照) 593		月~土曜日 10:00~ 17:30	保育室Ⅰ ・Ⅱ	年間 285日	1~2歳 900円/時間 3~5歳 700円/時間	職員	単位時間あたりの定員 1~2歳 12人 3~5歳 10人 1~5歳 10人
幼児グループ	4~5歳	20	18	火~金曜日 10:00~ 14:00	保育室Ⅰ プール 音楽スタジオ プレイホールほか	4.7~ 7.20 9.5~ 12.22 2.1.9~ 3.19	月32,000 (給食費 2,000円 を含む)	職員	

(2) 保育研究開発部の活動

遊び場がない、友達と遊べない、育児について不安や悩みがある。母親の就労や社会参加のため保育が必要である、など今日の育児を取り巻くさまざまな状況にこたえるための保育プログラムの実践・開発を前年度の活動結果を踏まえて以下のように展開した。また研修事業については保育セミナーのほかに、他機関との連携を広げることにも留意して、保育相談のカンファレンスを新規事業として実行した。

(1) 保育事業

- ① 1歳児の母子教室
- ② 週1～3日、3～8時間の非定型保育を行う保育クラブ
- ③ 週4日定期メンバーによる継続保育を行う幼児グループ

(2) 研修事業

- ① 保育セミナー
- ② 保育相談のカンファレンス

(3) 研究活動

- ① 育児不安、幼児の気質についての調査
- ② 障害児保育について特に幼児との相互交渉の研究
- ③ 夜間保育における乳幼児処遇方法の研究

1) 保育事業

(ア) 母子教室

第14～16期の3期の母子教室を行った。1歳児母子12～13組を対象とし9回、及び16回のプログラム構成によって実施した。

この事業に対する関心は高く、いずれの期も定員を上回る熱心な応募があった。

申し込み時に母親の育児に関する意識についてアンケート調査を行い、またプログラムの開始前には面談を行って母子の置かれている状況を把握した上でプログラム展開に努めた。母子教室終了後は昨年に引き続き保育クラブに登録することによりアフターフォローを行った。

(イ) 保育クラブ

特に需要の高い2歳児の受け入れのために子どもの城児童活動エリアの休館日である月曜日に保育クラブを開く試みを行った。前年度からの更新会員に加えて会員の補充を行ったが、募集にあたっては、参加の動機、理由（育児不安、育児に問題意識を持っている、集団あそびの場を必要としている、母親の就労、緊急の要件など）を明確にして意図的な会員構成を行った。特に2・3歳児の会員では、育児上の問題、子ども自身の問題を持つものを半数以上受け入れた。保育プログラムは、1・2歳、3～5歳、1～5歳に大きく分けた。

初めての集団体験となる1・2歳は保育者との個別的な関係を重視した保育プログラムを、3～5歳は幼児グループとの交流や子どもの城での活動を通して集団遊びを広げる経験を、更に1～5歳プログラムでは異なった年齢の集団による子ども同士の関係を重視した保育プログラムを行った。

① 1・2歳の活動

前年度に引き続き3か月の定期予約グループと、日々予約をするフリー予約メンバーと一緒にして、遊びを中心とした保育活動を行った。母子分離の過程や母子関係をていねいに考えることに配慮した。

保育観察室の活用や受け入れ、お迎え時の母と保育者とのコミュニケーションを大にし、子どもの状態を考えながら無理なく集団参加ができるように留意した。また、月曜日も活動することによって生じた時間枠を利用して新規のプログラム「母と子のクラブ」を開設し、母子分離を前提とした親子の活動に取り組んだ。

② 3～5歳の活動

幼児グループの4・5歳児とともに活動を行った。主に3歳児を中心に3か月間の定期予約児とフリー予約児が週1～3日保育活動に参加した。利用目的は集団に参加させたいとするものが主流であった。

3歳児の安定に留意し、年齢別の活動も保障しながら4・5歳児と交流することにより異年齢のさまざまなかかわりが徐々に育っていった。保育日数の異なるメンバーによる活動なので、特に継続した遊びや活動に参加する場合に保育の環境設定やプログラム日程の組み方に配慮し、工夫をした。

③ 1～5歳の活動

午後の時間帯及び月曜日と土曜日は1～5歳の少人数による兄弟グループ的な保育を行った。保育者との個別の対応を大切にしながら少人数のなかで異年齢のかかわりを体験できるようにプログラム展開を工夫した。

午後の時間帯は母親の就労、社会参加のために保育を必要とする利用者が多かった。プログラムの内容を、おやつ作り、館内オリエンテーリング、野外活動、ごっこ遊びなど少人数の特性を生かして家族的なくつろいだ雰囲気を作るよう留意した。またお迎えの時間がありバラバラにならないよう、家庭と協力して時間を調整したり、特に長時間利用の場合は、親と面談を行って子どもの様子を詳しく伝え合うことに努めた。

小グループの家庭的な雰囲気の保育により異年齢間のかかわりがいろいろな場面で育ったが、一方で長時間保育児と午後からの活動参加児とが一緒に活動するために、それぞれの疲労度や集中力に差が大きく前年度に引き続き検討課題であった。

月曜日、土曜日については午前中の時間帯に集団保育を目的とする需要が高かったが、午後の時間帯の利用者は少なく、親子イベントプログラムを実施するなど活用の工夫を図った。

④ 親子プログラム

親と保育者のコミュニケーションを深める、親子活動により親子のスキンシップを深め

る、会員同士お互いに他の親子の様子をみて学んだり、交流を深めたりすることを目的として親子参加プログラムを幼児グループとともに次のように行った。

5月 都立砧公園の親子遠足

10月 渋谷区立渋谷小学校校庭における青空プレイ大会

12月 こどもの城青山円形劇場における保育フェスティバル

12月に行った保育フェスティバルは円形劇場の特性を生かして親子で集い、子どもたちの表現する力を発表したり、親子のスキンシップ、コミュニケーションを深め、また参加者同士の交流を深めることをねらいとした企画であった。このプログラムには子どもの城友の会会員からも予想外の反響があり、こうした保育活動への期待の大きさを再認識させられた。

(イ) 幼児グループ

子どもの城の機能を活用しながら、保育クラブの3～5歳児と合流して異年齢保育を行った。4歳児12人、5歳児9人の計21人が週4日の活動に参加した。

今年度は精神発達遅滞を持つ5歳児1名をメンバーに加えて障害児保育を行いながら他児との相互交渉についての研究を行った。主なプログラムとしては次のものがあげられる。

○運動あそび

子どもの体力を総合的に考えて、週1回のプール活動を初めとして、子どもの城の内外で運動遊びを工夫し積極的に取り入れた。

○自然の素材体験

自然の素材体験を十分にさせる視点から素材として泥粘土、木を取り上げて年間を通じ、季節に応じていろいろな角度からの感覚体験、表現活動を展開した。

○ごっこあそび

日々の遊びの中から発展したおみせやさんごっこ、忍者ごっこ、おうちごっこなどが長い期間継続発展し子ども同士のさまざまなかかわり合いやイメージの広がりが認められた。

○外国人との触れ合い

アメリカ、スリランカ、タイの国からゲストを迎えてその国の遊びや生活について紹介してもらったり、一緒に遊んだりして1日を過ごし子どもたちの中に外国が身近な存在として受け止められた。同時に家庭にもその様子をお知らせで伝え家族で外国を感じ取り話し合うきっかけとなった。

このほか、保育フェスティバルで、青山円形劇場で表現活動を発表したり体育部門、音楽部門の協力を得て体育室、音楽スタジオにおけるプログラムを実施したり、また定期的に代々木公園に出かけて自然と親しむなど「子どもの城」の特性を生かしたプログラム開発に努力をした。

夏には「子どもの城」で行われた館内宿泊キャンプ（キャッスルキャンプ）に参加して宿泊体験をしこの経験を踏まえて5歳児が野外宿泊保育（9月3・4日、相模湖ピクニックランド）を行い自信を深めた。「子どもの城」での保育活動の特性を考え、更にプログラム開発についての試みを続けると同時に、幼児グループの子どもたちの成長の様子を年齢を追って

長期にわたってとらえていくことが引き続き、幼児グループの課題である。

2) 研修事業

(ア) 保育セミナー

「表現とコミュニケーション」をテーマとして第3回保育セミナーを開催した。保育所、幼稚園、学校、保育者養成校などの各分野から159人の参加者があった。第1日目は、松井洋子氏（大阪からだとこころの出会いの会）によるボディーワークショップ「からだ こころをひらく」を行った。自分自身の緊張に気づき「からだ・こころ」を開いていく取り組み、他者とぶつかり交流して自分を表現するレッスンが行われ、参加者からは自分自身についての気づきや発見があったとの反響が多く寄せられた。

2日目と3日目にはビデオセッション、シンポジウム、実践発表とディスカッションからなるセミナーを行った。ビデオセッションでは具体的な実践のイメージを共通にするために、3つの園の実践のビデオを視聴した。シンポジウムは、森上史朗氏（日本女子大教授）、昌子武司氏（大妻女子大教授）、高杉自子氏（昭和女子大教授）、吉村真理子氏（松山東雲短大助教授）、松井洋子氏（大阪からだとこころの出会いの会）、中川李枝子氏（童話作家）をシンポジストとして「子どもの視座から“表現”をみなおす」と題して行った。「保育者自身の感性について」；「人とのかかわりの中で生まれてくる表現について」；「子どもを受け入れる大人が大人として確立していることの大切さについて」；「子どもの快・不快の気持ちを認めること、そのために自分自身の快・不快を大事にすること」；「スキニシップを基本として表現、コミュニケーションがスタートするのではないか」；などテーマに添ってそれぞれの立場からの発言があり、フロアからもそれぞれの現場で直面している問題点に関連して活発な質疑、討論がなされた。3日目の実践研究では、新宿区立淀橋第6幼稚園、世田谷区立わかつたけ保育園、桐朋学園桐朋幼稚園からの実践報告があった。参加者はそれぞれのグループに分かれて活発に意見交換を行い、時間が不足なほどであった。

(イ) 保育相談のカンファレンス

保育所などにおいて電話相談が実施されているが、その担当者がそれぞれの相談内容についてスーパーバイザーのもとでケースカンファレンスを行う機会がなく、相談者自身不安を持っているという状況を踏まえて、ケースカンファレンスを実施した。スーパーバイザーに明治学院大学教授、山崎美貴子氏を、オブザーバーに全国社会福祉協議会、山田美和子氏を迎えて、保育所、児童館などの電話相談担当者を対象として年間6回のプログラムとした。東京都、神奈川県、栃木県、埼玉県の保育所、市役所の保育課などから15人の参加があった。それぞれの実際の相談のケースを持ち寄って熱心な検討が行われ、参加者から保育相談の実際上の技術レベルの向上につながった、との意見が寄せられた。

3) 研究活動

(ア) 育児不安、幼児の気質についての調査

低年齢児の母子関係について9期から15期までの母子教室に参加した母子91組を対象にアンケートを行い、特に母親の育児不安についてその背景となる要因の調査研究を行った。育児不安の背景となる要因として同年代の子どもがいない、遊び方が分からず、専門家の話を聞きたいが適切な施設がない、夫の育児参加が得られない、など母親側から都市部の生活環境を反映した回答が多く得られた。また子どもの行動のタイプが母親の育児不安に関連していることについても興味深い結果が得られ、児童研究69巻に報告した。

(イ) 障害児保育について、特に他児との相互交渉の研究

発達上なんらかの問題を持つ子どもが集団に参加する場合に集団への影響はどうなのか、特に受け入れる子どもの母集団の側からの影響はどうなのかを明らかにする目的で、集団遊び場面をVTRで記録したものを行動評定法によって分析した。年少児、年中児、年長児と対象児のそれぞれの行動特性について結果を得た。日本保育学会第43回大会で報告した。

(ウ) 夜間保育における乳幼児処遇方法の研究

全国夜間保育園連盟、全国社会福祉協議会による夜間保育所の調査研究の一環として、夜間保育児の発達上の特徴と保育の在り方について研究した。結果は「今後の保育対策をさぐる—夜間保育所の調査研究からー」に報告した。

保育クラブ活動状況

(I) 居住地域分布

		会員全体		利用者				会員全体		利用者		
都道府県	市 区	人数	%	人数	%	都道府県	市 区	人数	%	人数	%	
東京都	港 区	116	19.6	57	17.9	東京都	葛 館 区	3	0.5	1	0.3	
	渋 谷 区	80	13.5	49	15.4		江 戸 川 区	1	0.2	0	0.0	
	世 田 谷 区	96	16.2	58	18.2		荒 川 区	1	0.2	0	0.0	
	目 黒 区	39	6.6	16	5.0		中 野 区	9	1.5	5	1.6	
	新 宿 区	22	3.7	14	4.4		墨 田 区	0	0.0	0	0.0	
	大 田 区	26	4.4	12	3.8		練 馬 区	4	0.7	2	0.6	
	品 川 区	10	1.7	5	1.6		23 区外	29	4.9	18	5.7	
	杉 並 区	12	2.0	6	1.9		神奈川県	川 崎 市	16	2.7	4	1.3
	台 東 区	5	0.8	3	0.9		横 浜 市	18	3.0	12	3.8	
	千 代 田 区	32	5.4	26	8.2		その他の市	4	0.7	2	0.6	
	板 橋 区	6	1.0	1	0.3		静 岡 県	2	0.3	0	0.0	
	豊 島 区	1	0.2	0	0.0		千 葉 県	9	1.5	2	0.6	
	江 東 区	9	1.5	3	0.9		茨 城 県	3	0.5	3	0.9	
	中 央 区	6	1.0	4	1.3		埼 玉 県	6	1.0	4	1.3	
	北 区	2	0.3	1	0.3		そ の 他 の 県	10	1.7	4	1.3	
	足 立 区	1	0.2	0	0.0	合 计		593	100.0	318	100.0	
	文 京 区	15	2.5	6	1.9							

6 保 育

(II) 性別・年齢分布(%)

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
男児	55 (9.3)	74 (12.5)	68 (11.5)	58 (9.8)	42 (7.1)	0 (0.0)	297 (50.1)
女児	53 (8.9)	62 (10.5)	77 (13.0)	74 (12.5)	30 (5.1)	0 (0.0)	296 (49.9)
合計	108 (18.2)	136 (22.9)	145 (24.5)	132 (22.3)	72 (12.1)	0 (0.0)	593 (100.0)

(III) 利用頻度(%)

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
一度も利用しない	62 (57.4)	31 (22.8)	60 (41.4)	82 (62.1)	40 (55.6)	0 (0.0)	275 (46.4)
今まで数回利用している	20 (18.5)	49 (36.0)	47 (32.4)	43 (32.6)	23 (31.9)	0 (0.0)	182 (30.7)
月一回以上利用している	22 (20.4)	39 (28.7)	20 (13.8)	5 (3.8)	7 (9.7)	0 (0.0)	93 (15.7)
週一回以上利用している	4 (3.7)	17 (12.5)	18 (12.4)	2 (1.5)	2 (2.8)	0 (0.0)	43 (7.3)
合計	108 (100.0)	136 (100.0)	145 (100.0)	132 (100.0)	72 (100.0)	0 (0.0)	593 (100.0)

(IV) 利用目的(%)

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
集団保育	299 (67.3)	1,212 (59.4)	1,176 (67.2)	108 (25.2)	100 (23.8)	0 (0.0)	2,895 (56.9)
緊急時	0 (0.0)	12 (0.6)	4 (0.2)	7 (1.6)	2 (0.5)	0 (0.0)	25 (0.5)
就労・就学	72 (16.2)	351 (17.2)	207 (11.8)	239 (55.8)	225 (53.4)	0 (0.0)	1,094 (21.5)
用事	69 (15.5)	399 (19.5)	308 (17.6)	68 (15.9)	86 (20.4)	0 (0.0)	930 (18.3)
講座・サークル	4 (0.9)	67 (3.3)	55 (3.1)	5 (1.2)	7 (1.7)	0 (0.0)	138 (2.7)
保育相談	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.2)	1 (0.2)	0 (0.0)	2 (0.0)
合計	444 (100.0)	2,042 (100.0)	1,750 (100.0)	428 (100.0)	421 (100.0)	0 (0.0)	5,085 (100.0)

幼児グループ (1989. 4~1990. 3)

4歳児 12人
5歳児 9人
21人

母子教室 (1989. 5~1990. 3)

1歳児母子
第14期 (5月~7月) 母子12組
第15期 (9月~12月) 母子13組
第16期 (1月~12月) 母子13組

III 各部の活動(1)

母子教室(第15期)

回	月 日	テ　一　マ　(講　師)	会 場
1	9.11(月)	お母さんと遊ぼう (1) オリエンテーション 保育研究開発部	保育室2
2	9.18(火)	お母さんと遊ぼう (2) 一動いて遊ぼうーー	" "
3	9.25(火)	お母さんと遊ぼう (3) 一動いて遊ぼう2ーー	" "
4	10.2(火)	お母さんと遊ぼう (4) ー粘土で遊ぼうー	" "
5	10.9(火)	お母さんと遊ぼう (5) ー紙で遊ぼうー	" "
6	10.16(火)	お母さんと遊ぼう (6) ー母子で楽しく1ー	" "
※7	10.22(日)	お母さんと遊ぼう (7) お父さんの子育て講座 保育研究開発部 プレイ事業部長 神谷 明宏氏	保育室2 保育室1
8	10.30(月)	お母さんと遊ぼう (8) ー母子で楽しく2ー	保育研究開発部
9	11.6(火)	お母さんの手作り人形	" "
10	11.13(火)	家庭教育を考える 青山学院大学教授 永井千恵子氏	" "
11	11.20(火)	子どもの発達と子育て 1 東京外語大学助教授 田島 信元氏	" "
12	11.27(火)	子どもの発達と子育て 2	" "
13	12.2(火)	子どもの発達と子育て 3	" "
14	12.11(火)	子どもの発達と子育て 4	" "
※15	12.17(日)	子育ての医学 子どもの城小児保健部 巷野 健郎氏	保育室1
16	12.23(土)	おわかれパーティー・みんなで遊ぼう 保育研究開発部	保育室2

※第7回、第15回はお父さんも一緒に参加。

母子教室(第16期)

回	月 日	テ　一　マ　(講　師)	会 場
1	1.22(月)	お母さんと遊ぼう (1) オリエンテーション 保育研究開発部	保育室2
2	1.29(火)	お母さんと遊ぼう (2) ー動いて遊ぼうー	" "
3	2.5(火)	お母さんと遊ぼう (3) ー動いて遊ぼうー	" "
※4	2.18(日)	お母さんと遊ぼう (4) ー紙で遊ぼうー お父さんの子育て講座 保育研究開発部 プレイ事業部長	" "
5	2.26(月)	お母さんと遊ぼう (5) ー粘土で遊ぼうー 保育研究開発部	保育室2 保育室1
6	3.5(火)	子どもの発達と子育て 1 東京外語大学 田島 信元氏	保育室2
7	3.12(火)	子どもの発達と子育て 2	" "
※8	3.18(日)	子育ての医学 小児保健部長 巷野 健郎氏	" "
9	3.26(月)	お別れパーティーーみんなで遊ぼう！ー 保育研究開発部	" "

※第4回第8回はお父さんも一緒に参加。

7 小児保健部

7 小児保健

(1) 元年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

	月	火	水	木	金	土	日	
9:00								
10:00								
11:00		総合健康相談 発達(月1回) 耳鼻科相談 マタニティ・スマミング	ミーティング ケース・カン ファラーンス	言語相談	心理相談	母と子のペチャバチャスイム 育児・生活相談(健診日)	精神相談(月1回) 総合健康相談	ダウン症相談(月1回) 神経相談(月1回)
12:00	休		健康相談	心理相談	マタニティ・スマミング			
13:00								
14:00								
15:00	み	マタニティ心 理相談	発達 相談	育児・生 活相談	言語相談	心理相談	総合健康相談 健康スポーツ教室	
16:00								
17:00								
18:00								

III 各部の活動(1)

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
診療・相談事業 <一般外来> 総合健康相談 <専門外来> 心理相談 育児・生活相談 言語相談 発達相談 精神相談 神経相談 アレルギー・喘息相談 耳鼻科(聴覚・言語)相談 ダウントン症相談	通 年	10:00~ 16:00 (週間事業 表を参照)	5 F 小児保健部	健康保険の 適応 あるいは 相談料 3,500円	小児保健部職員 および外部講師	原則として予約制

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
<児童福祉週間> 子育て相談コーナー	4.29~5.3	13:30~ 16:00	小児保健部	(円) 無料(一般 来館者)	二木武, 巷野悟 郎ほか 小児保健部職員	相談件数15件
<夏休み> 子育て相談コーナー	7.22・23・ 29・30 8.5・6・12 ・13・19・ 20・26・27	13:30~ 16:00	"	"	"	相談件数33件
こども1日ドック	7.25・27	12:30~ 17:30	小児保健部 健康開発室	5,000(血液 検査等は実 費)	体育, 小児保健 部職員	小・中学生対象 受診21人
健康教室集中講座	8.27・28・ 29	14:00~ 17:00	研修室 体育室	6,000	東京女子医大教 授 村田光範 氏, 和洋女子大 教授坂本元子氏 体育, 造形, 小 児保健部職員	対象は太りすぎの 小学生とその親 参加14組
<開館記念> セミナー「変わる育 児事情」—子どもの 食を考える—	11.25	13:30~ 18:00	研修室	2,000	国立小児病院皮 膚科医長 山本 一哉氏 二木武 巷野悟 郎	参加者166人(保母, 看護婦, 保健婦, 園長など)
<冬休み> 子育て相談コーナー	12.23・24 ・25・26	13:30~ 16:00	小児保健部	無料(一般 来館者)	二木武, 巷野悟 郎ほか 小児保健部職員	相談件数7件
こども1日ドック	2.1・5・6	12:30~ 17:30	小児保健部 健康開発室	5,000(血液 検査等は実 費)	体育, 小児保健 部職員	小・中学生対象 受診6人
<春休み> 子育て相談コーナー	3.28~4.1	13:30~ 16:00	小児保健部	無料(一般 来館者)	二木武, 巷野悟 郎ほか 小児保健部職員	相談件数13件
第5回こどもの城マ タニティ・コンサー ト	6.17・18	14:00 (約2時間)	青山円形劇 場	2,100	出演者 ミッヂライブ, 野末源一, 市川 英子, 巷野悟郎 各氏	対象は妊娠5~9 か月の妊婦とその 夫。将来、子ども を持ちたい人 参加人数 2回合計 294人

7 小児保健

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
第6回こどもの城マタニティ・コンサート	11.11	①13:30 ②17:00	青山円形劇場	(円) 2,100	出演者 高橋久美子 ねじめ 福嶽重隆、高橋 悦二郎、渡辺言 夫、野末源一、 市川英子、巷野 悟郎氏	対象は妊娠5~9 か月の妊婦とその 夫。将来、子ども を持ちたい人 参加人数3回合計 351人
	" .12	13:30 (各回約2 時間)				
マタニティ・スイミング同窓会(第4回)	6.15	①10:30~ 12:00 ②13:30~ 15:00	Bリハーサル室	親子1組 2,000	体育、小児保健 部職員	対象はマタニティ ・スイミング講座 の卒業生 参加81組

3) 講座・クラブ等

名 称	対 象	人 数		曜 日 帯	場所	期 间 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員	受講数						
健康スポーツ教室<太りすぎクラス>第VI期	小1~6年 の太り すぎ児童	(人) 30	(人) 21 29 22	土曜日 14:00~17:00	小児保 健部 体育室 プール 健康開 発室 研修室	4.15~7.8 (12回)	(円) 20,000	東京女子医 大教授 村 田光範氏 和洋女子大 教授 坂本 元子氏、同 助教授 小 林幸子氏、 同講師 石 井莊子氏、 同助手 川 野辺由美子 氏、体育、造形、 小児保健部 職員	定員に空 きがあれ ば学期ご との入会 可
						9.9~12.2 (12回)			
						1.13~3.17 (10回) 全34回	17,000 (検査 ・診察 料は別 途)		
マタニティ・ スイミング	妊娠1~6 週以降の 妊婦	各月35	4月34 5 36 6 37 7 38 8 36 9 33 10 36 11 34 12 30 1 25 2 34 3 31	<水泳> 火・木曜日 10:00~12:30 <レクチャー> 月1回(火また は木曜日) 13:30~14:30	プール 研修室 ホテル 和室	通年(毎月 7回)	入会金 5,000 月謝 10,000 (臨月 に限り D・H ・Cビ ジター 扱いも 可)	日本赤十字 社医療セン ター産科医 師、助産婦 体育、小児 保健部職員	
母と子のリト ミック <ダウントラ ス>第VI期	3~5歳 のダウント ラス症児とそ の親	10組	(組) 7 9 8	木曜日 14:30~15:30	音楽ス タジオ A	4.13~7.20 (12回) 9.7~12.20 (12回) 2.1.11~ 3.22(10回) 全34回	15,000 " " 12,000	玉川大講師 吉村温子氏 川口あづさ 氏ほか 音楽、小児 保健部職員	定員に空 きがあれ ば学期ご との入会 可
肥満児指導者 講習会(第6 回)	養護教諭 栄養士 保健婦 保母など	50	37	金曜日 10:00~17:00	研修室 体育室	9.8	8,000	東京女子医 大教授 村 田光範氏 和洋女子大 教授 坂本 元子氏 体育職員	
" (第7回)	"	"	57	土曜日 10:00~17:00	研修室 体育室	2~3.24	8,000	"	

(2) 小児保健部の活動

元年度における小児保健部の活動としては、これまでに引き続き、三本の柱として診療・相談（クリニック）活動、講座（健康教室）および研究・研修活動の充実を目指をおいた。具体的な事業内容としては、前年度に実施したものとほぼ同じプログラムであった。

1) 診療・相談活動

診療・相談活動は、前年度同様に実施され、特に新しい専門相談等の開設はなかった。小児保健部（小児保健クリニック）における診療・相談は、カゼや腹痛などの急性あるいは一過性の疾患ではなく、子どもの体や心の発育・発達に関して日常生活の中で生じている問題を対象としている。子ども自身に表れた症状を主訴として来所した場合でも、その背景には家庭や生活環境が大きく影響しており、相談では生育歴やその子どもを取り巻く人間関係・社会環境について詳しく話を聞く必要がある。また、都市化や核家族化が進む現代において、孤立しがちである母親の育児不安に対応し、母親の訴えをよく聞き、心を安定させることが重要である。従って、小児保健部では、1人当たりに充分な時間をかけた相談体制をとっており、このことが特徴のひとつでもある。さらに、1人の子どもの問題に医師、保健婦、看護婦、心理相談員、言語療法士、栄養士、臨床検査技師などの様々な専門的立場から関与することも小児保健部の運営の特色である。

本年度の診療・相談活動においては、これまで同様時間をかけた相談を実施するとともに、相談の質の充実のために、部内での異職種間の連絡・連携のあり方を見直し、カンファレンスの充実、カルテ様式の改良、連絡票の作成などを行った。さらに、一般の家庭や小児保健関係者に対して活動内容を周知することにより利用者数の増加をはかった。

診療・相談への来所者の数、居住地域、来所時年齢、主訴・問題（相談内容）については表に示した。平成元年度の新規来所者数は582人であった。この中には、マタニティ・スイミング受講者も含まれている。再来所者を含めての月別診療・相談件数は年間延べ数で2,269件であり、前年度件数より約15%の増加であった。件数増加の要因としては、これまで継続して行ってきた関係機関への広報活動により、関係者の診療・相談活動への理解が深まってきたこと、小児保健部受診者や他の「こどもの城」利用者の紹介が増加したこと、および新聞や雑誌の取材などにより広く一般への周知がはかられたことがあげられる。

(ア) 来所者の居住地域

地元の渋谷区を中心とした隣接区よりの来所が最も多く、23区内居住者が全体の70%を占めている。次いで、神奈川県（川崎市、横浜市）からも多い。子どもを連れての来所であるため、交通の便の良い地区からが多くなる傾向がみられる。

(イ) 来所時の年齢

マタニティ・スイミング受講者を除くと、前年度同様、0～6歳の幼児が多く、小児の来

7 小児保健

<小児保健部来所者の概要>

(1) 新規来所者数

	実 数 (人)
診 療	232
健診・相談	234
マタニティスイミング	116
合 計	582

(2) 来所者の居住地域内訳

居 住 地 域	人 数	%
渋 谷 区	104	17.9
世 田 谷 区	92	15.8
新 宿 区	21	3.6
新 港 区	33	5.7
目 黒 区	19	3.3
そ の 他 の 23 区 内	147	25.3
都 内 (市 部)	36	6.2
神 奈 川 県	69	11.9
千 葉 県	22	3.8
埼 玉 県	25	4.3
そ の 他 の 都 道 府 県	14	2.4
合 計	582	100

(3) 初回来所時年齢内訳

0	79 (人)
1	57
2	59
3	47
4	33
5	29
6	35
7	18
8	23
9	26
10	17
11	12
12~17	19
18歳以上	128
合 計	582

(4) 新規来所者の主訴・問題内訳（重複あり）

主 訴 ・ 問 題	人 数	%	微細脳障害	3	0.5
ぜんそく・アトピー・湿疹	13	2.2	育児・健康相談	234	39.9
肥満	56	9.5	その他 心理面の相談 (遊べない、社会的不適応など)	5	0.9
神経症・習癖・情緒障害等 (遺尿・夜尿・緘黙・恐怖症など)	55	9.4	その他 身体面の相談(斜視、てんかん、脳性まひ、低身長、頭痛等)	25	4.3
言語発達遅滞(疑いも含む)	48	8.2	ダウン症、その他の先天異常	18	3.1
精神・運動発達遅滞(疑いも含む)	9	1.5	マタニティスイミング受講者	116	19.8
自閉症	5	0.9	合 計	587	100.0

III 各部の活動(1)

(5) 月別診療・相談件数（特別期間の無料相談コーナーの相談者を除く）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
診療	163	170	182	195	148	175	160	143	167	136	147	200	1,986
相談	9	19	45	21	27	24	38	17	16	24	19	24	283
合計	172	189	227	216	175	199	198	160	183	160	166	224	2,296

所者の4分の3を占めた。

(ウ) 相談内容について

前年度に引き続き、育児・健康相談の件数が本年度においても増加がみられた。これは、小児保健クリニックが必ずしも障害児のみを対象としているのではなく、育児に関する問題を気軽に、しかも時間をかけて相談できる医療機関として周知されてきたためと思われる。また、マタニティ・スイミングの卒業生や保育クラブ在籍児による利用も増加した。

年齢による主訴を大別すると、0・1歳では、発達の遅れの疑いや、離乳食、夜泣き、湿疹やアトピー性皮膚炎などの相談が多い。2歳前後では、歩かないなどの運動発達に関してや、言葉が出ないなどの言語発達に関する相談が多くなっている。3・4歳では、幼稚園などの集団になじめない等の社会適応や情緒・行動面での相談が多い。5～6歳では、遺尿・夜尿、チックなどの神経症的な問題に関する相談が多く、学齢以上になると登校拒否などの学校生活不適応や肥満に関する相談が多くなる傾向がみられた。特に本年度は、肥満、神経症・習癖・情諸障害および言語発達に関する問題を訴えるものが増加した。肥満に関する相談が多いことは、開館当初より健康教室という形で小児肥満に対して「子どもの城」全体で取り組んできた成果の現れで、マスコミでの紹介頻度も多くなってきたことによると考えられる。

2) 講 座

(ア) 健康スポーツ教室（太りすぎクラス）

〈第VI期〉

「子どもの城」開館当初より発足したこの講座も5年目を迎え内容もかなり充実してきたといえる。前年度同様1年コースとしたが、受講者は、1学期21人、2学期29人、3学期22人であり、参加者実数は35人、うち1年間通して参加した者は10人であった。テレビや新聞等のマスコミで何度か紹介されたため、途中からの入会者も多かった。

活動内容は、毎週の運動プログラムとともに各学期の初めと終わりに医学・栄養面での個別指導を行った。また、好きなこと、熱中できることをみつける機会を提供する意味で、各学期に1、2回、音楽や造形プログラムも取り入れた。体育、音楽、造形各事業部の協力のもとに行う「子どもの城」ならではの総合的な健康づくりプログラムといえる。

第VI期受講期間中に肥満度が減少した者は1学期13人、2学期19人、3学期12人であり、6～7割は肥満の改善がみられた。終了時のアンケートによると、指導されたことで達成できた点としては、

- ▼食生活に关心をもつ
- ▼食事面でエネルギーのとりすぎに注意する
- ▼菓子類やジュースおよび塩分の摂取を少なくする
- ▼1日3食キッチンと食べるようとした
- ▼給食のおかわりをやめる

などであった。

一方、努力したが実行できなかった点としては

- ▼外食を少なくする
- ▼ゆっくり食べる
- ▼家でよく体を動かす

などであった。日常の生活においてできるだけこまめに体を動かすことは肥満の改善のためには欠かせないことであり、その意欲を高めるため、万歩計を携帯させて毎日の歩数を記録することも行ったが、目標の1日2万歩に達した者は少なく、平均して1万～1万5,000歩であった。このことからも、食事や栄養面での指導効果は上がりやすいが、日常の運動量を増やすことが難しいことがわかった。

また、これまでの受講児のデータより、教室での指導が中断した場合に肥満度の上昇がみられ、特に夏休みの間に肥満度が増加したものが70%近くいたため、休み期間中のフォロー・アップの目的で、体育事業部の主催するスポーツ・キャンプへの参加を受講児に勧めた。その結果、夏休みは、9人、冬のスキー・キャンプには8人が参加した。

本教室の実践は次年度で6年目を迎えることになる。小児の肥満については、将来成人病への移行率が高いとされており、今後も小児保健や学校保健分野においてますます重視される問題であると思われる。小児保健部においても、これまでの蓄積されたデータの解析を行いながら、さらに望ましいプログラム作りをすすめていきたい。

(イ) マタニティ・スイミング

妊娠中の生活を心身ともにより快適に送ってもらうことを趣旨としたこの講座も、4年目を迎えた。体育事業部と小児保健部の共同事業とし、さらに日本赤十字社医療センター（産科および分娩室）の協力を得て実施した。

プログラムはこれまでと同様、毎週火曜・木曜に月7回実施された。水泳は原則として、11時から12時で、産科医師または助産婦が立ち会って検診を水泳前後に行い、その他に月1回レクチャーの時間を設けた（表参照）。定員は、35人であるが、冬期を除いて毎月10人前後の受講待機者がいた。これは、年々マタニティ・スポーツが盛んになってきている傾向の反映ともいえるが、安心して参加できる体制である点が認められてきた結果でもある。年間延べ116人の受講者であり、ほとんどが20代後半から30代前半の初産の主婦であった。また、卒

III 各部の活動(1)

マタニティ・スイミング レクチャーのテーマと講師（敬称略）

月	講 義 テ 一 マ	講 師 (敬称略)
4	お産の呼吸法	日赤分娩室 助産婦 加藤 真実
5	子育てを楽しく	小児保健部 部長 巷野 悟郎
6	先輩ママのお産体験	” 太田・梅田
7	乳首の手当	日赤分娩室 助産婦 市川 英子
8	産前、産後のダイエット	小児保健部 栄養士 太田百合子
9	赤ちゃんからのメッセージ	日赤産婦人科 医局長 浦野 晴義
10	お産の呼吸法	日赤分娩室 助産婦 市川 英子
11	子育てを楽しく	小児保健部 部長 巷野 悟郎
12	冬生まれの赤ちゃん	” 保健婦 中沢 恵子
1	乳首の手当	日赤分娩室 助産婦 一瀬いつ子
2	産前、産後のダイエット	小児保健部 栄養士 太田百合子
3	産科の先生を囲んで	日赤産婦人科 医局長 浦野 晴義

業生の再受講すなわち、第1子妊娠時に受講し、さらに第2子についても受講した者は1人であった。

これまでの4年間のデータによると、マタニティ・スイミングを行うことにより、身体的な面においては、治療を受けるほどではない各種の軽い自覚症状（腰背痛、睡眠不良、疲労感、食欲不振、便秘など）の軽減に効果があるようである。特に、腰背痛については、水泳をしていない場合には半数の妊婦が訴えるが、「子どもの城」マタニティ・スイミング受講者では10～15%とかなり少なくなっている。一方、精神的な面では、教室が友人づくりやイライラの解消になるなど精神衛生面で役に立つ、毎回行う健康チェックが妊娠中の自己の健康管理に役立つなどの利点があげられる。

このマタニティ・スイミングに参加した人たちの同窓会は、平成元年6月15日に第4回目を開催した。全部で81組の卒業生母子が集まり、とてもにぎやかな雰囲気であった。この同窓会や受講期間中からの友人関係は、現代の核家族社会における子育てのグループ作りの実践活動としての役割も果たしているといえるだろう。

最近の関係学会では、マタニティ・スイミングが流行のようになっている昨今において、健康状態が良くないのに無理

マタニティ・スイミング 月別新入会生・在籍者数・出席率

月	新入会生	在籍者総数	出席率
4	10人	32人	75%
5	12	34	78
6	10	36	79
7	8	36	75
8	8	36	68
9	12	30	74
10	12	33	80
11	5	34	72
12	6	26	62
1	11	21	68
2	13	31	65
3	4	27	70

に水泳を行ってしまう傾向や、安産や逆子の矯正など、医学的に実証されていない効果を期待して参加する危険性が指摘されている。われわれの教室はあくまでも健康な妊婦を対象にしており、今後も妊娠経過のチェックを怠りないようにし、また、主治医との連携も十分にとりながらより安全なプログラムを実施していきたいと考える。

(ウ) 母と子のリトミック（ダウン症クラス）

〈第VI期〉

音楽や遊びを通じて母子のかかわり方や子どもの発達の見方を考えることを目的としたクラスで、3～5歳のダウン症児の親子10組を対象とした。音楽事業部の協力で、母子一緒のリトミック活動を週1回1時間、4階の音楽スタジオで実施した。

前年度同様、1年コースで実施したが、1学期7組、2学期9組、3学期8組の親子が受講した。通年で参加したものは7組であった。ここでの活動は、障害児のための教育・訓練というよりも、遊びを主体とした楽しい内容であり、お母さんや友達、スタッフとのかかわり合いの中で、自分の気持ちを表現できること、様々な要素のプログラムの中から最も魅力あるものを見つけてもらうことをねらいとしている。プログラムは、名前を呼ばれカスネットで返事をする導入部、リズムに合わせて体を動かす、母子のスキンシップ、造形活動、リラックス、手遊び・指遊び、リトミック体操など様々な要素の活動を取り入れている。これらのプログラムの流れは、画一的ではなく、子どもの発達状態に合わせながら順次変えていくとともに、臨機応変にその日の子どもの状態に合わせるやり方も大切にしている。また、今年度は自然な形で歩行などの粗大運動機能を援助する目的で、平均台、滑り台、ハシゴなどの大型遊具を利用して、膝を曲げてからジャンプすること、高い所からジャンプすること、階段や坂を登り降りすることなどを遊びの中に取り入れてみた。

受講児の母親の感想としては、「楽しくリラックスして参加できる」「いろいろな事を経験でき、積極的に自分を表現できる自信につながった」「順番を待つなど集団でのルールが学べた」「身近な材料を使いながらアイデアいっぱいの楽しい造形活動」「様々な活動を通じて子どもの持つ可能性が見える」「母親にとってもリラックスできる場である」「気長に子どもの要望をきいてもらえる」などがあげられた。

(エ) 夏休み健康教室集中講座（太りすぎクラス 8.27～29）

「健康スポーツ教室」の夏休みにおける短期集中講座として実施した。小児肥満の原因や、肥満と健康との関係を理解させ、肥満改善の方法を身につけさせることを目的に、内容としては、母親には、医学・栄養・運動面からの講義と個別の栄養指導を行い、並行して児童は、体育プログラムと造形・音楽プログラム（くるりんUFO、マラカスつくり、夏の終わりはカーニバル）および全館行事（クイズ大会）に参加した。

受講したのは小学校1～6年生の親子15組で、このうち7組が2学期よりの健康スポーツ教室にも参加した。

(オ) 肥満児指導者講習会（第6回 9.8、第7回 3.24）

主として学校保健関係者など、子どもの肥満の予防と改善について指導を行う立場の人を

対象とした講習会である。「子どもの城」オープン以来継続している「健康スポーツ教室」の経験をふまえ、さらに学校などでの現場指導に役立つよう、実技指導を取り入れたり、質問時間を長く設けるなど、より具体的、実践的な内容となるよう配慮をした。参加者は第6回が37人、第7回が57人。その半数以上が栄養士、20%近くが養護教諭と学校保健関係者が多く、また、北海道から沖縄まで日本全国からの参加がみられ、学校現場における肥満への取り組みの重要性を改めて感じさせられた。受講者のアンケート結果によると、ほとんどが「よかった」「ふつう」としていたが、要望として、「もっと時間をかけて詳しい話が聞きたい」「手元に残る資料がほしい」「心理面での話を聞きたい」「各現場からの事例研究を行ってはどうか」などの意見が述べられていた。これらの点は今後のプログラムの企画に生かして行きたい。

3) 特別企画（催し）

(ア) 子育て相談コーナー（ゴールデンウイーク、夏休み、冬休み、春休み）

館内での小児保健部PRを目的として、一般来館者を対象に無料の相談を実施した。相談件数は、ゴールデンウイーク15、夏休み33、冬休み7、春休み13であった。内容はアトピーや湿疹などの皮膚に関してや、体重の増加不良などの身体面の問題に関する相談が最も多く29件、次いで、夜泣き、指しゃぶり、トイレット・トレーニングなどの育児・生活面での問題が多かった（24件）。

(イ) こども1日ドック（夏休み、冬休み）

学校の休みを機会に、心身両面からの総合健診を行い、生活の見直しを図ることを目的に、体育事業部との協力事業として小・中学生を対象に実施した。内容は、医師による診察や各種の検査（呼吸機能、聴力、身体計測、尿検査、血圧測定）による医学的所見と、健康開発室で行った体力テストの結果、さらに生活習慣調査、食生活調査、心理検査などの分析結果を総合的に考え合わせた所見にもとづき保健、生活指導を行うものである。希望者には、血液検査も追加して行った。夏休み21人、冬休み6人の受診であり、ほとんどは特に異常や問題はなかったが、小児保健クリニックにおいて再診をすすめたものが2人、健康スポーツ教室を紹介したもの1人、他の医療機関を紹介したものが2人であった。

(ウ) 第4回「子どもの城」小児保健セミナー（11.25）

「子どもの城」開館四周年記念事業の一環として、9階研修・会議室で開催した。小児保健部では毎年「変わる育児事情」というテーマのもとに、今日的な育児に関する話題をこのセミナーにおいて取り上げているが、今年度は「子どもの食を考える」と題して、「食」を中心昨今の育児の問題に焦点をあてた内容とした。参加者は、保母、看護婦、保健婦などの小児保健関係者を中心とした約160人であった。内容は、3人の講師の先生方の講演と、参加者からの質疑応答で、午後1時30分から6時までのプログラムであった。

セミナーは、まず、子どもの城小児保健部長巷野悟郎の「最近の育児をめぐって」と題する講演から始められた。ここでは、前だっこおんぶ、うつぶせ寝とあおむけ寝、布おむつ

と紙おむつ、アトピー性皮膚炎と食事、フォローアップミルク、桶谷式母乳育児法の問題点、舌小体切除の問題、ベビースイミング、マタニティ・スイミング、マタニティ・コンサート、胎教、早期教育、日光浴の考え方、水銀体温計と電子体温計、入浴の温度、歩行器、育児情報のはんらんなどの最近の育児全般に関する様々な問題が個々に取り上げられた。そして、時代の移り変わり、生活の多様化、外来文化の導入などが日本独自の育児様式に様々な影響を与えており、育児の当事者である母親が情報に振り回され、混乱している状況が述べられた。

さらに、母親に対して育児指導や相談に携わる立場の人は、常にいろいろな情報を受け入れ、その原点や根拠も含めて正しい知識をもって指導にあたる必要性が強調された。

次に、実践女子大学教授・世田谷区立総合福祉センター所長の二木武先生から、「かまない子、かめない子」と題した話があった。二木先生は児童の栄養、特に乳児期の栄養である母乳や離乳に関する研究を長年続けておられ、厚生省の「離乳基本案」策定委員会のメンバーでもあった。さらに、数多くの育児指導のご経験も踏まえた立場から、次のような内容の話をされた。

かめない子については、昭和50年前後から保育園において問題となりはじめていたが、昭和60年ごろに全国的な調査報告がなされた結果、一挙に社会的関心を集めようになつた。現在は「かめない」「かまない」「丸のみ」「のみこまない」をあわせると、3・4歳児の20～30%を占めると推定される。その原因として、離乳の進め方が適切でないことがあげられる。かめるようになることは、離乳期に段階を踏んで、トレーニングを経た結果、初めて獲得される能力である。すなわち、「口唇食べ」→「舌食べ」→「歯ぐき食べ」を経て咀嚼（そしゃく）の基本が獲得され、さらにその後の幼児期におけるトレーニングにより、健全な咀嚼パターンが完成する。この咀嚼の発達には予想外の時間がかかり、ゆっくりと発達することを理解しておかなければならない。また、咀嚼の発達のためには、単に硬いものを食べさせることではなく、多様な食品体験を経ることが必要不可欠である。

最後に、「アトピー性皮膚炎の治療」というテーマで国立小児病院皮膚科医長の山本一哉先生が講演された。山本先生は「アトピー性皮膚炎は決して新しい病気ではなく、以前は乳児湿疹や小児急性湿疹などと呼ばれていたものと同じである。アトピーという言葉は、約40年前にアメリカの皮膚科医が、皮膚以外にも過敏状態を起こしやすい素質をアトピーと呼んだことが由来であるが、未だに原因については完全にわかっていない。アトピー性皮膚炎の治療のポイントは、日常生活の過ごし方、特に皮膚を清潔に保つスキン・ケアが大切で、加えて外用薬を正しく使うことが重要である」と述べられた。さらに、アトピー性皮膚炎以外の子どもの皮膚症状の特徴についても、日ごろの診療の苦労話や母親指導の難しさなども交えて話があった。

今後も「こどもの城」の研修・啓蒙活動の一環として、「変わる育児事情」に即したテーマを選び、育児・保健指導の現場において役立つような内容のセミナーやシンポジウムを開催する予定である。

(エ) こどもの城マタニティ・コンサート（第5、6回）

前年に引き続き、第5回および第6回をそれぞれ6月と11月に青山円形劇場で開催した。妊婦自身が楽しめ、リラックスできることを目的に、対象は妊婦とその夫および将来子どもを持ちたい人とした。内容は、第5回はフォーク・ジャズという新しい分野に取り組んでいるアルト・サックス奏者の沢村満さんを中心としたミッチ・ライブの演奏であり、第6回は、高橋久美子さんのヴォーカルによるなつかしい歌謡曲や童謡を現代風にアレンジしたコンサートであった。各回とも音楽演奏の合間に、産婦人科と小児科の医師の話や助産婦による呼吸法の指導を行い、妊婦向けの特色ある内容とした。また、妊婦にとって安全で心地よいコンサートとなるよう、会場の椅子や空調、照明などの環境面にも十分配慮した。楽しくゆったりとした妊娠生活を送ることを援助するために、この企画を続けていきたい。

4) 研究活動

診療・相談の内容や効果を検討する目的でいくつかの調査研究を実施した。昭和60年より実施している肥満児のための健康教室において蓄積したデータのまとめを実施しつつ、今後の指導のあり方を検討している。これに、外来診療における症例も含め、東京都小児保健学会において「幼児肥満の要因について」と題した報告を行った。

一方、日常診療・相談の中での研究としては、臨床心理相談におけるプレイセラピーで使用している遊具により発達段階を評価することを目的とした「プレイセラピーによる発達障害児の援助—遊具別発達段階評価表の作成ー」、サーモグラフィーを利用した「障害乳幼児の母親認知に関する研究」を行い、日本小児保健学会において報告した。

厚生省心身障害研究の一環として、「福祉機器の開発及び福祉関係情報処理に関する研究（主任研究者 穴山徳夫）」の中での分担研究「福祉機器の安全性と標準化に関する研究」および今年度より新たに発足した「高齢化社会を迎えるにあたっての母子保健事業策定に関する研究（主任研究者 平山宗宏）」の中での「地域母子保健システムと母子福祉の連携に関する研究」を行った。また、「広げよう愛の輪運動基金」よりの研究助成をうけ、前年度に引き続き「障害児の家族に対する社会心理学的研究—サーモグラフィによる障害乳幼児の家族認知の研究ー」を実施した。

5) 今後の課題

少子化、核家族化、都市化、女性の社会進出の増加、価値観の多様化など、子どもや母親および家族を取り巻く社会環境は急速に変化してきている。特に、今後は母子の「こころ」の健康を重視し、母親の育児不安に対応するための施策が必要とされてくると思われる。また、思春期や小児成人病に関する問題にも、さらに力をいれて取り組まなければならないだろう。平成2年度で「こどもの城」開設5年目を迎えるにあたり、小児保健部では、これまでの事業活動の成果や反省点を踏まえた上で、長期的な視野をもって、これらの諸問題に対応していきたいと考える。

「こども活動エリア」と総称される体育、プレイ、造形、音楽、A Vの各部のほか、保育研究開発部、小児保健部、研修教養部、国際交流部、劇場事業本部が相互に連携、協力しながら、その総合施設としての機能をどう事業展開に生かすかが、子どもの城の大きな命題のひとつである。

企画部は各部にわたる企画や活動の調整に当たり、各部協力事業の立案と実施推進を中心に役割を果たしている。

本年度の主なものは次のとおり。

各部協力事業

1) あそびのパスポート (3.25~4.5)

館内各所の活動場所にスタンプを置き、4種類のスタンプをパスポートに押すと記念のシールがもらえる仕組み。前年度の3月9日から青山劇場で行われていたミュージカル「12ヶ月のニーナ」と連携し、スタンプの種類は3月までは春・夏・秋・冬。4月からはE・N・J・O・Yとして最後のゴールでYを押してもらうとENJOYがそろうようにした。

来館児が多く遊びを体験し、自らの興味を深め、広げる機会をつくり出すねらいで、前年の春休みにも実施した。しかし、期待に反して次第に遊びの深化がみられなくなり、ポイントを回ってスタンプを集めることだけに終わってしまう傾向が顕著になった。

実施する意味がなくなったとの反省が出ている。

2) キャスル・クエスト'89 (4.29~5.7)

児童福祉週間の中心的イベントとして、館内各部のスペースを使用して行った。前年度は音楽事業部が中心となって実施したが本年度は企画部の主管で、音楽・プレイ・体育等の各部がそれぞれの事業の特色を生かして参加し、イベント全体の充実を図ることができた。

このワイドゲームの特色としては、①ゲームにストーリー性を持たせ、参加者はそのストーリーの主人公になり、館内の多くのゲームに参加する②参加者はストーリーに添って同じ目的をもって活動するため、相互に協力し、交流も深められるなどがあげられる。ストーリーの概略は次のとおり。

『はるか大昔、南の島に恐怖をもたらした暗黒の魔王ラバナは、勇者ラーマ、ラクサマナ、そしてシータ姫の活躍によって、聖なる楽器〈ゴング〉の中に封じ込められた。

時は流れて1989年……「子どもの城」が突然暗黒の闇に覆われてしまった。なんと音楽スタジオの楽器の中に魔王ラバナを封じ込めた楽器〈ゴング〉が入り込んでいたのだ。

ラバナは子どもたちのエネルギーを吸い取り、今にも復活しようとしている。

更に困ったことに、シータ姫が捕われてしまった。若き戦士たちよ、子どもの城とシータ姫を救ってくれ』

III 各部の活動(1)

このようにインドネシアの民話をモチーフとし、勇者になるための修行と、魔王との戦いをゲームに仕立てた。その修業は①地下2階体育室で、スポーツ遊びの記録にチャレンジ②ふしぎが丘では魔物と、早口言葉や、同時に発せられる言葉の聞き分け遊びなどの勝負をする③プレイホールでは賢者の頼みを聞き、館内3か所に隠されている呪文（じゅもん）の言葉を探し当てる。

④子どもの城のどこかにある運だめしの広場を見つけ、電子メカレースゲームなどで運だめしをする。

この4つのうち2つ以上を修行すれば勇者の称号を受けられる。勇者はラバナを呼び出すためのガムラン演奏を練習し、音楽スタジオBでラバナに最後のジャンケン勝負を挑む。

このようなワイドゲームは連続してゲームの中に引き入れられ、このストーリーにふさわしい導入部の雾囲気によって小学校高学年の子どもたちも参加させる特色と魅力を持っている。大型のゲームだけに多くのボランティアの協力を必要とし、最終のガムランの場面ではスカルジュングループの協力を得て実施した。

3) 第4回こどもデパート (6.11)

講座・クラブなど、子どもの城の各種の活動に参加している子どもたちを中心に、一部募集した子どもも加えて計画、準備をし、父母の応援も得て実施した。これまで4月に開いていたが、来館者の動向も勘案して本年度は6月とした。

このプログラムの目的としては①チームワークを学ぶ②商品の製作、仕入れ、販売の流通業務や金券発行などの活動体験によって社会の仕組みを学ぶ③一般来館者と子どもの城の講座・クラブ参加者の交流を図り、また各講座・クラブ同士の協力の機会とする、などがあげられる。

各部の出店は次のとおり

音楽事業部	18店
保育研究開発部	1店
国際交流部	3店
プレイ事業部	2店
研修教養部	4店
あそびガヤガヤ研究所	6店（銀行、TV局を含む）
小児保健部	1店
体育事業部	1店
	計 36店

〈収支〉

前年度繰越金 345, 986円

本年度総収入（金券売り上げ） 701, 962円

同総支出（材料費など）	293, 448円
同収益	408, 514円
残高	754, 500円

(注) このうち300, 000円を社会福祉法人日本肢体不自由児協会に寄付。

4) おはなし広場 (7.25~30)

フリーホールで「松戸市お話キャラバン」の皆さんにお願いして実施した。プログラムは幼児たちに喜ばれる人形劇、お話、人形作りワークショップ。

5) ウォーターアドベンチャー (8.1~10)

ふしげが丘と音楽スタジオBを使用して行った。ふしげが丘の下段に設けた作戦本部で受け付け、子どもたちを5~7人のグループにして全員が盾または水鉄砲などの役割を分担し、協力してゲームを進められるようにした。ゲームの設定は、子どもの城の中で水竜がコンピュータの手で復活しようとしている。それを子どもたちに阻止してほしいというもの。

3階から5階のふしげが丘のスロープの特色を生かし、途中の広場に次のような勝負の閑門を設けた。子どもたちは各人の頭につけた紙の標的を破られないようにガードし、悪者を退治しながら進む。

- ①水鉄砲の悪者との勝負=作戦本部を出た子どもたちを待ち受けているのは、水鉄砲を持った悪者たち。子どもたちめがけて水鉄砲を撃っている。一番奥には色のついた宝の玉があり、それを見ると上の段へ上がることができる。
- ②水の戦車との勝負=子どもたちの前にスプリンクラーを積んだ戦車が現れ、行く手をはばむ。間をよく見て戦車をよけて奥の玉を取りに行く。
- ③ビヨヨン高原と池=ゴムひもがクモの巣のように張りめぐらされた所と一本橋の架けられた池の障害物をみんなで越え、玉を見る。障害物の上からは、水風船の爆弾が降ってくる。
- ④大要塞での勝負=一番上のネット広場の中では、大型スプリンクラーと強力水鉄砲を持った一番強力な悪者が待っている。スプリンクラーからの水は、大要塞の水栓につながっており、その栓を止めるまでは水が上から降り続ける。また栓はダミーを含めて6か所あり、本物はそのときにより異なるようにした。みごと止められたグループは、最後の宝の玉をもらい復活しようとしている竜の待つ音楽スタジオBに向かう。
- ⑤水竜の復活の阻止=水鉄砲での勝負に勝った子どもたちは、最終目標地である音楽スタジオBに入る。中には、水竜とコンピュータがあり、一刻と竜の復活が近いことを示している。子どもたちは、コンピュータにパスワード（宝の玉の色4つ）を入力すると復活は阻止される。

小学生が多く参加し、痛快な冒険体験ゲームとなった。最後の竜との対決の場面は、パスワードを入力すると照明操作で竜が消える仕掛け。

子どもたちは真剣な顔で対決していた。

5) エンジョイ・レク広場 (8.25~31)

プレイ事業部・企画部・ボランティアの協力でゲーム・人形劇・お話などを織り交ぜて夏休みの終わりを飾るにふさわしい催しになった。

6) チャレンジゲーム大会 (11.1 ~ 5)

開館記念特別プログラムとして、ふしきが丘など全館でボランティアを中心に実施した。今回は開館4周年なので、次のように「4」にちなんだやり方でプログラムを進めた。

- ① 4つの大きな輪を投げて入った点数を競う「わなげだ“よん”」
- ② 童謡などみんなの知っている歌を「し」を抜いて歌う「“し”抜き歌」など

7) お正月あそび大集合 (12.25~ 1.15)

年末年始のプログラムとして凧の展示と昔からの正月あそびを実施した。凧の展示は凧の博物館から大小さまざまの約100点を借り、ギャラリーに飾った。来館者が故郷の凧に出会いお国自慢を子どもにする場面も見られた。遊びの部では拳玉、竹馬などが人気を博した。

8) 紙相撲初場所 (1.4 ~ 7)

紙相撲の村杉道場の協力により、音楽スタジオBにすばらしいセットができ、子どもたちが作った紙の力士が本場所さながらの熱戦を繰り開けた。

9) 春休みチャレンジ・ゲーム大会 (3.24~30)

桜前線が通過するころの季節感のあるゲームをボランティアの企画によりふしきが丘で実施した。

- ① 「花よりだんご」丸太の輪切りの表に桜の花を、裏にはだんご1本または2本の絵や毛虫を描く。これをランダムに桜の花を表にして並べ、毛虫の出るまでめくる。だんごの串が何本でたか、その本数を得点とする。
- ② 「さくらメール」B5の用紙に桜の木を描き、花びらのゴム印を10秒間に何個押せるか、その個数を得点とする。
- ③ 「花さかじいさん」マジックテープを用いて桜の幹をつくりこれを10メートルのところに立てる。一方、桜の花をかたどった布10枚の裏面にマジックテープをつけたものを用意する。ゲームは10メートル向こうの桜の木に10枚の花を咲かせてくる時間により得点を決める。

このほか、お花見には場所取りが一番と「お花見いい場を見つけた」など、春休みにふさわしい内容だった。

〈グループ活動〉

施設、備品、指導スタッフなど、他では見られないこどもの城の特色を生かしたプログラムによって10人以上の児童グループを受け入れ、学校や園ではできない新しい校外、園外体験を提供するのがグループ活動。一般利用、講座クラブに並ぶ、主要な事業として運営している。

1) 運営組織の改善

本年度、運営組織の改善を図った。1つは従来グループ活動を協議するプロジェクトチームか関係部の職員によって構成され、事業担当常務に直属する形をとっていたが、各部の協力態勢をより緊密にするため他の各部協力事業と同じく企画部がコーディネートしながら進めることにした。毎月1回の各部連絡会、週1回の運営ミーティングを企画部が司会・進行し、全体の円滑な運営を図ることを心がけた。

第2は利用者の電話予約・事前の調査・プログラムの打ち合わせの過程で、企画部が利用者の希望に添えるよう部門間の調整をし、プログラム担当者がスムーズに活動できるようにした。

第3にグループ活動の収支予算を一括して、管理運営費の中に組み込み、各部が部門収支にとらわれることなく受け入れができるようにした。なお、従来のプロジェクトチームは、グループ活動プログラムの開発や改善検討を推進する役割を担うことになった。

このように運営と運営内容（プログラム）に関する協力態勢をつくりあげ、受け入れグループの増加に努めた1年であった。

2) 利用状況

利用団体の総数は104団体、2,345人で、そのうち幼稚園の園外活動としての利用が41%の43団体、次は小学校特殊学級の26団体、続いて養護学校の12団体、保育園の10団体となっている。

幼児プログラム

<利用の諸規定>

就学児プログラム

対象年齢 3歳以上就学前

対象年齢 小学校1年生以上高校3年生

定員 1グループ10人以上30人まで

定員 1グループ10人以上30人まで

料金 子ども1人210円

料金 子ども1人260円

先生1人210円

先生1人260円

火	音 楽		A V	体 育	プレイ
水	音 楽		A V		プレイ
木	音 楽	造 形		体 育	プレイ
金	音 楽	造 形	A V		プレイ

実
施
時
間
10
時
13
時

火	音 楽		A V	体 育	プレイ
水	音 楽		A V		プレイ
木	音 楽	造 形		体 育	プレイ
金	音 楽	造 形	A V		プレイ

実
施
時
間
10
時
13
時

III 各部の活動(1)

また受け入れた部門では音楽の53団体をトップにプレイ27、体育26、造形19、AV11の順。ただし、各部門プログラムの体験のあと、プレイホールでの自由遊びは87回あり、プログラムによる新しい体験と、自由な遊び体験の組み合わせが最も多いパターンになっている。このことを尊重しながら、これからプログラム開発を考えていきたい。

平常期間グループ活動活動状況

就学児プログラム	実施回数	利用者数	担当部門	幼児プログラム	実施回数	利用者数	担当部門
自由あそび	(回) 77	(人) 1,781	プレイ	自由あそび	(回) 10	(人) 217	プレイ
ファンタジックドラマ	14	201	プレイ	影を写そう	3	58	造形
まつりばやし	13	198	音楽	まつりばやし	3	50	音楽
レクリエーションゲーム	12	143	体育	スカーフであそぼう	2	35	音楽
影を写そう	11	207	造形	自由あそび(ライブラリー)	1	65	A V
自由あそび(ライブラリー)	11	270	A V	グループレクリエーション	1	33	プレイ
世界の太鼓	8	87	音楽	フロア運動	1	32	体育
スカーフであそぼう	8	219	音楽	木をつくろう	1	9	造形
パソコン体験教室	7	38	プレイ				
ガムランを体験しよう	6	94	音楽				
たのしい体育・運動	5	169	体育				
チャレンジビデオ	5	114	A V				
フロア運動	5	42	体育				
グループレクリエーション	4	132	プレイ				
たのしくサンバ	4	109	音楽				
忍者ってほんとうにいたの	4	85	音楽				
本をつくろう	4	84	造形				
パタパタアニメ	3	67	A V				
すてきな体操	3	53	体育				
アニメーションってふしぎね	3	36	A V				
和楽器に触れてみよう	3	12	音楽				
やってみようアンクルン	2	47	音楽				
大型遊具あそび	1	14	プレイ				

特別期間グループ活動観劇プログラム

演目	期間	場所	料金	参加人数
キリン民話劇場 「浮かぶ島」	7. 29~8. 5	円形劇場 (13回)	800円	5団体 37人
グリム童話より 素劇「魔法をかけられた王子」	8. 7~8. 9	円形劇場 (6回)	1,400円	5団体 20人
夏休み人形劇フェア 「あつまれ世界の人形たち」	8. 11~8. 15	円形劇場 (13回)	500円	7団体 41人

(1) 演目一覧表

1) 青山劇場

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<自主公演>						
オペラクリエーション・イン・青山第4回公演「サルタン王の物語」	6.2~3	2	A6,000・B5,000	2,156	1,552	80.0
第4回青山バレエフェスティバル	8.1~3	4	A6,000・B5,000	4,258	3,991	93.7
平成元年度文化庁芸術活動特別推進事業公演 オペラ・バレエ「妖精の女王」—ヘンリイー・パーセルのオペラ「THE FAIRY QUEEN」による—	9.26~29	4	A6,000・B5,000	4,312	2,965	68.8
(小計)	3	10				
<貸館>						
島田歌穂リサイタル'89 「AFTER VALENTINE」	4.1~2	2	A3,800・A3,300	2,384	1,832	76.8
日本信販スペシャル「ラ・マンチャの男」	4.7~5.28	75	S9,000・A7,000・ B4,000	83,250	56,135	67.4
小原茂徳ジョイフルオーケストラ「日曜日の午後のコンサート」	6.4	1	A4,500・B3,800	1,110	834	75.1
劇団四季〔ロックオペラ〕「ジーザス・クリスチ=スーパースター」 ジャボネスク・バージョン	6.9~20	18	S A8,000・S B7,000 A5,000・B3,000・ C6,000(ウイークデーマチネ各1,000引き)	19,980	17,311	86.6
劇団四季〔ロックオペラ〕「ジーザス・クリスチ=スーパースター」 エルサレム・バージョン	6.23~7.2	16	S A8,000・S B7,000 A5,000・B3,000・ C6,000(ウイークデーマチネ各1,000引き)	17,760	16,709	94.1
少年隊ミュージカルPLAYZONE'89 「MUSICAL AGAIN」	7.6~30	35	7,500(当日立見5,000)	38,932	37,737	96.9
明治生命ミュージカル「アニー」	8.11~31	38	S7,000・A5,000	42,176	38,878	92.2
SUPER・ECCENTRIC THEATER VOL.27	9.5~24	24	4,120(当日4,300)	26,915	24,867	92.4
核戦争全面コメディ「メガ・デス・ポリス」	9.30~ 10.1	2	6,000	2,302	1,939	84.2
服部克久 音楽畑コンサート・パートV	10.10~ 11.24	55	S A8,000・S B7,000 A5,000・B3,000(ウイークデーマチネ各1,000引き)	61,050	47,122	77.2
※劇団四季オリジナルミュージカル 「ユタと不思議な仲間たち」						
第39回児童福祉施設 文化祭	11.26	1	無料	1,200	800	66.7
麻実れいりリサイタルPART-III	11.29~ 12.3	7	S8,000・A5,000・ B3,000	8,176	6,739	82.4
NAKURA JAZZ DANCE STUDIO CAN'T STOP DANCIN' PART 8	12.8~10	5	プレビュ-2,500 A5,500・ B5,000	5,960	5,588	93.8
SHINJI TANIMURA RECITAL '89 CORAZONIV-LA RONDE-輪舞	12.14~25	12	S S7,000・S5,000 A4,000	13,318	12,702	95.4
※劇団四季オリジナルミュージカル 「ユタと不思議な仲間たち」 (※印は1本に數えます)	2.1.3~28	32	S A8,000・S B7,000 A5,000・B3,000(ウイークデーマチネ各1,000引き)	33,984	27,541	81.0
劇団四季MUSICAL「HANS ハンス・アンデルセン」	2.3~22	27	S A8,000・S B7,000 A5,000・B3,000(ウイークデーマチネ各1,000引き)	28,674	21,497	75.0
アキコ・カンドアンコール・リサイタル 「フォー・シーズンズ」	3.2	1	A4,000・B3,000	1,196	927	77.5

III 各部の活動(1)

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
第7回日本アニメフェスティバル 島田歌穂リサイタル「DISTRACTIONS」 Newミュージカル「ライル」	2.3.3~4 3.6~7 3.13~4.2	2 2 34	無料 4,500 S7,000・A5,000	2,336 2,320 37,196	2,225 1,725 17,641	95.2 74.4 47.4
(小計)	19	389				
青山劇場 計	22	399				

2) 青山円形劇場

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<自主公演>						
劇団青い鳥1989春公演「青い実をたべた ～つめたい水おいしい水～」	4.9~27	23	3,300(当日3,500) 高以下3,000	7,038	5,975	84.9
こどもの城／青い鳥=SPECIAL PRESENTSウキウキワールド・ポコペ ンランド「ボッコリの遠足」	4.29~5.1	5	3,100, 中高2,600 小1,600	1,434	1,122	78.2
MERRY GO ROUND '89 -そして僕のまわりには星月夜- マシュマロ・ウェーブ「JUNK YOU」	6.7~10	5	2,500	1,698	1,468	86.5
MERRY GO ROUND '89 -そして僕のまわりには星月夜- 清水ミチコ「VISUAL VOICE」	6.11~12	3	3,100	1,098	1,013	92.3
MERRY GO ROUND '89 -そして僕のまわりには星月夜- サエ キけんぞう×手塚真くゲスト>ナーブ・ カッツエ「電波×音波」	6.13	1	2,500	318	288	90.6
MERRY GO ROUND '89 -そして僕のまわりには星月夜- 高橋 久美子with篠井英介コンサート'89「世 紀末症候群」	6.14~15	2	3,500	604	555	91.9
第5回こどもの城マタニティ・コンサート	6.17~18	2	2,100	324	294	90.7
Neo Classic Theatre-I 花組芝居「ザ ・隅田川」	7.2~10	14	3,600	4,480	3,887	86.8
こどもの城・キリン民話劇場第4回公演 「浮かぶ島」	7.29~8.5	14	2,000	4,592	2,448	53.3
こどもの城人形劇フェア「あつまれ世界 の人形たち」	8.11~15	13	800	3,640	1,449	39.8
こどもの城おまつり劇場'89「花のお江 戸は夏まつり」	8.17~20	12	無料	3,360	2,537	75.5
第3回青山演劇フェスティバル～1989年 のガリバー旅行記～ オンワードスペシャル カンパニー・レジメ、ショピノ「K.O. K(カ・オ・カ)」	9.25~28	4	4,120	876	745	85.0
劇団離風船「ラジャーおとうさん のガリバー旅行記」	10.1~4	5	2,500	1,530	1,457	95.2
遊○機械／全自動シアター「學習圖 鑑 VOL.2完全円形版 -見たことのない小さな海の巨人の 僕の必需品-」	10.7~11	7	2,800	2,422	2,253	93.0

9 劇 場

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
品行方正児童会「何日君再来－駒込・巣鴨・大塚・ガリバーー」	10.14～17	5	2,200	1,515	1,371	90.5
劇団☆新感線「スサノオー神の剣の物語ー」	10.20～22	5	2,500	1,691	1,564	92.5
PIANO SOLO CONCERT 3 NIGHTS IN AOYAMA ROUND THEATRE 第1夜「廻 由美子」	10.23	1	3,000	376	315	83.8
第2夜「小賀野久美」	10.24	1	3,000	246	149	60.6
第3夜「志村 泉」	12.25	1	3,000	246	194	78.9
千之丞モノドラマ「クラブ最後のテーマ」	10.30～ 11.1	3	3,000	738	323	43.8
子どもの城開館4周年記念プログラム 「ファミリー狂言」	11.1.3	3	2,200	738	443	60.0
「狂言ワークショップ」	11.2	1	2,500	246	70	28.5
子どもの城開館4周年記念日中合作皮影 戯「西遊記」	11.4～5	4	2,200	880	738	83.9
第6回子どもの城マタニティ・コンサート	11.11～12	3	2,100	660	435	65.9
長岡輝子秋の夜長の朗読会	11.13～17	3	3,500	1,076	965	89.7
Neo Classic Theatre-II 善人会議 「新羅生門」	11.21～29	12	2,800	3,792	3,238	85.4
Xmas SPECIAL PRESENTSア・ラ・カルト 役者と音楽家のいるレストラン	12.21～26	8	3,000	2,586	2,142	82.8
第2回子どもの城キリン・ファミリー・オペレッタ おとぎの国のメルヘン通り4－夢の中へ－	2.1.3～9	12	前2,000(当2,300)	3,540	3,336	94.2
五線譜の中の動物たち	1.13～15	5	前1,800(当2,000)	1,710	1,504	88.0
第3回青山演劇フェスティバルアンコール公演「スサノオ決定版－神の剣の物語ー」	1.18～23	8	2,500	2,696	2,455	91.0
PROJECT NAVI PRESENTS 16寿歌 オリジナルバージョン	1.25～30	8	3,000	2,568	2,419	94.2
DENCE COLLABORATION dance at the gathering vol. 8	2.20～25	6	4,000	1,596	1,424	89.2
Neo Classic Theatre-III 「1990年版風 の牛若丸」	3.7～11	7	指2,700 自2,500	2,198	1,935	88.0
(小計) 33		206				
<提携公演>						
人形劇南の島の少年マウイ・チキチキ	4.1	2	2,000(当日2,300)	448	402	89.7
劇団ひまわり童話の劇場 グリム童話より 素劇「魔法をかけられた王子たち」	8.7～9	6	1,600(当日1,800)	1,794	1,490	83.1
MARSHMALOW WAVES 「TRICK OR TREAT」	10.27～29	5	2,500	1,596	1,309	82.0
イタリア国立古典劇研究所来日公演メナ ンドロ「サモの女」	2.3.30～4.1	5	3,000	1,145	682	59.6
(小計) 4		18				

III 各部の活動(1)

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<貸館>						
'89 生音の会オリジナル・コンサート VOL 8 「サケの大冒険」	4. 2	2	1,900 (当日2,100)	564	290	51.4
花井愛子ワングルシアター「ミュージカル山田パパに花束を」	5. 6~11	8	A4,000 B3,500	1,884	1,637	86.9
ザ・スーパー・カムパニイ No.56公演 ミュージカルショウ「チエホフヴォードビル」	5. 13~18	7	指3,000 自2,500	1,708	1,461	85.5
蘭このみスペイン舞踊公演「夢」	5. 20	2	A3,800 B3,500	574	495	86.2
CHOIR PAPAS IN AOYAMA ROUND THEATRE	5. 21	2	2,500	624	460	73.7
シェイクスピア・シアター「じゃじゃ馬ならし」	5. 24~6. 3	12	3,500 (当日3,700)	3,384	2,500	73.9
琴曲演奏会「藤のわ会」	6. 4	1	無料	250	157	62.8
谷山浩子101人コンサート	6. 19~25	6	3,605	2,256	2,088	92.6
ミサからあなたへ '89 MISAKO TERADA CONCERT	6. 29	1	3,500	376	194	51.9
第19回81プロデュース公演 MATER-NITY MUSICAL「HAPPY RIDE」	7. 13~20	10	4,000	2,300	1,224	53.2
月下 GEKKA	7. 21~22	3	3,800	852	393	46.1
音楽物語「長靴をはいた猫」	7. 23	1	大人2,500 12歳以下 2,500	376	310	82.4
クリエイティブスタッフ第5回公演 FORUM	7. 25~26	2	前売3,500 当日4,000	656	639	97.4
おどり隊「ドクタークリンクリンVS スーパー・エンジェル」	8. 22~23	4	3,000	920	651	70.8
演劇集団キャラメルボックス「ナツヤス ミ語辞典」	8. 26~9. 3	14	指2,200 自1,800 ペア4,000	4,116	3,740	90.9
ザ・スーパー・カムパニイ No.57公演 ミュージカル「マクベス」	9. 5~10	7	指3,000 自2,500	1,806	1,710	94.7
「つかせのりこ追悼チャリティーコンサート」	9. 14	1	3,000	300	167	55.7
-地天建楽とシャンソンの仲間たち-	9. 15	1	3,000	292	222	76.0
田島佳子「三昧線のつどい」第3回	9. 16~17	3	2,500 (当日2,800)	807	442	54.8
「北井千都代・石巻由美ダンスセッション」	9. 19~24	8	3,000 (当日3,300)	2,360	1,498	63.5
橋場はつえりさいたるⅢ「哀すれば唄」	11. 6	1	4,500 (当日5,000)	274	248	90.5
久保東亜子リサイタル 「追憶 SOUVENIR」	11. 7	1	4,000	320	300	93.8
第1回「花柳佐育舞踊会」	11. 8	1	3,500	272	116	42.6
ローランド・ミュージック・スクール 「Musical History Tour '89」	11. 19	1	無料	188	266	141.4
DANCE SYMPHONY「STOP and GO PART 3」	12. 1~3	5	3,000	1,450	1,213	83.7
とりの会公演VOL 3「にんぎょうの 家」	12. 6~10	7	前2,700 (当日3,000)	2,192	1,715	78.2
Cyber Funk "ACCESS To The Tower".....PaPa	12. 14	1	3,000	194	168	86.6

9 劇 場

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
谷山浩子「冷たい水の中をきみと歩いていく」レコードコンベンション	2.1.11	1	(円) 無料	(人) 181	(人) 174	(%) 96.1
友部正人コンサートシリーズ「待ち合わせ」	1.16	1	3,090	303	190	62.7
劇団二瓶館プロデュース公演「太陽儀」	2.1~3	3	前2,200 (当日2,500)	725	340	46.9
AOYAMA AMPHITHEATRE LIVE '90	2.4	1	1,000	308	126	40.9
竹内登志子ダンスのトポス②「RING」 千の輪の切株の物語	2.6~8	5	前2,700 (当日3,000)	1,135	517	45.6
JDBC10周年記念公演「白雪姫」	2.10~12	4	4,000	1,064	990	93.0
ザ・ベストメイキャップスクール第2回 卒業制作発表会	2.13	1	無料	246	246	100.0
小原流東京支部青年部花展いけばなnow Ⅲ	2.15~18		無料		4,472	
第19回日本神経放射線研究会	2.22~23	2	会費8,000	326	326	100.0
劇団青社「うさぎはねている」	3.1~4	6	3,000 (当日3,300)	1,692	1,394	82.4
キャラクターショー「それいけ！アンパンマン」	3.3~4	6	無料	1,692	1,184	70.0
Dear Agnes	3.13	1	無料	176	176	100.0
高橋久美子コンサート '90 「恋のあとで…」	3.14~15	2	4,000	516	346	67.1
第4回創作舞踊展	3.17~18	2	5,000 (両日券8,000)	492	359	73.0
蘭このみスペイン舞踊公演「蹄」	3.19~20	3	3,800	716	598	83.5
おはようドリーム ブレーメンの音楽隊 より	3.22~25	12	前2,500 当2,800 団2,300	2,616	2,101	80.3
(小計)	43		180			

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
<内部利用>			(円)	(人)	(人)	(%)	
第3回子どもの城音楽クラブコンサート ぼくらのサウンド'89	4.3~5	6	無料	1,504	1,388	92.3	音楽
「スペース アドベンチャー」子どもの 日ファミリープログラム	5.3~5	5	800	1,750	1,249	71.4	国際
第3回「子どもの城保育セミナー」	8.10	1	セミナー 10,300 懇親会 2,060	150	120	80.0	保育
クリスマス・ファミリー・プログラム 「エンジェル・クリスマス」	12.16~17	5	800	1,600	1,317	82.3	国際
みんなで遊ぼう！クリスマス!!保育フェ スティバル'89	12.18	1	親子券 1,500 追加 大1,000 小500	320	254	79.4	保育
第4回子どもの城音楽クラブ合同コン サートぼくらのサウンド'90	2.3.26~28	4	無料	1,256	1,234	98.2	音楽
(小計)	6		22				
青山円形劇場 計	86		426				
劇場合計	108		825				

(2) 劇場事業本部の活動

本年度は、青山劇場・青山円形劇場とも、それぞれの特色を鮮明にした1年だった。青山劇場は9月と12月の2か月以外は、長期の大型ミュージカルがずらりと並び、63年度に続いて青山劇場＝ミュージカルというイメージを強めた。一方、青山円形劇場は、自主公演の新企画が多く打ち出され、時代のアンテナに敏感に反応していく劇場であるとの特色を発揮した。

次々と新しい劇場がオープンする中で、青山劇場は量から質を充実させる時期を迎えたといえる。円形劇場は多種多様のジャンルを円形空間らしいスタイルで意欲的に提供し、個性的な姿勢を示した。

両劇場の活動をまとめ、前年度と数字的に比較してみると以下のようになる。

(〔 〕内は前年度)

1) 青山劇場

①総演目数 22本 [32]

②ジャンル

ミュージカル8本 [12] 演劇1本 [1] オペラ2本 [1]

コンサート6本 [8] 舞踊3本 [6] その他2本 [4]

③公演形態

自主公演3本 [7] 提携公演0本 [3] 貸劇場19本 [22]

④対象

一般14本 [21] 青少年2本 [3] 児童・ファミリー6本 [8]

2) 青山円形劇場

①総演目数 86本 [87]

②ジャンル

ミュージカル7本 [5] 演劇26本 [13] 人形劇1本 [7]

コンサート25本 [32] 舞踊13本 [16] 影絵1本 [0] 朗読1本 [0]

狂言1本 [0] 学会・セミナー2本 [3] その他9本 [11]

③公演形態

自主公演33本 [15] 提携公演4本 [5] 貸劇場49本 [67]

④対象

一般50本 [48] 青少年17本 [13] 児童・ファミリー17本 [24] その他2本 [2]

前年度に比べ、青山劇場で顕著なことは、自主・提携公演数が少なかったこと、上演

ジャンル別ではミュージカル公演の日数が大幅に増えたことである。数少ない自主の中ではオペラ・バレエ「妖精の女王」が、初の文化庁との共催事業（芸術活動特別推進事業）として成功したことが特筆される。また7本の大型ミュージカルは、いずれも成功を収めた。この要因として、作品内容がよく、話題性も大きかったことがあげられるが、青山劇場が持つイメージ・知名度のほか、技術・機構・サービスによる貢献度も増してきた結果といえるだろう。青山円形劇場では、ジャンル別で演劇が、公演形態では自主公演が、2倍の数に増えている。青山劇場の自主が少なかったことの反映でもあるが、新分野に取り組む積極的な姿勢がうかがえる。次にジャンル別に個々の演目を見てみたい。

(ア) 青山劇場

① 自主公演

1. ファミリーオペラ「サルタン王の物語」(6.2~3)

若手の音楽家集団「オペラクリエーション・イン・青山」による第4回公演。プーシキン原作、R. コルサコフ作曲による「サルタン王の物語」の日本初演に取り組み、斬新な演出で新しいファミリーオペラとなった。

2. 第4回青山バレエフェスティバル(8.1~3)

若く才能ある舞踊手たちが一堂に会するバレエの祭典。4回目を迎えた平成元年度は、元年1月、青山劇場で開催された「ローザンヌ国際バレエコンクール」の受賞者を中心に、カナダ、フランスからもゲストを招き、華やかなフェスティバルとなった。またフランスで活躍中の工藤大貳が新作を、新進気鋭の振付家鈴木稔が自信作を再構成して披露するというプログラムで内容も一新し、舞踊手のためだけではなく、バレエに携わる多くの人のための公演へと今後の発展が期待される舞台となった。次代の日本バレエ界を担うホープのためのフェスティバルとしての評価が定着し、青山劇場には欠くことのできない大切な事業に成長した。

3. 「妖精の女王」(9.26~29)

文化庁の芸術活動特別推進事業として、文化庁と「こどもの城」が共催し、文化庁在外研修員の会と連携した企画。日本を代表する出演者、スタッフの顔ぶれは、内外に大きな反響を呼んだ。その舞台は、舞踊とオペラが絶妙の調和を醸し出し、芸術的成果が高く評価された。

このほか、貸劇場としては、ロング・ランを続ける名作「ラ・マンチャの男」(東宝)「ジーザス・クライスト=スーパースター」(劇団四季) や、ファミリーで楽しめるものとしては「アニー」(日本テレビ)「ユタと不思議な仲間たち」「ハンス」(劇団四季)「ライル」(ライトカンパニー)がある。中でも新作の「ライル」は青山劇場発で、ブロードウェイに進出しうとの試みが話題となった。夏のイベントとしては「少年隊ミュージカル」がすっかり定着した。

また、目立ったのは演劇のジャンルでただ1つ氣を吐いたスーパー・エキセントリック・シアターの「メガ・デス・ポリス」である。これまで中・小劇場で公演を重ね、テレビや映

画でも人気を得ている劇団だが、初の大劇場進出で高い動員率をマークし、内容的にも高い評価を得た。若く元気な集団による公演は青山劇場のイメージをフレッシュに維持していくためにも大切である。ほかには「谷村新司リサイタル」「アキコ・カンダ・アンコールリサイタル」が安定した力をみせ、「島田歌穂リサイタル」は、のびのある透きとおった歌声を青山劇場いっぱいに響かせた。

(1) 青山円形劇場

① 自主公演

1. 劇団青い鳥1989春公演「青い実をたべた～つめたい水おいしい水～」(4.9～27)
 '86年に青山円形劇場で初演し大好評を博した作品の再演。いわゆる老人ボケで自分を幼女と思い込んでしまった老女が、ヘルパーたちを相手に懐かしく楽しい幼き日々を遊び、再び“老い”的自分を受け入れるまでを描く。劇団青い鳥は女性だけの劇団で、現実を厳しい目で見つめながらもほのぼのとした作風に包み込むところが幅広い客層に支持されている。同作品はこの劇団の代表作ともいえるもので、22ステージにわたって高い動員率をマークし、観客を沸かした。
2. こどもの城／青い鳥SPECIAL PRESENTSウキウキワールド・ポコペンランド「ポッコリの遠足」(4.29～5.1)
 前述の青い鳥が初めてファミリー向きの作品を手がけた。内容は不思議な星の不思議な生物、ポッコリ君の遠足の一日を描くというもの。いわゆる児童劇団ではなく、若い世代に支持を受けている小劇団がファミリー向きの作品を作ることは、劇団にとっても劇場にとっても冒険である。また、通常の児童劇団のようにパックにして全国ツアーアーに出すというシステムでもないため制作費がかさむ(=入場料が高くなる)というマイナス点もある。が、新しい感覚をもってファミリー企画にチャレンジしていくことは、今後も続けていくべき十分に価値ある冒険と思われる。
3. 「MERRY-GO-ROUND '89」(6.7～15)
 本年度から発足した新しいシリーズ企画、基本コンセプトは、「ジャンルにとらわれず、今、面白いと思えるパフォーマーが集う時代の感性の祭典」である。第1回の本年度の出演者は、①マシュマロ・ウェーブ(演劇)②清水ミチコ(トーク・ショー)③サエキけんぞう×手塚真(トーク・パフォーマンス)④高橋久美子×篠井英介(ミュージカル形式のコンサート)の4組で、内容・動員ともに高い水準のものとなった。ちなみに「MERRY-GO-ROUND」とは文字どおり「楽しく回れ」という意味で、それがそのまま観客に向けてのメッセージになっている。本年度は大成功に終わったものの、1つの企画の中に多ジャンルのものを盛り込むことは冒険であり、リスクも多い。それだけにチャレンジ精神を失うことなく、時間をかけて定着させていく必要があるだろう。
4. マタニティ・コンサート(6.17～18/11.11～12)
 本年度は6月と11月に第5回・第6回のマタニティ・コンサートを実施。第5回は

サックスの沢村満を中心としたミッチ・ライブのコンサートで“波と風と光”をテーマに心地よいジャズ系フュージョンを演奏、第6回は歌手の高橋久美子がシャンソンと歌謡曲を歌った。「マタニティ・コンサート」というと固いクラシック音楽のイメージが強いが、今後もさまざまなジャンルから妊婦が心身ともにリラックスできる音楽をさがして、「子どもの城」ならではの特色ある「マタニティ・コンサート」としていかなくてはならないだろう。

5. Neo Classic Theatre—I 花組芝居「ザ・隅田川」(7. 2~10)

古典作品と新しい感性との出会いをテーマとした、演劇のシリーズ企画。第1弾は「ネオかぶき」が看板の人気劇団花組芝居が登場。「隅田川もの」と呼ばれる歌舞伎の戯作を組み合わせ、歌と踊りのエンターテインメントに仕上げ、好評を博した。

6. 子どもの城・キリン民話劇場第4回公演「浮かぶ島」(7. 29~8. 5)

沖縄とアイヌの民話を音楽劇に仕立てた意欲的な企画。構成・演出の佐藤信、作曲の一柳慧、ピアノの志村泉と実力派をそろえ、内容的に充実した作品だった。

7. 子どもの城人形劇フェア「あつまれ世界の人形たち」(8. 11~15)

外国と日本の6つの人形劇団による公演。中でも斬新な演出のポーランドのテアトロ・アニマジによる「やぎのガトウェク」が光っていた。同時に開催された「ナンシーさん的人形づくり教室」は自分で作った人形を使って歌って遊ぶという内容で大盛況だった。

8. 子どもの城おまつり劇場 '89 「花のお江戸は夏まつり」(8. 17~20)

子どもの城一般来館者に円形劇場を解放しようとの趣旨で企画され、江戸時代から伝わる芸能や遊びを見せるお祭り形式の楽しい公演だった。

9. 「第3回青山演劇フェスティバル」(10. 1~22)

第3回を迎えてすっかり定着した「青山劇場フェスティバル」だが、本年度はさらに日本初のテーマ制に挑戦した。その理由は、いわゆる小劇場ブームの中、急に増えてきた他の演劇フェスとの差異をはっきりさせ、青山演劇フェスならではの特徴を打ち出してさらに優れたフェスティバルに育てるためである。テーマ制とは同一のテーマに従って参加劇団がそれぞれ作品をそろえるというもので、今年度のテーマは自由な想像力の象徴としての「ガリバー旅行記」。参加劇団は離風船、遊・機械／全自動シアター、品行方正児童会、劇団★新感線の4劇団と特別プログラムとしてフランスのカンパニー・レジヌ・ショビノ（テーマ制外）である。結果は内容、動員とも成功を収め、大きく評価された。今はブームと言われる小劇団だが、ブームに左右されることなく本当に面白い演劇の集うフェスティバルとするために、プロデュース主体である劇場には今後もさらなる自由な発想としなやかな感性が要求されるだろう。

10. 青山円形劇場三夜連続ピアノ・ソロ・コンサート (10. 23~25)

日本を代表する若手ピアニスト、廻由美子、小賀野久美、志村泉の3人による日替わり競演コンサート。円形劇場らしく照明や演出に凝ったほかにない味わいのコンサー

トだった。

11. こどもの城開館4周年記念「狂言」(10.30~11.3)

伝統芸能、狂言を3つの角度から違った趣向で見せた公演。ベケット戯曲を狂言師による一人芝居に仕上げた「千之丞モノドラマ——クラップ最後のテープ」、親子で楽しむ「ファミリー狂言」、狂言入門講座「狂言ワークショップ」という構成だった。

12. こどもの城開館4周年記念 日中合作皮影戯「西遊記」(11.4~5)

日本の劇団影ぼうしと中国の北京影絵劇団との共同制作による影絵劇公演。繊細で美しい影絵が子どもたちを魅了した。

13. 長岡輝子「秋の夜長の音楽会」(11.13~17)

女優の長岡輝子による朗読の夕べ。独特の親しみやすい語り口で、宮沢賢治や英国の詩人テニスンの「イノック・アーデン」の世界が、ピアノやチェロの演奏を交えてつづられた。しみじみと心安まる公演だった。

14. Neo Classic Theatre—Ⅱ 善人会議「新羅生門」(11.21~29)

ネオクラシック・シアターのシリーズ第2弾。日本民話の「鬼」をテーマに、作・演出家横内謙介率いる劇団善人会議が、円形劇場空間を巧みに生かして好演した。

15. 「ア・ラ・カルト一役者と音楽家のいるレストラン」(12.21~26)

演劇と音楽が新しい形で融合したショー形式のエンターテインメント作品。出演は遊・機械／全自動シアターの高泉淳子、白井晃、DA・Mの陰山泰とバイオリニストの中西俊博を中心とするユニットで、演奏と寸劇を交互に配しながらあるレストランの開店から閉店までを描く。クリスマスという時期にあわせて、楽しくムードある作品に仕上がり、十分実りある成果をあげた。劇場本部による企画・制作作品。

16. 第4回こどもの城・キリン・ファミリー・オペレッタ「おとぎの国のメルヘン通り4~夢の中~」(1.3~9)

“親子で楽しめる良質のエンターテインメントの確立”を目指し、オペラクリエーション・イン・青山と「こどもの城」が共同で創作しているオペレッタシリーズの4作目。今回は、過去3回の公演を通して扱ってきたテーマである。「心の素晴らしさ」の集大成として、心の奥深さ、雄大さを宇宙をモチーフに描いた。円形劇場壁面いっぱいに広がった宇宙はすばらしかった。お正月企画としてすっかり定着し、毎年心待ちにしている子どもも多い。

17. 「五線譜のなかの動物たち」(1.13~15)

「こどもの城」ならではのクラシック・コンサート。動物の鳴き声やしぐさを描いた名曲・珍曲を集め、クイズや一人芝居で構成した楽しい演奏会となった。

18. 第3回青山演劇フェスティバル・アンコール公演 劇団★新感線「スサノオ・決定版—神の剣の物語—」(1.18~23)

第3回青山演劇フェスティバルに参加した劇団のうち、現在最も成長株である劇団★新感線のアンコール公演。演目は同じものだが、さらに脚本、演出を練り上げて「決

定版」とした。

19. プロジェクト・ナビ「寿歌 オリジナルバージョン」(1.25~30)

小劇場の名作中の名作といわれる作品を、オリジナル・キャスト、オリジナル演出(北村想)で公演。時代を強く反映するために普遍性に欠けるといわれる小劇場の作品が多い中で、10年の時の流れ(初演は1980年)を感じさせぬ優れた作品として絶賛を浴びた。

新しい時代に通用する演劇をつくるとともに、時代を超えて感動を呼ぶ演劇の再発見もまた、劇場としては必要な仕事の1つだろう。

20. ダンス・アット・ザ・ギャザリング Vol. 8 「ダンス・コラボレーション」(2.20~25)

ダンス企画として好評を続けているシリーズの第8弾。「若い振付家に作品発表の場を」というコンセプトで、今回は4人の若手の新進振付家が〈自分にとってのニジンスキイ〉というテーマの作品を披露した。企画、舞台成果ともに高く評価された。

21. Neo Classic Theatre-Ⅲ 離風霊船「1990年版 風の牛若丸」(3.7~11)

シリーズ第3弾は、劇団離風霊船による元気いっぱいの公演。ヒーローが求められる現代に、牛若丸こと源九郎判官義経が甦ったというユニークな発想と大がかりな仕掛けで好評を博した。

② 提携公演

1. 「南の島の少年 マウイ・チキチキ」(4.2)

ファミリーを対象にした人形劇。打楽器を中心とした生音楽のライブ感覚が楽しい公演だった。

2. 「子どもの城」夏休み公演 劇団ひまわり「魔法をかけられた王子たち」(8.7~9)
舞台装置や照明、音響効果をいっさい使わない簡素な“素劇”という演出法によるグリム童話公演。

3. イタリア国立古典劇研究所「サモの女」(3.30~4.1)

紀元前4世紀に活躍した古代ギリシャの喜劇作家メナンドロの「サモの女」の復活上演。シチリア島から来日したメンバーのおおらかで楽しい仮面劇だった。

本年度の活動を振り返ると、青山劇場、青山円形劇場2つの劇場に共通するイメージを定着させるとともに、個々の異なる役割と個性をますます明確にした活動だったと言うことができる。

ここ1、2年で、オシャレで華やか、都会的で知性的な雰囲気を持ち、ファミリーで気軽に進行する親近感のある劇場という共通のイメージはほぼ固められた。

それぞれに異なる側面はというと、演目の内容に深くかかわってくることだが、青山劇場は「お年寄りから子どもまであらゆる世代の人々が楽しめる良質のエンターテインメントを提供する場である」という個性である。単なる貸劇場としての役割ではなく、企画を重視し

III 各部の活動(1)

尊重してきた成果であるが、今後とも、更なる企画選択の基準の明確化を推し量り、審美眼を磨いていくことが大切である。

一方、青山円形劇場は「世代世代の感性にビビッドに反応していく斬新な演目を、多くのジャンルにわたって提供していく場」としての個性である。これらは、劇場が供給過多から淘汰される時代を迎えるいま、今後とも活発に活動を続けるために非常に重要な要素の1つになるであろう。

この「個性」を尊重し発展させていくことが、文化の最先端を歩む「生きた劇場」として存在していくための鍵を握っているといっても過言ではない。

また、昨年の自主公演について特筆すべき点は、「ソフトの送り手」としての役割を担おうという企画に対する前向きな姿勢を見せたことである。良質なオリジナル企画を青山円形劇場を発進地として、全国規模で展開させることができが夢ではなくなってきた。このようなクリエイティブな行動力は、劇場活動全体を活性化させ、リフレッシュされることにつながっていく。

IV 各部の活動(2)

1 広報部	137
2 研修教養部	142
3 国際交流部	160
4 営業部	163

「児童手当」誌を一貫して編集

子どもの城広報部は前年度に引き続き、子どもの城への来館者増と事業の趣旨及び活動内容の周知を目的として、各種のPRを活発に行った。

活動の主な柱としては

- ① 「子どもの城ニュース」の発行（隔月刊・年6回は従来どおり）
- ② 「児童手当」誌の編集（月刊）
- ③ 新聞・テレビ・雑誌等を通しての広報
- ④ 各種PR資料の作成・配布
- ⑤ 広報企画の推進

等があげられる。

このうち、「児童手当」誌については、平成元年9月から、すべての業務を振興福祉部から引き継ぎ、内容の企画から編集までを一貫して広報部で行うことになった。

また、「子どもの城ニュース」については、その広告収入の増加を図ることにより、発行経費の軽減に努力した。本紙は隔月刊とはいえ、しだいに知名度も高まり、広告媒体としても、一般紙にないユニークさが認められ、スポンサーの申し込みが年々増加している。

また、平成2年2月に講座受講者募集を中心とした内容の新聞広告を掲載したほか、次とおり、各紙に広告を掲載し、それぞれ反響を呼んだ。

〔広告関係〕 その1

	掲載新聞名	掲載形式	掲載日時	配布部数	掲載内容	配布地域
1	朝日新聞（夕刊）	全5段	平成元年7月20日（木）	271万部	夏休み特別期間、青山劇場・円形劇場の催しものほか、子どもの城のPR。	関東全域および静岡山梨両県
	読売新聞（夕刊）	全5段	〃 7月21日（金）	315万部		
	朝日小学生新聞	全5段	〃 7月20日（木）	28万部		全国
2	世界日報	5cm×6cm	平成元年11月1日（水）	35万部	子どもの城のPR。	
3	朝日小学生新聞	全3段	平成2年1月3日（水）	28万部	冬休み特別期間、青山円形劇場のPR。	全国
4	毎日新聞（夕刊）	全7段	平成2年2月23日（金）	97万部	平成2年度4月開講の子どもの城全講座の受講者募集と、子どもの城のPR。	関東全域および静岡山梨両県下
	朝日新聞（夕刊）	全10段	〃 2月24日（土）	271万部		
	朝日小学生新聞	全7段	〃 2月24日（土）	28万部		全国
	東京新聞（夕刊）	全10段	〃 2月28日（水）	50万部		関東全域および静岡山梨両県下
	読売新聞（夕刊）	全7段	〃 3月1日（月）	315万部		

〔広告関係〕 その 2

	種類	サイズ	掲出期間	部数	内容	備考
1	車内額面廣告	28cm×51cm	平成元年11月1日から1か月	300枚	こどもの城のダイナミック・ヘルスクラブ会員募集。	宮団半蔵門線(三越前から東林間駅まで)の200車両

体育事業部の行っている「ダイナミック・ヘルス・クラブ(D・H・C)」についても同事業部の要請に基づき、初めての規模で宣伝活動を展開した。新聞折り込みによるチラシ配布、DM、渋谷駅通路の電飾案内板、東急田園都市線の車内廣告等で、予想以上の反響を得ることができた。

広報企画としては、前年に引き続き「NHK展示プラザ」「電力館」「たばこと塩の博物館」との共催による「渋谷スタンプラリー」の春・夏開催、さらに「こどもの城」にふさわしい絵画展などの誘致に努めた。

〈児童手当誌〉

児童手当制度の月刊PR誌として、厚生省監修のもとに日本児童手当協会が発行している「児童手当」は従来、振興福祉部が内容について企画し、原稿を発注、これを広報部が編集する形をとっていたが、9月から広報部の責任で企画からの作業を一貫して行うことになった。児童手当誌には、差し込みの形で「こどもの城」のページ(年8回)こどもの城全国連絡協議会機関紙としての「ネットワーク」(年4回)が設けられているが、なかなか作り分けが難しく、どうしても「こどもの城ニュース」と重複してしまうのはやむをえなかった。全国都道府県に配布網を持つ「児童手当」は、作り方次第で「こどもの城」にとり、極めて有効なPR上の「武器」であるが、発行部数が5,000部と少ないので今後さらに有効配布ルートの検討などが必要と考えられる。

〈こどもの城ニュース〉

偶数月発行が原則であるが、夏休みに備えて平成元年8月号を前年同様一か月繰り上げ、7月15日に発行した。夏休みの行事案内を主に、4ページの特別紙面を組んだ。広告量も増えたので、本来の紙面制作以外にスポンサーとのやりとりも忙しく、事業年報の編集と重なって、多忙を極めた。部数も平常の2万5,000を夏休み特集号は3万5,000に増やした。

平成2年2月号(27号)で、正月に1階ギャラリーに展示された全国各地のタコのなかから20点ほどを選び紙面で紹介したが、「こどもの城ニュース」に対する読者反応を探る一助として、紙面に同じタコを2枚混ぜ、これを当てる簡単なクイズを試みた。

反響は以外に素早く、ニュース配布の2、3日後から、続々と広報部あてに回答のハガキが到着し、締め切りの3月末までに合計200通に上る回答があった。正解者20人に記念品としてこどもの城特製テレホンカードを進呈したが、興味深かったのは、遠く福井、兵庫、名古

屋、岡山などからも応募のあったことだった。毎年、夏休みには全国から来館者のあることは分かっていたが、期間の短い春休みにもこうした遠方から来館者のあることが実証されたのは初めてであった。

〈渋谷スタンプラリー〉

「N H K 展示プラザ」「電力館」「たばこと塩の博物館」との共催で、昭和62年の夏から行っている渋谷スタンプラリーは、平成2年の春休みで6回目を迎えた。すっかり春・夏の名物行事として定着し、前年同様フジカラーグループの後援で写真コンクールが併せて実施され、多くの作品が寄せられた。

〈広報企画〉

経費の枠が決められているので、広報部が独力で何かの宣伝を行おうとしてもなかなか難しい。考えられる手は企業とのタイアップであろう。幸い「子どもの城ニュース」という媒体があるので、この広告にタイアップさせた企画を推進した。

特に成功したのは「JAPAN TRAIL」というT D K 株式会社の催しであった。この企画は同社が昭和58年から社会還元事業として国際交流を目的に行っているもので、毎年アメリカ国内で子どもたちから日本についての絵を募集し、応募者のなかから選考した子どもたちとその先生20人ほどを日本に招き、さまざまな日本体験をさせるというものである。

この作品を4階ロビーに展示し、来日した子どもたちを「子どもの城」にも招いた。イベントは、すでにマスコミの間でも名が売れており、テレビ、新聞で広く取り上げられた。そのたびに「子どもの城」の名が出るので、こちらとしても上々のP Rになった。

このほか、4階ロビーでは朝日新聞社との共催による「全国高校野球写真回顧展（8月11～31日）」、「渋谷スタンプラリー写真展（6月4～11日・10月10～11月3日の2回）」、三井不動産会社主催の「未来の家の児童絵画展（1月～2月）」などを開催した。

〈D・H・Cの広報展開〉

D・H・C（ダイナミック・ヘルス・クラブ）は、体育事業部が「子どもの城」体育施設を利用して成人対象に運営している健康づくりのクラブである。都心の一等地にあり、プールなどの優れた設備を持ちながら、子どものための施設というイメージが前面にあって、なかなか一般に浸透しなかった。しかし、年末にジムが拡張され、成人向けのトレーニング機器が整ったのを機に、会員募集のP Rをできる限りの範囲で展開したい、という要請が体育事業部からあった。

第1弾として渋谷に関係の深い東急新玉川・田園都市線（地下鉄半蔵門線を含む）に11月から1か月間、車内広告を出し、次いでチラシ2万枚を作成、正月明けをねらって渋谷を中心[newline]に新聞折り込みをした。また開館以来同じ画面のまま更新もしなかった渋谷駅通路の電飾看板を初めて衣替えし、D・H・Cのみに絞り、通行人の視覚に訴えた。

IV 各部の活動(2)

第2弾は、ダイレクトメール1,000枚を、渋谷・青山・六本木などの企業や事務所1,000か所に発送した。これら一連のPR作戦で、「子どもの城」にも成人向けのこのようなクラブのあることが、改めて認識され、反響を呼んだ。

〔編集・発行〕

「子どもの城ニュース」新聞1ページサイズ、表裏2ページ、表面カラー印刷。毎号25,000部発行。

	発行日	内 容	お も な 配 布 先
第21号	4月15日	風さわやか屋上広場 ほか	ネットワーク会員..... 4,380部
第22号	6月15日	ゴールデン・ウイーク「キャッスル・クエスト」ほか	子どもの城友の会会員..... 約3,800部
* 第23号	7月15日	夢がキラキラ、でっかい夏 ほか	都道府県民生主管部（全国57か所）..... 1,156部
第24号	10月15日	汗・汗・笑いこどもの城は今日も躍動 ほか	保育園、幼稚園、小学校、中学校（渋谷区、港区）..... 438部（219件×2部）
第25号	12月15日	特集アメリカの子ども博物館 ほか	渋谷町会、渋谷区ボーイスカウト、ガールスカウトほか..... 284部（142件×2部）
第26号	平成2年2月15日	全国のタコ子どもの城に大集合 ほか	その他、招待者、視察・見学者などへ贈呈・配布..... 約15,000部
* は特別4ページ、35,000部発行。			

〔パンフレット・チラシ類〕

	名 称	発行部数	内 容	
1	子どもの城ごあんない（和文）	200,000部	「子どもの城」館内案内	ヨシダ印刷株式会社製作
	〃 （英文）	10,000部	〃	〃
2	夏期集中講座募集チラシ	2,500枚	講座等プログラム紹介・案内 (B4表裏)	広報部製作
3	第2学期講座募集チラシ	5,500枚	〃	〃
4	第3学期講座募集チラシ	4,000枚	〃 (B4表裏)	〃
5	平成2年度講座一覧パンフレット	10,000部	講座等プログラム紹介・案内 (A4, 12ページ)	〃

〔広報部製作・館内催しものチラシ類〕

	名 称	期 間	印刷部数	サイズ・形式
1	ゴールデンウイーク児童福祉週間	4月29日（土）～5月7日（日）	15,000部	B5 タテ 表裏
2	夏休みイベントプログラム	7月21日（金）～8月31日（木）	36,000部	B4 ヨコ 表裏
3	開館3周年記念	11月1日（水）～5日（日）	6,500部	B4 ヨコ 表裏
4	春休み特別期間	平成2年3月24日（土）～4月5日（木）	13,000部	A4・B5 タテ表

1 広報部

<児童手当誌>

	発行日	内 容		発行日	内 容
ネットワーク					
第18号	6月1日	第2回「遊びと造形発想」展を見て ほか	第31号	5月1日	「願い」ほか
第19号	9月1日	子どもの育成 ほか	第32号	7月1日	夏休みの青山劇場と円形劇場 ほか
第20号	12月1日	「こどもの城」満4歳 ほか	第33号	8月1日	400万人目は横浜の坊や ほか
第21号	平成2年3月1日	「こどもの城」を飛び出した「アフリカ・タムタムコンサート」ほか	第34号	10月1日	城の周りはビル・ラッシュ ほか
こどもの城			第35号	11月1日	5年目に入る「こどもの城」ほか
第30号	4月1日	新しいビジョンに燃える「こどもの城」ほか	第36号	平成2年1月1日	平成2年度児童厚生員等実技指導講習会について ほか
			第37号	2月1日	お正月の遊び大集合 ほか

[取材件数]

	新聞	テレビ	ラジオ	雑誌	その他	計(件)		新聞	テレビ	ラジオ	雑誌	その他	計(件)
平成元年4月	4	5	1	3	3	16	11月	0	4	0	2	2	8
5月	2	9	2	7	1	21	12月	1	4	0	5	3	13
6月	3	7	0	7	4	21	平成2年1月	1	2	0	5	0	8
7月	3	6	1	4	6	20	2月	1	1	0	2	4	8
8月	2	6	1	4	3	16	3月	3	2	1	4	5	15
9月	1	3	1	1	2	8	計	22 (38)	53 (40)	7 (10)	46 (42)	36 (28)	164 (158)
10月	1	4	0	2	3	10	開館以来の総計	232 (210)	318 (258)	314 (268)	282 (246)	1,146 (982)	

注：「その他」は社内報、機関誌（紙）、PR紙などである。（）内は前年度を表す。

ボランティアにグレードアップ講習会

本年度の研修教養部の事業は企画部と表裏の関係に立って行った。主な活動の柱は次のとおり。

- ① ボランティアの養成と活動に関するここと
- ② 「L I T」の養成と活動に関するここと
- ③ あそびガヤガヤ研究所の運営
- ④ 児童厚生員等実技指導講習会の開催
- ⑤ 社会福祉講座の実施
- ⑥ アウトドア・スクール、スキースクールなどの館外活動
- ⑦ 実習生・研修生の受け入れ

以上の中では、ボランティアが理論、実技を深めるためのグレードアップ講習会を本年度から本格的に実施したこと、子どもの城の活動に熱意をもって協力する高校生を“訓練中のリーダー”と位置づけて「L I T」(Leader In Trainingの略)と呼び、これまでになかった高校生の活動に道を開いたこと、が特筆される。

1) ボランティアの養成と活動

本年度の大学生を中心とする青年ボランティアの養成は第15期から17期まで3期にわたって実施し、計126人が修了した。これにより、年度末の青年ボランティア登録者は338人になった。

婦人ボランティアは第5期の養成講習会を9人が修了、年度末の登録者は59人となった。

(ア) ボランティアの募集

募集の周知は次のような形で行われている。

- 1) 大学または児童福祉、児童学関係の大学教授を通しての呼びかけ
- 2) 広報部を通じ新聞などに依頼して、お知らせ欄への募集記事掲載
- 3) 現在、ボランティア活動をしている人たちの口コミ

この中では、広く市民に呼びかけるという点で新聞などへの掲載が最も有効である。

婦人ボランティアの募集については、広くみんなで子どものことを考えようという呼びかけの意義も含めて特に新聞などに何かの形で記すとして取り上げてもらうことが大切だと考えられる。

(イ) ボランティア講習会

子どもの城において、子どもたちのために自分の持つ能力を活用したいと願う学生、青年、婦人を対象に一定の講習会を実施し、それを修了した後、実際活動に参加してもらう方法をとっている。この講習会は次代を担う子どもたちの健全育成を目指す子どもの城の設立理念や先駆的な役割、それに伴う課題などについて最低限の共通認識を持ってもらうとともに、

2 研修教養

ボランティア活動の意義を学び、同志的なチームワークをつくる、子どもたちの発達の段階を理解し、その発達に応じた援助を可能にしていく、などのために行うものである。

このような考え方に基づいた講習会の日程は次のとおりである。

第15期 ボランティア講習会のプログラム

講習日程	時間	講 師	講 義 内 容
6.10(土) 905号室 906号室	5:30~7:30 7:30~8:30	財日本児童手当協会 常務理事	ボランティア希望者面接 「子どもの城建設の理念と事業展開」
6.14(水) 801号室 802号室	6:00~6:30 6:45~8:30	明治学院大学 教 授 福田 垂穂先生	「体育事業部」事業概説 「児童健全育成とボランティア －子ども文化の継承と創造にむけて－」
6.16(金) 802号室 803号室	6:00~6:30 6:45~8:30	江東区文化センター 恩田 大進先生	「保育研究開発部」事業概説 「施設におけるボランティア活動 －施設の理解と活動の展開－」
6.20(火) 902号室 903号室	6:00~6:30 6:45~8:30	横浜YMC A 高塚 雄介先生	「音楽事業部」事業概説 「子どもを理解するために －子どもの心がみえますか－」
6.22(木) 906号室	6:00~6:30 6:45~8:30	協会職員 常藤 恒良	「A V事業部」事業概説 「ボランティア活動の記録と安全管理 －参加と責任の関係から－」
6.23(金) 24(土) 25(日) 市川少年自然の家	宿泊研修	大田区立入新井第二小学校 教 諭 中村都士治先生	野外炊事・野外ゲーム グループワークトレーニング ロールプレイинг等の実技指導を行い その中から人間交流の大切さを学びます
6.29(木) 906号室	6:00~6:30 6:45~8:30	跡見学園女子大学 教 授 中村 典男先生	「造形事業部」事業概説 「子どもも集団の指導方法 －魅力あるプログラムとリーダーの役割－」
7.4(火) 906号室	6:00~6:30 6:45~8:30	協会職員 神谷 明宏	「プレイ事業部」事業概説 「子どもはこんなリーダーをまっている －子どもの城のボランティアの心得－」
7.6(木) 906号室	6:00~6:30 6:45~8:30	協会職員 佐野 真一	「小児保健部」事業概説 「子どもの城で活動するため」 修了式(8:15~8:30)

第16期 ボランティア講習会プログラム

講習日程	時 間	講 師	講 義 内 容
11.11(土) 905号室 906号室	5:30~7:30 7:30~8:30	(財)日本児童手当協会 常務理事 大野 出穂	ボランティア希望者面接 「子どもの城建設の理念と事業展開」
11.14(火) 906号室	6:00~6:30 6:45~8:30	大正大学 教 授 吉澤 英子先生	「体育事業部」事業概説 「児童健全育成とボランティア」
11.15(水) 801号室 802号室	6:00~6:30 6:45~8:30	こすぎ社会教育研究所 所 長 小杉 道雄先生	「保育研究開発部」事業概説 「子どもにとって遊びとはなにか」
11.21(火) 803号室 804号室	6:00~6:30 6:45~8:30	全国子ども会連合会 専門委員 矢萩 操先生	「音楽事業部」事業概説 「プログラム企画立案の心得」
11.29(水) 906号室	6:00~6:30 6:45~8:30	協会職員 常藤 恒良	「A V事業部」事業概説 「児童健全育成施設における ボランティア活動」
12. 1(金) 2(土) 3(日) 狭山青年の家	宿泊研修	不動建設株式会社 会津 健先生	レクリエーションゲーム グループワークトレーニング ロールプレイ等の実技指導を行い その中から人間交流の大切さを学びます
12. 5(火) 803号室 804号室	6:00~6:30 6:45~8:30	協会職員 神谷 明宏	「プレイ事業部」事業概説 「ボランティアスピリットを考える」
12. 7(木) 803号室 804号室	6:00~6:30 6:45~8:30	日本青少年育成会議 常任理事 吉永 宏先生	「造形事業部」事業概説 「ボランティア活動と安全」
12.12(火) 803号室 804号室	6:00~6:30 6:45~8:30	協会職員 佐野 真一	「小児保健部」事業概説 「子どもの城で活動するために」 修了式(8:15~8:30)

2 研修教養

第17期 ボランティア講習会プログラム

講習日程	時 間	講 師	講 義 内 容
2. 3 (土) 902～ 903号室	5：30～7：30 7：30～8：30	(財)日本児童手当協会 常務理事 大野 出穂	ボランティア希望者面接 「子どもの城建設の理念と事業展開」
2. 6 (火) 902～ 903号室	6：00～6：30 6：45～8：30	協会職員 常藤 恒良	「体育事業部」事業概説 「施設におけるボランティア活動」
2. 8 (木) 902～ 903号室	6：00～6：30 6：45～8：30	江東区文化センター 恩田 大進先生	「保育研究開発部」事業概説 「今、リーダーに望まれること」
2.15 (木) 902～ 903号室	6：00～6：30 6：45～8：30	玉川大学 教 授 高城義太郎先生	「音楽事業部」事業概説 「児童健全育成とボランティア」
2.20 (火) 902～ 903号室	6：00～6：30 6：45～8：30	(財)東京小中学生センター 柴田 俊明先生	「A V事業部」事業概説 「こどもたちにとって魅力ある プログラムとは」
2.23 (金) 24 (土) 25 (日) 市川少年自然の家	宿泊研修	市川市二俣小学校 教 諭 鈴木 郁夫先生	レクリエーションゲーム グループワークトレーニング ロールプレイинг等の実技指導を行い, その中から人間交流の大切さを学びます。
2.27 (火) 904～ 905号室	6：00～6：30 6：45～8：30	協会職員 神谷 明宏	「プレイ事業部」事業概説 「ボランティアグループ 運営上の留意点」
2.28 (水) 906号室	6：00～6：30 6：45～8：30	協会職員 常藤 恒良	「造形事業部」事業概説 「ボランティア活動と安全管理」
3. 6 (火) 904～ 905号室	6：00～6：30 6：45～8：30	協会職員 佐野 真一	「小児保健部」事業概説 「子どもの城で活動するために」 修了式

青年ボランティアの講習会は期間も長く、2時間を1単位として、約21単位となっている。特に宿泊研修では、1人1人の指導性の開発を目指して、ロール・プレーイングやグループワークトレーニング、歌、ゲーム、ダンスの指導法、また野外炊事や野外でのゲームなどの実習を含めている。これらは実習するばかりでなく、その実習がどのような作業構成・人的協力でできていたかをフローチャートに各班ごとに書く。それを発表しあいながら、指導者として、1つのプログラムにどう取り組むか、よきメンバーシップの体験を通して、よきリーダーシップをそれぞれの胸の中に構成できるよう指導している。

また、講習後の夜9時以降も、先輩ボランティアとの実際活動についての話し合いなど、打ちとけた雰囲気の中で、交流を進めている。

更に時期により異なるが、キャンプファイアーやキャンドル・サービスなどを行い、楽しさのうちに、同一の期に学んだという帰属意識をつくり、相互に学び合いができる基盤形成に努めている。

婦人ボランティアの講習は4回のみであるが、既に子育て経験がある人ばかりということから、「子どもの城」理解とボランティア活動の理解の上に立って余暇時間の有効活用、実践を通しての学習という面で、生涯学習に結びつけられればと考えている。

(ウ) 活動の状況

ボランティアが協力活動をしている各事業部のプログラムは次のとおり。

〔平常期間〕

〈プレイ事業部〉

プラモデル模型工作教室	日曜日13~15時
おはなし紙芝居	火曜日15~16時
チャレンジ・ギネス大会	水曜日15:30~16:30時
影絵	第3木曜日15~16時
マックロー人形劇場	第3土曜日15~16時
サタデープレイタイム	土曜日15~17時

その他自由遊び

〈体育事業部〉

手足の不自由な子どものスイミング、毎週土曜日、17~18時

婦人ボランティア 第5期講習会プログラム

日時・場所	内 容	講 師
10月17日（火） 14：00～16：00	「子どもの城」 プロジェクトについて	協会理事 大野 出穂
10月20日（金） 14：00～16：00	施設における ボランティア活動	大正大学教授 吉沢 英子先生
10月24日（火） 14：00～16：00	婦人のボランティア活動	社会活動教育研究所 所長 新谷 弘子先生
10月27日（金） 14：00～16：00	「子どもの城」 ボランティアの心得	協会職員 常藤 恒良 神谷 明宏

〈AV事業部〉

ぱたぱたアニメをつくろう

土曜日14~16時

〈保育研究開発部〉

保育の援助協力 月~土曜日

〈研修教養部〉

「あそびガヤガヤ研究所」

- 通称「ガヤ研」は、小学4年生から中学3年生まで構成しているが、このグループリーダーとしてプログラムの企画運営から指導・援助に当たっている。

〔特別期間〕

〈春休み〉

人形劇フェスティバルへの参加。

チャレンジゲーム大会の企画と実施

〈児童福祉週間〉

(4月28日~5月5日)

キャッスル・クエスト=全館を用いた体験ゲームで、各ポイントでボランティアが活躍した。

- 「デカデカ鯉をつくろう」=プレイホールで実施したプログラムに協力して大きな鯉をつくり、子どもの日を祝った。

- 人形劇=恒例の3~5日、人形劇フェアにボランティアの人形劇グループ「マックローパー人形劇」が参加した。

〈夏休み〉

- ウォター・アドベンチャー=青年ボランティアの創意に満ちたゲームづくりとセットは子ども達を夢中にさせすばらしいチームワークで連日ゲームを盛り上げた。

- ミステリーハウス=あそびガヤガヤ研究所の子どもたちの企画・制作で行ったが、ボランティアは子どもたちのアイディアを更に増幅し、効果を高めた。

その他、夏休み中のプレイホールを中心とするさまざまな催しに参加した。

〈開館記念特別期間〉 11月1~3日

- チャレンジ・ゲームスペシャル=若者らしいゲームをつくり、子どもたちとともにそれにチャレンジするゲーム大会を実施した。

こどもの城ボランティア養成状況(平成2年3月現在)

		養成期間	登録数	修了者数
青 年	1	昭和59年6月~7月	1	37
	2	昭和59年11月~12月	8	44
	3	昭和60年2月	3	46
	4	昭和60年6月~7月	9	50
	5	昭和61年2月~3月	6	36
	6	昭和61年6月~7月	7	35
	7	昭和61年11月~12月	13	43
	8	昭和62年2月~3月	12	49
	9	昭和62年6月~7月	16	42
	10	昭和62年11月~12月	11	44
	11	昭和63年2月~3月	21	48
	12	昭和63年6月~7月	24	42
	13	昭和63年11月~12月	28	42
	14	平成元年2月~3月	47	47
	15	平成元年6月~7月	34	34
	16	平成元年11月~12月	48	48
	17	平成2年2月~3月	44	44
		計	338	731
婦 人	1	昭和60年11月	16	19
	2	昭和61年10月	12	15
	3	昭和62年11月	10	14
	4	昭和63年10月	10	13
	5	平成元年10月	9	9
		計	59	70
		合 計	397	801

〈冬休み〉 (12月25日～1月6日)

- ・年忘れゲーム大会（プレイホール）
- ・昔あそび大会（ふしげが丘）
- ・こどもの城・紙相撲春場所（音楽スタジオ）
- ・ジャンボかるたとり（体育室）

これらは、いずれもボランティアの協力により内容豊かな年末年始のプログラムとなつた。

〈その他季節行事など〉

以上のほか、母の日、父の日、ひな祭りなど季節にちなんだ各種の行事や、横浜開港記念日、都民の日など、近隣都県市の記念日の特別プログラムは、いずれもボランティアの協力によって活発に行われた。

(エ) グレードアップのための講習会

ボランティアの養成講習会を修了し、現に活動している人たちが、さらに現論と実技を学び、よりよいリーダーへの道を開くための講習会である。

① 救急法・救急員資格認定講習会

グレードアップ講習会第1弾として本年度は日本赤十字社東京都支部に依頼して日赤救急員の資格認定講習会として実施した。そのため受講生30人以上、1.5時間を1単位として24単位と長時間をするものになったが、以下の日程で、実施した。

期間 5月9～14日

時間 9～12時 18時30分～21時

13日 13～21時

14日 9時30分～19時30分

ボランティアの受講者24人、城の職員8人、その他3人で開くことができた。適任証を受けた受講者は80%を超え、よい成果を収めた。

この講習会は単に救急処置を学ぶにとどまらず、危険の予知能力を高め、指導者としての対応の仕方を学ぶ機会となり、充実したグレードアップ講習会であった。

② 障害をもつ子どもたちと親しくなるために

—ふれあいセミナー—

第2弾は既に2年間、継続して実施してきた「ふれあいセミナー」を公開の形で開講した。

障害を持つ子どもたちが健常児と交わり、公共的施設を用いて、活動することは徐々にではあるが進められている。

こどもの城で活動するボランティアにとっていろいろな障害を持つ子どもの介助、援助ができるることは大切な要件になるため、この講習会を実施している。

障害をもつ子どもたちと親しくなるために
——ふれあいセミナー——

日程と内容

回	日 時	内 容	講 師
1	10月11日（水） 18：30～20：30	障害児に優しい社会をつくろう	厚生省 障害福祉専門官 中沢 健先生
2	10月12日（木） 18：30～20：30	目の不自由な子どもと親しくなるために	都立葛飾盲学校 小林 一弘先生
3	10月18日（水） 18：30～20：30	手や足の不自由な子どもと親しくなるために	こどもの城企画部長 常藤 恒良
4	10月19日（木） 18：30～20：30	知恵遅れの子どもと楽しくなるために	済美職業実習所 西蘭 洋先生
5	10月25日（水） 18：30～20：00	耳やことばの不自由な子どもと親しくなるために	北東京寿栄園園長 玉木 修先生
6	10月26日（木） 18：30～20：30	体験と援助実技とまとめ	日本肢体不自由協会 飯笛 義彦先生他

③ グレードアップ講習会

こどもの城ボランティアとして活動しているリーダーたちが自主的に企画委員を選び、計画・実施したのがこの講習会である。

2年2月24・25日の2日間、千葉県市川市少年自然の家で1期から16期までのボランティア30人が参加して行われた。プログラムは次のとおり。

表現法トレーニング

「心をひらいて人と接するために」講師 円トレーニング研究所 仁科きぬ子先生

「リーダーとして必要な表現力を身につけよう」講師 全国こども会連合会 宇田川光雄先生

2) LIT (Leader In Training) の活動**(ア) L I T活動の目的**

小学生の時以来、こどもの城の活動に親しんできた子どもたちの中には、高校生になったものもいるが、城にはその受け皿としてのまとまった活動プログラムはなかった。このため今年度からL I Tの活動を始めることになったもので、“こどもの城育ち”の高校生に引き続き城のさまざまな活動に参加してもらい、ボランティアと協力して、よりよいリーダーシッ

が、近い将来、城の優れたボランティアリーダーになると期待されているのは、いうまでもない。

(イ) 合宿研修

6月24日から2日間、千葉県市川市少年自然の家において16人が参加して行った。

研修プログラムは夏のアウトドア・スクールへの参加を想定し、別表のとおり実施した。このプログラムは、指導者としてどうかかわり、子どもたちをどう指導するかの体験であり、これが夏のアウトドア・スクールに役立つ基礎学習となった。

〈合宿研修プログラム〉

6月24日(土)	16:00	参加者集会
	16:00～18:00	野外炊事実習、食事
	18:00～21:00	キャンプ・ファイアー実習
	21:00～22:00	入浴
	22:00	就寝
6月25日	6:30～7:00	起床、洗面
	7:00～8:00	清掃、朝のつどい
	8:00～9:00	朝食、休憩
	9:00～12:00	野外ゲーム実習とまとめ
	12:00～13:00	昼食
	13:00～15:00	講習会のまとめ 解散

(ウ) 館外活動への参加

8月3日から6日まで静岡県県民の森キャンプ場で行ったアウトドア・スクールにLIT7人が、また2年3月31日から4月4日まで新潟県津南町グリンピア津南で実施したジュニア・スキースクールにもLIT10人が参加、いずれも城のスタッフやボランティアに交って活動の充実に貴重な役割を果たした。

3) あそびガヤガヤ研究所の活動

あそびガヤガヤ研究所は子どもと子どもの城を結ぶパイプとなり、子どもたちの発想や考えを城の活動に生かしていくこうとの願いから運営されている。このような子どものクラブとしての同研究所は8月に4期を終え、11月から5期の活動に入った。

4期から小学生・中学生の活動は原則として分離したが、必要に応じて統合活動も行いながら運営された。研究生の数は第4期は57人（小学生32人、中学生25人）、第5期が75人（小学生53人、中学生22人）。

活動は毎月1回が原則だが、子どもたち自身が企画するプログラムについては相互に分担

する具合などから参加回数は多くなる。

この活動は夏休みに大きなイベントを企画し、これが1年の活動の総まとめとなると同時に、次の期に向けてのスタートとなっている。本年度は前年度に引き続いて、「子どものつくる子どものミステリーハウス」を完成して来館者を驚かせ、感心させた。

奇抜なアイディアもさることながら、その製作、実施に当たっての協力がすばらしい人間関係をつくったことが高く評価された。

本年度の活動プログラムは以下のとおり

- 4月 15日から1泊2日の子どもの城館内合宿を行った。小・中学生メンバーの新睦を深めるため毎年実施している
- 5月 子どもデパートへの参加と役割の分担についての協議。
- 6月 子どもデパートへの参加。
- 7月 夏休みの大企画としてのミステリーハウスの趣旨の理解と企画立案の話し合い。
- 8月 7月の企画を踏まえて、具体的に作業を分担して実行に移る。
18日（金）～20日（日）子どもの城に合宿し、ミステリーハウスを完成しその運営に当たる。合宿の最終日に第4期の修了式を行った。
- 10月 第5期のメンバーを募集 定員75人
29日 第5期の開所式 午前10時全員が集合。スタッフ紹介や研究員バッジの授与など。
- 11月12日 中学生班ガヤ研のテーマソングを練習。
その振り付けを小グループに分かれ創作。
- 19日 小学生班 ゲーム大会を催し、研究員同士の親睦の時とした。
- 12月10日 中・小合同で、子どもの城の館内オリエンテーリング「怪人26面相からの挑戦パートⅠ」を行い、全館に隠した暗号を探して駆けめぐった。
- 1月21日 小学6年生と中学生は11月に創作したダンスを練習、2月28日（日）に行われる予定の東京都レクリエーション連盟、東京都フォークダンス連盟共催のハロハロダンスフェスティバルに出場のため練習を行う。この後、土・日曜日に可能な限り集まり練習を行う。
- 1月28日 小学生（4・5年生）館内で「ビデオで遊ぶ」を行う。
- 2月12日 小学年生と中学生は上記ハロハロダンスフェスティバルに備えてのダンス練習。
- 2月18日 ハロハロダンスフェスティバルに35人が参加した。
- 2月25日 小・中学生合同で卒業お祝い会の企画会議を行う。
- 3月 小・中合同で、小学校・中学校を3月卒業するメンバーのお祝い会を開く。午前中、卒業生は会議室で、大野常務の「志を高めよう」と題する話に耳を傾ける。午後は卒業生以外のメンバーがきれいに飾り付けた部屋で、彼らが自主的に計画した学校の制服ファッショショーやbingoゲームを行い、楽しいお祝い会になった。

4) 児童厚生員等実技指導講習会

全国の児童館などの児童厚生員を対象とする実技を中心とした講習会を毎年2回、子どもの城で開催している。今年度は5月と11月に行い、第1回の5月は16都府県から42人、11月は23都道府県から61人の参加があった。

これまでの講習会のテーマ、内容は造形・音楽・体育など、子どもの城の各事業部が担当して、それぞれの専門性を生かしたものから、参加者のニーズを取り入れ、「子どもの遊び」に焦点を当てたものへと変わってきた。そして、これをプロデュースする児童厚生員のあるべき姿を追求する方向が見えている。

本年度のテーマは2回とも「子どもの心を引きこむ遊び」。いろいろな遊びの領域をイメージしながら、そこでの有効なリーダーシップの発揮につながるよう構成を試みた。

内容も次第に子どもの城ならではの特色が出てきたといわれているが、更に充実に努め、全国の児童館などの活動の活性化に寄与できるよう心がけたい。

5) 社会福祉講座

今年度も前年度に引き続き4講座、1サークルを財団法人広げよう愛の輪基金の協賛を得て実施した。

手話講座は前期32人、後期が21人で参加者の充足率は90%になったが、点訳入門講座は15人で、50%の充足率であった。

お話講座は36人の参加があり定員をオーバーして受け入れた。そのため続編的な考え方から「創る手あそびうた」全5回と特別講座「地域活動をはじめる講座—人形劇—」全6回を計画したが、参加者が少なく中止のやむなきに至った。

特別講座「子どもの心を考える」は大妻女子大学教授、医学博士平井信義先生を迎えての連続講座として実施した。たいへん熱心な聴講者が多く60人の定員を超過した。

講座も熱がこもり、子育てに不安を持つ若い母親の多いことを思い知らされた。今後もこの講座を続け、母親のニーズにこたえたい。

2 研修教養

元年度 第1回児童厚生員等実技指導講習会 こどもの心を引き込む遊びーその実技と展開法ー

月日 時間	第 1 日 目	第 2 日 目	第 3 日 目
	5月19日(金)	5月20日(土)	5月21日(日)
7:00		起 床	起 床
8:00		洗 面	洗 面
9:00		朝 食 · 休 憩	朝 食 · 休 憩
10:00	受付開始 開講式 オリエンテーション	「リズム・音楽あそび」 —リズムや音楽を伴うあそびの 実際からダンスの指導まで— 東京都レクリエーション連盟 理事長 奥野正恭先生	「子どもの遊びのプログラム立案のポイント」 —まとめにかえて— 子どもの城プレイ事業部 部長 神谷明宏
11:00	レクリエーションで自己紹介		
12:00	昼 食 · 休 憩	昼 食 · 休 憩	昼 食 · 休 憩
13:00	「日本に伝わる子どもの遊び文化とその実際」 —色々な遊びを体験し、 遊びの文化を体で知る— 日本児童遊戯研究所 所長 有木昭久先生	「子どもの城」見学 —子どもの城での活動を体験し、 実際展開を考える— 子どもの城専門職員	講習のまとめ 閉講式 解散
14:00			
15:00			
16:00			
17:00	夕 食 · 休 憩	夕 食 · 休 憩	
18:00	オプションプログラム 観劇「ラマンチャの男」 青山劇場	「遊びの展開法」 —遊びの組み立てをジャンケンという誰でも できる方法を用いて展開する— 八王子市立第5小学校 教諭 丸山 正先生	
19:00			
20:00			
21:00			
22:00	消 灯 · 就 寝	消 灯 · 就 寝	

IV 各部の活動(2)

元年度 第2回児童厚生員等実技指導講習会 こどもの心を引き込む遊びーその実技と展開法ー

月日 時間	第 1 日 目	第 2 日 目	第 3 日 目
11月24日 (金)		11月25日 (土)	11月26日 (日)
7:00		起 床	起 床
8:00		洗 面	洗 面
9:00		朝 食 · 休 憩	朝 食 · 休 憩
10:00	受 付 開 始 オリエンテーション	「作って遊ぶ」 横浜市レクリーダー協議会常任理事 横浜レク・クラフト研究所所長 兼 松 ムツミ 先生	パネルディスカッション テーマ「こどもの遊びに指導者は必要か」 ーこども遊びづくりの条件ー 練馬区石神井児童館 北島尚恵先生 東京小中学生センター 柴田俊明先生 こどもの城 神谷明宏 司会 こどもの城 常藤恒良
11:00	レクリエーションで自己紹介		
12:00	昼 食 · 休 憩		昼 食 · 休 憩
13:00	こどもの城の見学	昼 食 · 休 憩	講 習 の ま と め 閉 講 式 解 散
14:00	「こどもの遊びのプログラム立案のポイント」	「子どもたちと歌う楽しさをつくる」 清見台音楽学院	
15:00	こどもの城プレイ事業部長 神 谷 明 宏	院長 杉 本 龍 之 先生	
16:00			
17:00	夕 食 · 休 憩	夕 食 · 休 憩	
18:00	オプションプログラム 観劇 ミュージカル 「ユタと不思議な仲間たち」	「子どもの心をとらえるレク・ゲーム」 全国子ども会連合会事務局次長	
19:00	(劇団四季)	宇田川 光 男 先生	
20:00	こどもの城青山劇場		
21:00			
22:00	消 灯 · 就 寢	消 灯 · 就 寢	

2 研修教養

元年度 社会福祉コース講座実施一覧

講 座 名	期間・曜日・時	回数・定員	受講者数	講 師	受講料	対 象	備 考
手 話 講 座	4.11～8.22 火 18：30～20：00	全15回 30名	32名	(社福)トット文化館 館長 貞広 邦彦先生	¥10,500 (登録料 ¥1,000)	高校生以上	* 初心者と継続者の混合クラス。 聴覚障害の方との交流会をもつ等、広く社会福祉の情報交換の場となるような内容。
点訳入門講座	4.18～12.22 火 18：30～20：00	全24回 30名	15名	(社福)日本点字図書館 河井久美子先生	¥14,500 (登録料 ¥1,000)	成人男女 (初心者)	* 点訳の基本を学び、日常の文書が点字で打てるよう指導。ボランティア活動をはじめようとする方に好適。
お 話 講 座 -絵本の読みきかせからたのしい表現活動へ-	4.14～7.21 金 18：30～20：00	全8回 30名	36名	足立高等保育学院 講師／児童劇作家 蓑他 正治先生	¥ 8,000 (登録料 ¥1,000)	保育関係等に勤める方ほか／成人	* 保育現場などで、すぐに役立つ絵本の読み聞かせの基本から、複数人数で行う応用的な表現活動を実習を中心にする。
後期 手 話 講 座	10.24～翌3.13 火 18：30～20：00	全15回 30名	21名	(社福)トット文化館 館長 貞広 邦彦先生	¥10,500 (登録料 ¥1,000)	高校生以上	* (前期からの)継続者が多いことが予想されるが、初心者の参加も可能。(進行は、前期と同様)
(*クラブ) 点訳サークル	4.28～翌3.6 火or金 #月1回 18：30～20：00	全12回 30名	21名	(社福)日本点字図書館 河井久美子先生	¥ 9,600 (登録料 ¥1,000)	点訳入門講座修了者	* 点字の基礎をマスターした点訳入門講座修了者のアフターケアの場。実際に視覚障害の方から希望のあった書物等をそれぞれが点訳奉仕する。
特別講座Ⅰ 「子どもの心を考える講座」	①5.27(土) ②6.17(土) ③7.1(土) 14：00～16：00	全3回 60名	61名	大妻女子大学児童学科教授 医学博士 平井 信義先生	¥ 5,000 (登録料なし)	20才以上 関心のある方／一般	* 前年度までの「現代の子どもたちを考える」公開講座に替わるものとして新設。平井信義先生の講義をじっくり伺う。 ①「子どもの個性をどう伸ばすか」 ②「思いやりの心」 ③「子どもからの赤信号」

6) キャンプ等の活動

子どもの城では、職員やボランティアリーダーが子どもたちと24時間生活をともにする中で、子どもの心をつかみ、子どもの成長を跡づける絶好の機会として開館前からキャンプ活動を実施してきた。

本年もジュニア・アウトドア・スクールとスキースクールを実施した。

(ア) ジュニアアウトドア・スクール

8月3日から6日までの3泊4日の日程で、静岡県県民の森キャンプ場で行った。

参加者70人に対し、ボランティア26人が加わった。

〈プログラム〉

月日	8月3日（木） 〈キャンプ場第1日〉	8月4日（金） 〈キャンプ場第2日〉	8月5日（土） 〈キャンプ場第3日〉	8月6日（日） 〈キャンプ場第4日〉
時間	協力して楽しい班づくり	自然に親しもう！	新しい発見をしよう！	よい想い出を胸に
6:00		起 床 洗面・清掃 朝のつどい	起 床 洗面・清掃 朝のつどい	起 床 洗面・清掃 朝のつどい
8:00	集合（子どもの城） 点呼、諸注意 出発 バス車中 あいさつ、 自己紹介 オリエンテーション、 レクリエーション	野外炊事 朝食・休憩 キャンプ場出発	野外炊事 朝食・休憩	野外炊事 朝食・休憩
10:00		登山（ハイキング）		選択プログラム ・記念品をおみやげに！ ・ロープワークに挑戦！ ・おやつをつくろう！
12:00		非常食体験！ 昼食・休憩 帰 村		撤収作業 物品返納 テントサイト整理
13:00	キャンプ場到着 昼食・休憩	原始火おこし実習		お弁当 昼食・休憩
14:00	開村式 物品貸し出し 荷物整理	野外クッキングスクール	アドベンチャーゲーム	閉村式 キャンプ場出発
15:00	野外炊事講習 野外炊事実習	自由時間 おやつ配給 おたより書き	野外炊事 夕食・休憩	バス車中
16:00		給 食 夕食・休憩		レクリエーション 感想発表
18:00	夕食・休憩	ナイトウォークラリー	さよならキャンプファイヤー	帰着、解散（子どもの城）
19:00	親睦キャンプファイヤー			
20:00	係別会議 班別ミーティング 就寝準備	班別ミーティング 就寝準備 (中学生ソロ体験)	班別ミーティング 就寝準備	
22:00	消 灯	消 灯	消 灯	
	スタッフ打ち合わせ	スタッフ打ち合わせ	スタッフ打ち合わせ	

2 研修教養

(イ) ジュニア・スキー・キャンプ

春休みを利用し、平成2年3月31日から4月3日まで、新潟県・苗場高原グリーンピア津南で実施した。

76人の参加者に対し、ボランティアリーダーは21人。自然に親しみ、スキーの基礎を学ぶのが目的で、技術指導は横浜スキー同好会の指導員が当たった。

スキー以外のゲームなどのプログラムも充実してきた。

〈プログラム〉

時間	月日 3月31日（土） キャンプ第1日	月日 時間	4月1日（日） キャンプ第2日	4月2日（月） キャンプ第3日	4月3日（火） キャンプ第4日
			協力して愉快な班づくり	雄大なゲレンデはぼくらの教室だ	えがけ大きなぼくらのシュールを
8:00	集合（子どもの城） 点呼、諸注意 出発 バス車中 あいさつ、自己紹介 オリエンテーション 昼食、休憩 レクリエーション	6:30 7:15 7:45	起 床 洗面・清掃 朝のつどい 朝食・休憩 スキーの用意 集合	起 床 洗面・清掃 朝のつどい 朝食・休憩 スキーの用意	起 床 洗面・清掃 朝のつどい 朝食・休憩 スキーの用意
12:00		8:30 9:00	スキー教室開講	スキー教室	みんなのデモンストレーション デュアル・ポールレース
14:00	宿舎到着 開校式 部屋割り当て 荷物整理 スキー貸し出し スキークラス分け 夕食・休憩	12:00 13:00 13:30 15:00 15:30	昼食・休憩 スキーの用意 スキー教室 反省・注意 自由時間 入浴（班毎）	昼食・休憩 スキーの用意 スキー教室 反省・注意 自由時間 入浴（班毎）	昼食・休憩 組別対抗雪上オリンピック 自由時間 入浴（班毎）
18:00	スキーオリエンテーション 交歓の夕べ	18:00	夕食・休憩	夕食・休憩	
19:00		19:00	ナイトウォークラリー	スタンツナイトの夕べ	夕食・休憩
20:30	入浴会議 就寝準備 本部打ち合わせ	20:30	班会議 就寝準備 消灯	班会議 就寝準備 消灯	荷物整理 閉講式 バス乗車、 (さようならゲレンデ)
22:00		22:00	本部打ち合わせ	本部打ち合わせ	

翌朝6時解散

IV 各部の活動(2)

<ジュニアアウトドア・スクール参加者>

参 加 者	小学校3・4年生		小学校5・6年生		中 学 生		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	(13)	(5)	(14)	(17)	(4)	(17)	(31)	(39)
スタッフ			(18)		(31)		(21)	
			スタッフ		ボランティア		合 計	
			男	女	男	女	男	女
			(2)	(1)	(9)	(17)	(11)	(18)
			(3)		(26)		(29)	

<ジュニア・スキーキャンプ参加者>

参 加 者	小学校3・4年生		小学校5・6年生		中 学 生		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	(12)	(11)	(8)	(20)	(11)	(14)	(31)	(45)
スタッフ			(23)		(28)		(25)	
			スキー講師		スタッフ		ボランティア	
			男	女	男	女	男	女
			(4)	(3)	(3)	(0)	(7)	(14)
			(7)		(3)		(21)	(30)

7) 実習生・研究生の受け入れ

元年度は実習生11人、研究生1人を受け入れた。

平成元年度こどもの城実習生・研究生受け入れ状況

実習目的	学 校 名	人 数	受入れ事業部	期 間
健全育成奉仕	昭和女子大学 (オーストラリア)	1	保育・ブレイ・研修教養	5月25~28日
社会体育実習	国際武道大学	5	体 育 事 業 部	8月13~26日 8月31日~9月13日
社会体育実習	日本体育大学	1	体 育 事 業 部	7月25日~8月6日
社会体育実習	東京健康科学専門学校	4	体 育 事 業 部	7月11~23日
小児保健研修		1 (中国)	小 児 保 健 部	10月~3月 毎週1~2回

◎ふれあいの場 おもちゃ図書館

昭和62年度に開設した心身に障害のある子どもたちを対象としたおもちゃ図書館も3年を経過し、順調に運営されている。利用者もほぼ定着してきており、ボランティアと利用者とのふれあいの場として楽しい遊びを展開している。開館日（毎週水曜日）の午前中は障害児の利用者が比較的少ないため、一般来館の健常児の受け入れを試みた。これは障害児並びにおもちゃ図書館に対する理解を広めることにもなり、今後も積極的にすすめたい。

なお、通常のおもちゃ図書の運営のほか、5月24日、子どもの城研修室において「おもちゃ図書館春の集い」を開催し、都内のおもちゃ図書館関係者と親子、ボランティアが楽しく交流した。また10月17日から22日までの6日間、アトリウム・ギャラリーで財団法人日本おもちゃ図書館財団、おもちゃ図書館東京連絡会ほか玩具メーカーの協賛を得て、各種のおもちゃの展示、おもちゃの相談などを内容とする「豊かな遊びをひろげるおもちゃ展」を開催し、一般の方々の理解を得るとともに好評を得た。

◆おもちゃ図書館の運営（おもちゃの図書館マックロー）

- | | | | |
|------|---------------------|----------|------------------------|
| ①開館日 | 週1回毎週水曜日11:00~16:00 | ④おもちゃ貸出し | 1人2個2週間程度 |
| ②対象 | 就学前の心身障害児（保護者同伴） | ⑤対応 | おもちゃ図書館ボランティア
・グループ |
| ③利用料 | 無料 | | |

おもちゃ図書館開館回数・利用者数等調べ

	開館回数	利用者延べ数 (保護者・児童)	おもちゃ 貸出数	ボランティア 活動人員
平成元. 4	4	22	20	15
	5	28	24	19
	6	46	36	14
	7	66	44	15
	8	63	32	18
	9	21	26	15
※10	10	60 (1,500)	48	46
	11	28	22	17
	12	80	31	14
2. 1	4	26	20	9
2	4	45	11	13
3	4	45	7	14
計	57	530 (1,500)	321	209

地区別利用（登録）者数

区市	登録者	区市	登録者
渋谷区	48	台東区	4
港区	36	大田区	3
新宿区	30	横浜市	4
世田谷区	18	その他 (八王子 ・三鷹ほか)	47
目黒区	6		
計		196	

（注）※10月の（ ）内数字は、ギャラリーでの「おもちゃ展」期間中の入場者概数である。

3 国際交流部

IV 各部の活動(2)

(1) 元年度活動一覧表

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
こどもデパート	6. 11 (日)	11:00~15:00	B 2 F 体育室	(円)	(人) パフォーミング・アーツ・グループ	全館行事「こどもデパート」に国際交流部講座で3店出店
高島屋東京店 チルドレンズ・フロア改裝1周年	10. 15 (日)	11:00~16:00	高島屋東京店 5 F		パフォーミング・アーツ・グループ	高島屋東京店のチルドレンズ・フロア改裝を祝し、PAGのメンバーで歌を披露した。
横浜高島屋 ハロウィーン・プログラム	10. 29 (日)	10:00~17:00	横浜高島屋		パフォーミング・アーツ・グループ サウンド・オブ・シザース	横浜高島屋主催のハロウィーン行事に参加
エンジェル・クリスマス	12. 16 (土) ~17 (日)	12. 16①14:30 ②17:00 12. 17①11:00 ②13:30 ③16:00	3 F 青山円形劇場	800円 (3歳以上同一)	国際交流部 企画部 劇場事業本部 外部スタッフ	円形劇場で行う2か国語ファミリー・プログラム12弾。
外国人コミュニティー対象のオリエンテーション	11. 2 (木) 11. 11 (土)	10:00~12:00 10:00~12:00	11 F 会議室 及び こどもの城 全館		国際交流部 企画部	外国人がこどもの城のプログラムと活動をもっと理解できるよう、オリエンテーションと案内を行った。
切り絵展示会	10月・12月 の各10日間		1 F エントランス		サウンド・オブ・シザース	サウンド・オブ・シザースの活動の発表として、ハロウィーンとクリスマスの楽しい作品を飾った。

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
ART PALS 展覧会	4. 22 (土) ~5. 7 (日)	開館時間中	4 F ロビー	(円)	(人) 職 員	N Y C 公立校との絵画やビデオの交換(約40)
ART SCAPE 展覧会	4. 22 (土) ~5. 7 (日)	開館時間中	1 F アトリウム・ギャラリー		職 員 外部スタッフ	東京近郊のインターナショナル・スクールの美術作品展(約400)
SPACE ADVENTURE	5. 3 (水) ~5. 5 (金)	5. 3 4:00 5. 5①11:00 ②3:00	3 F 青山円形劇場	800円 (3歳以上同一)	国際交流部 劇場事業本部 外部スタッフ	円形劇場で行う2か国語ファミリー・プログラム11弾

3) 講座・クラブ等

名 称	対 象	人 数		曜 時	日 間	場 所	期 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員	受講数							
サウンド・オブ・シザース	小1～小6	(人)	(人)	火曜 4：30～6：30	11F 会議室		(回) 4. 11～ 7. 4 12 9. 12～ 12, 12 13 1. 9～ 3. 20 9	(円) 18, 540 19, 570 14, 420	成井 俊美 職 員	臨時講師 として2 回担当
		30	15							
		30	12							
パフォーミング・アーツ・グループ	小1～小6	30	9							
		30	36	水曜 4：00～6：00	2 F Bリハ ーサル		(回) 4. 12～ 7. 5 12 9. 13～ 11. 29 12 1. 10～ 3. 14 10	(円) 18, 540 18, 540 15, 450	Janis Claxton 職 員	ダンス指 導講師と して10回
		30	30							
		30	20							

(2) 国際交流部の活動

1) 平常期間

(ア) こどもデパート (6月11日)

パフォーミング・アーツ・グループの親子で「あっ、おっことしちゃっだめ」(うちわに乗せた風船を落とさないように運ぶレース), 「ぐにゃぐにゃ BOX」(箱に隠されたぐにゃぐにゃのものを手で触るだけで当てさせるゲーム), 「かいじゅうビンゴ」(数字の代わりに怪獣の名前を使ったビンゴ) を出店した。

(イ) エンジェル・クリスマス (12月16・17日)

5回目を迎えたファミリー対象のクリスマス行事。子どもたちが楽しみにしているクリスマスを草や木, 花などの大自然にもエンジェル(天使)からプレゼントするストーリーをパフォーミング・アーツ・グループのダンスや歌を中心に展開。そのほかにクリスマスをテーマにしたサンタクイズや家族そろってのディスコタイムなどで構成。

恒例となった青山円形劇場での国際交流企画には根強いファン層はいるものの, 一方で同じパターンの繰り返しになる傾向も見受けられるため, 今後は劇場事業本部との協力のもとにプログラム内容の充実を図っていきたい。

2) 特別期間

(ア) アートバル '89 (4月22日～5月7日)

ニューヨーク市公立006校との美術交換プログラムとして実施。ニューヨーク側からは11～13歳, 31人の水彩画「私と私のまち」と写真が届き, これを4階ロビーに展示した。城からはパフォーミング・アーツ・グループとサウンド・オブ・シザースの全員が同じく「私と

「私のまち」と題する絵を描き、写真、ビデオとともに送った。ビデオにニューヨークの子どもたちへの質問を収録したところ、返事のビデオが送られてきた。参加した子どもたちにとっては文化・習慣の違いを絵画・ビデオを通して感じ取るよい機会となった。

(イ) アートスケープ'89（4月22日～5月7日）

4回目を迎えた東京・横浜地区のインターナショナルスクールの生徒の美術作品展。参加校はアメリカン・スクール・イン・ジャパン、クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン、清泉インターナショナルスクール、聖心インターナショナルスクール、セントメリーアンタナショナルスクール、セントモアインターナショナルスクール、横田ハイスクール、横浜インターナショナルスクールの8校。70か国を超える国籍の5年生から12年生の生徒たちの彫刻・陶芸・ガラス工芸・油絵・水彩画・デッサン・写真など約400点がアトリウム・ギャラリーに展示された。

(ウ) スペース・アドベンチャー（5月3～5日）

児童福祉週間のファミリー対象の行事として開催。「スペース・アドベンチャー」と題して、会場の子どもたちと城のキャラクター“マックロー”を探しに出かけるという設定。青山円形劇場の音響や照明を生かして宇宙を表現した。ゲストには子どもたちに大人気のバンド「トラや帽子店」、ゲームリーダーとして成井俊美さん、司会には藤井秀亮さんを迎えた。パフォーミング・アーツ・グループも宇宙冒險に出かける子ども役として出演した。プロのゲストが参加したことで全体の流れもテンポよくスムーズであった。

3) 講座・クラブ

(エ) サウンド・オブ・シザース（切り絵）

1期15人、2期12人、3期9人の受講であった。1期にはアートパル'89のための切り絵の作品を作成。2期には成井俊美さんを講師として招き、着色したボンドを絵の上に重ねていく立体的な作品や、ハロウィーンをテーマにした大きな作品を全員で作った。また、クリスマスの時期には手のひら大の星形の台紙に切り絵で絵を作り、大きな紙製のツリーに張り付けて城の入り口に展示した。3期には化粧用のパフ、ボタンやビーズ、布や毛糸を持ち寄って針に取り組んでパフ人形を作った。このパフ人形は来年度企画されているアートパル'90のときにニューヨークに送られる予定。

(イ) パフォーミング・アーツ・グループ

1期36人、2期30人、3期20人が受講。1期はスペース・アドベンチャーの練習・出演、アートパル'89に送る作品作り、ビデオ作り、子どもデパート出店準備とめまぐるしく過ぎていった。2期にはオーストラリアからJanis Claxtonさんをダンスの講師に迎え、基本的なダンスから子どもたち自身でダンスを創造し表現するまでを繰り返し練習。12月のエンジェル・クリスマスの中でこのオリジナルダンスを披露した。3期には発声練習、英語の歌の練習、寸劇の練習などを繰り返し、2年度に向けての基礎づくりをした。

1) 業務の概要

業種	店名等	場所	利用客席数等	開業日・開業時間等	備考
ホテル	子どもの城ホテル	6, 7階	客室数 27 客室定員 64	無休(12月29日から1月2日までを除く)	洋室 24室(シングル3, ツイン10, デラックスツイン11) 和室 3室(4人用1, 5人用1, 10人用1) 料金 1泊6,300円から(税込み)
飲食関係	レストラン・ラブニール	8階	客席数 60	毎週月曜日休業 (開業時間) ランチタイム 11:30 ~14:00 ディナータイム 17:00 ~21:30	洋食全般及びパーティー等
	カフェテラス・アンファン	1階	客席数 140	無休(12月29日から1月2日までを除く) (開業時間) 7:30 ~20:30	喫茶、軽食及び弁当出し等 ホテル宿泊者の食事
	すし・ひさご	1階	カフェテラス・アンファン内	無休(12月29日から1月4日までを除く) (開業時間) 11:00 ~20:30	すし、和食及び弁当・料理の仕出し等
	コーヒーラウンジ・アミティーエ	2階	客席数 60	毎週月曜日休業 (開業時間) 11:00 ~20:00	喫茶、軽食
	劇場内・スナック	青山劇場 内地下ロビー及び 2階ロビー	立食	公演に合わせて開業 (開業時間) 開演前・幕間	同上
貸室	研修室	8~9階	客室 10 (一部通じて使用できる) 利用人員 350人ぐらいまで	無休(12月29日から1月2日までを除く) (開業時間) 9:00 ~21:00	研修及び会議等 料金 1単位時間 9,500円から(税別)

IV 各部の活動(2)

業種	店名等	場所	利用客席数等	開業日・開業時間等	備考
貸室	ギャラリー	1階アトリウム		無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 10：00 ～18：00	各種展示会及び実演等 料金 1日 30,000円 から（税別）
	フリーホール	地下1階		無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 9：00 ～21：00	自由な企画で利用 料金 1日 55,000円 から（税別）
物品販売	売店	1階アトリウム 3階ロビー —青山劇場 地下ロビー —	3か所	毎週月曜日休業（劇場ロビー売店は公演に合わせて開業） （開業時間） 開館時間と同じ	絵画、造形用品、文具、遊具、玩具、印刷出版物、電気用品、音楽用品、衣料、スポーツ用品、劇場関連用品、催事関連用品、雑貨等
	自動販売機	館内各所	飲食・乳販売 12か所 たばこ販売 7か所	無休	通常ドリンク類、牛乳類、スナック類
	酒類販売	青山劇場 地下ロビー及び2階ロビー	2か所	青山劇場公演に合わせて開業	全酒類の小売り
公衆電話		館内各所	16か所	無休	
駐車場		地下2階～地下4階	約90台（業務用車両分を含む）	無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 8：00 ～22：30	一般車両は地下駐車、バス等大形車両は1階ピロティに駐車 料金 普通車両の場合1時間410円

- 注) 1. この表は、平成2年4月1日以降の利用者サービス事業について掲げたものである。
 2. 春休み、夏休み、冬休み等の特別期間については、「こどもの城」全館の日程に合わせ休業日にも営業を行う。
 3. 劇場公演日程に合わせ、関連部門は休業日であっても休業しないで営業する。
 4. 各事業部の事業上必要なときは、当該事業に合わせて可能な限り上記場所以外でも営業を行う。

2) 業種別の状況

(ア) ホテル

営業収入は、63年度1億261万円、平成元年度1億323万円となっている。

客室がどのように利用されたかを平成元年度についてみると、客室利用率（注1）は全体で82%、客室比率（注2）では72%となっており、前年度に比べ利用効率はほぼ横ばいの状況にある。

客数比率が客室利用率に比べて低いのは、主としてツインルーム及び和室の利用人員が客室定員より少なかったためなどの理由によるものである。今後とも利用効率の向上に努めるとともに顧客に対するサービスの向上等に努力していく必要がある。

ホテル利用状況

客室種別	客室利用率	客室比率
シングル	86.4%	86.4%
ツイン	83.5%	77.7%
和室	68.1%	56.1%
計	82.1%	71.7%
総利用者数	16,421人	

注) 利用率は次により算出した。

1) 研修室は(午前・午後・夜間)
の件数を358日×10室=3580
で除した。

(計)については358
日×10室×3=10740
で除した。

2) フリーホールについては件数を
358日×1室×3=1074で除し
た。

3) ギャラリーについては件数を
358日×1か所で除した。

$$(注1) \text{客室利用率} = \frac{\text{(期間中利用室延べ数)}}{\text{(期間中日数} \times 27\text{室)}} \times 100$$

$$(注2) \text{客数比率} = \frac{\text{(期間中利用客延べ人員)}}{\text{(期間中日数} \times \text{定員} 64\text{人}}} \times 100$$

(イ) レストラン・喫茶

飲食5店舗の営業成績は、こどもの城の入館者数、劇場公演及び各種会議等によって大きく左右されることになるが、営業収入でみると、前年度3億5,336万円、本年度3億6,550万円となっている。これを室料を除いた飲食収入だけで比較すると約9%強の増収となり極めて好成績を収めた。これは、近隣企業及び会議室、ホテル利用者にチラシ等の配付をしてPRに努めしたことと、各店のメニューの見直しを行い外部の一般客の利用拡販を図ったことによるものと思われる。今後も引き続き喫食メニューの改善、料金の低廉化とサービス向上を図っていく必要がある。

(ウ) 貸し室・ギャラリー・フリーホール

利用は開館以来、依然として増加傾向が続いている。売り上げ額は今年度9,200万円に達した。研修室の利用率も平均で65%近くになっており、特に午後だけでみると80%を超える、限界に近づいている。利用の内容は外部への有料貸しのほか、子どもの城の企画による催事等にも利用されている。とりわけ春、夏、冬休み、ゴールデンウイークなどの特別期間中は、研修室、ギャラリー、フリーホールのいずれも内部利用の割合が極めて高く、子どもの城の限られたスペースでの充実したプログラムづくりに寄与している。

研修室等利用状況

項目	区分	年 計					
		有料利用		内部利用		計	
		件数	利用率	件数	利用率	件数	利用率
研修室	午 前	1,947	54.3%	285	7.9%	2,232	62.3%
	午 後	2,535	70.8%	345	9.6%	2,889	80.6%
	夜 間	1,631	45.5%	203	5.6%	1,834	51.2%
	計	6,113	56.9%	970	7.8%	6,955	64.7%
フリーホール		14	1.3%	518	48.2%	532	49.5%
ギャラリー		50日	13.9%	263日	73.4%	313日	87.4%

(エ) その他の業務

売店、自動販売機による販売、駐車場の提供、館内公衆電話の管理等については、前年度に引き続き「子どもの城」事業活動に即応する形で利用者サービス事業の一環として実施している。これらの収入の状況は、63年度1億5,611万円、本年度1億4,214万円となっている。「子どもの城」の利用を促進していくうえで、これらの利用者サービス事業はいずれも欠くことのできないものなので、引き続き多様な利用者需要に合わせたサービスの向上を図っていく必要がある。

フリーホール使用一覧

催 事 名	期 間	主 催	備 考
人形劇	1.5.3~5.7	子どもの城 プレイ事業部	
お話し広場	1.7.25~7.31	子どもの城 企画部	
人形劇フェスティバル	1.8.11~8.15	子どもの城 プレイ事業部	
ガヤ研ミステリーハウス	1.8.19~8.23	子どもの城 研修教養部	
エンジョイレク広場	1.8.24~8.31	子どもの城 研修教養部	
人形劇フェスティバル	1.11.3~11.5	子どもの城 プレイ事業部	

4 営業

催事名	期間	主催	備考
人形劇フェスティバル	1.12.23~2.12.27	こどもの城 プレイ事業部	
お正月の遊び大集合	2.1.4~1.15	こどもの城企画部	
アニメフェスティバル	2.3.3	日本アニメフェスティバル実行委員会	貸しスペース
第1回国際ジュニアデザインコンペティション	2.3.25~4.2	日本産業デザイン振興会、美育文化協会	協力

ギャラリー使用一覧

催事名	期間	主催	備考
木と造形 (ギャラリーワークショップ)	1.3.18~4.9	こどもの城造形事業部	
第13回全国はり絵展	1.4.15~4.20	日本情操教育振興会	貸しスペース
アートスケープ (インターナショナルスクールの生徒の作品展)	1.4.22~5.7	インターナショナルスクール8校	
遊びと造形発想展	1.5.16~6.4	こどもの城造形事業部	
ボールはばくらの友達だ	1.6.15~7.2	こどもの城企画部	
光の造形展	1.7.20~8.31	こどもの城造形事業部	
MOA児童画作品展	1.9.8~9.10	MOA大森センター	貸しスペース
'89日本絵本造形学院制作展 「真昼の月展」	1.9.19~9.24	日本絵本造形専門学院	貸しスペース
美しさを表現するスポーツ新体操	1.9.26~10.12	こどもの城体育事業部	
豊かな遊びをひろげるおもちゃ展	1.10.17~10.22	おもちゃ図書館財団 こどもの城	共催
第3回造形スタジオ展	1.11.1~11.30	こどもの城造形事業部	
肢体不自由児・者の美術展	1.12.5~12.10	日本肢体不自由児協会	
お正月の遊び大集合	1.12.25~2.1.15	こどもの城企画部	
富士山グランプリ展	2.1.30~2.4	こどもの城造形事業部	貸しスペース
いけばなNOW	2.2.14~2.18	小原流東京支部青年部	貸しスペース
第37回文部大臣賞 全国小中学生優秀作品展	2.3.3~3.11	児童憲章愛の会	協賛
木と造形 (ギャラリーワークショップ)	2.3.24~4.8	こどもの城造形事業部	
マックローおもちゃ図書館	毎週水曜日	おもちゃ図書館財団	共催

営業許可等の状況

業種	店名等	営業許可を受けた日	営業許可番号	行政庁	備考
旅館業	子どもの城ホテル	昭60.10.30	60濫保衛環旅 第 10 号	渋谷区保健所	表示基準適合(渋谷消防署) 昭62.10.1 濫予762号
飲食業 (飲食店)	レストラン・ラブニール	昭60.10.22	60濫保衛食ほ 第 1552 号	同上	
同上	カフェテラス・アンファン	昭63.11.12	63濫保衛食ほ 第 2307 号	同上	
同上	コーヒーラウンジ・アミティーエ	昭60.10.22	60濫保衛食ほ 第 1554 号	同上	
同上	劇場スナック	昭60.10.22	60濫保衛食ほ 第 1553 号	同上	
同上	自動販売機	昭60.10.31	60濫保衛食ほ 第2072~5号	同上	
(喫茶店)	同上	昭60.11.20	60濫保衛食ほ 第2308~9号	同上	
同上	同上	昭60.11.30	60濫保衛食ほ 第 2310 号	同上	
乳類販売	同上	昭60.11.20	60濫保衛食ほ 第 2311 号	同上	
食料品販売	同上	昭61.4.28	60濫保衛食れ 第 20, 21 号	同上	
乳類販売	同上	昭63.2.6	63濫保衛食ほ 第 2816 号	同上	
たばこ小売		昭60.9.30		大蔵省 関東財務局	
酒類販売	劇場ロビー	昭62.3.9	濫間第200号	渋谷税務署	

注)期間が定められている許可等については、当該期間満了後更新手続きをとっている。

V その他の活動

- | | | | |
|---|--------------|-------|-----|
| 1 | こどもの城全国連絡協議会 | | 169 |
| 2 | チャリティー事業 | | 172 |
| 3 | こどもの城友の会 | | 173 |

子どもの城全国連絡協議会

1 連絡協議会

本協議会は全国の児童の健全育成に資することを目的とし、会員相互の提携により、全国の児童センター・児童館等児童厚生施設の活動の進展を図るため次の事業を行った。

1) 事業実施状況

(ア) 情報交換・資料提供

(1) 機関誌の発行

全国の児童館等へ年4回(6・9・12・3月)
4,000部余を送付し、「子どもの城」各部門の活動
状況の周知に努めた。

(2) 情報交換・資料提供等の協力援助

①「子どもの城」の情報

全国の児童館等へ、「子どもの城ニュース」を年6回(4・6・9・10・12・3月)4,000
部余と、「昭和63年度子どもの城事業年報」を送付し、各地域の児童館活動の参考に供した。

②地域児童館等の情報

次の資料を全国の児童館等へ送付し、各館の活動の振興に供した。

- ・児童館等の活動実践集(東京都児童会館発行)
- ・インドア・キャンプの記録(子どもの城発行)

1. 会員数

区分	入会	未入会
県(指定都市)	51件	6件
団体	6	
計	57	6

(イ) 児童文化・芸能等の活動

(1) 子どもの城・おまつり劇場を開催(青山円形劇場)

子どもの城三味線グループ・和太鼓グループ等の子どもたちが全日本郷土芸能協会等の協力を得て、「花のお江戸は夏まつり」を開催し江戸の昔から伝わるわらべうたや、遊びの伝統芸能を楽しく紹介、東京・八王子市上川町の小・中・高校生24人による「今熊山の獅子舞」も披露された。

実施期間…………8月17～20日(4日間、12公演)

入場人員…………約3,000人

(2) こども卓球大会(子どもの城)

東京ブロック(東京都、子どもの城)の児童館活動に参加する小・中学生たちによる卓球大会を開催し、子どもたちの交流を深め、児童館活動の活性化を図った。

実施期間…………8月18～19日(2日間)

入場人員…………43チーム、約300人

V その他の活動

(3) ブルーノ・ムナーリ展（兵庫県立子どもの館）

兵庫県立子どもの館開館行事の一環として、子どもの城が所有している資料によって「ブルーノ・ムナーリ展」の開催に協力し、子どもの造形を考える機会を広く県民に提供した。

主催……………兵庫県立子どもの館

展示期間……………7月27日～8月31日（36日間）

（注）ブルーノ・ムナーリ氏はイタリアの著名な芸術家で、造形指導の分野で先駆的な業績をあげている。昭和60年11月、子どもの城開館記念事業「ブルーノ・ムナーリ展」に来日した。

(4) 児童厚生員等の研修・現任訓練

平成元年5月及び11月に、各2泊3日の日程で、「子どもの心を引きこむ遊びーその実技と展開法」についての実技指導講習会を開催し、たいへん好評であった。

児童厚生員等実技指導講習会プログラム

名 称	時 期	講 習 内 容
児童厚生員等実技指導講習会 （第1回）	5月 19日（金） ～ 21日（日）	子ども遊びの実践的な指導力の養成に焦点を合わせ、子ども文化としての遊び・リズム・音楽遊び等を中心に指導力を高める講習。 (参加者16都府県、42人)
同上 （第2回）	11月 24日（金） ～ 26日（日）	子ども遊びの実践的な指導力の養成に焦点を合わせ、多様な遊びに子どもたちが自発的にかかわるようにするための指導力を高める講習。 (参加者23都道府県、61人)

2) 総会・幹事会等

平成2年3月1日午前（幹事会）・午後（総会）をそれぞれ開催し、本協議会の事業・予算・決算について審議決定した。

なお、各都道府県（指定都市）児童福祉主管課・児童館連絡協議会及び関係団体等の本会入会状況及び役員は次ページの表のとおりである（平成2年3月末現在）。

1 連絡協議会

2. こどもの城全国連絡協議会役員

区分	氏名	選出ブロック	所属する会員組織の役職名	勤務先
会長	小島 弘沖	こどもの城	日本児童手当協会理事長	財団法人 日本児童手当協会
副会長	柿崎 茂樹	東京	東京都公立児童厚生施設 連絡協議会長	東京都児童会館
副会長	濱上 征士	近畿	大阪府福祉部児童福祉課長	大阪府福祉部児童福祉課
幹事	佐々木光男	北海道	北海道児童館連絡協議会長	釧路市福祉部児童家庭課
幹事	佐野 のぶ	東北	宮城県市町村児童館連絡協議会長	黒松児童館 高森児童センター
幹事	岩本 憲道	中国・四国	広島県児童館連絡協議会長	くるみ園
幹事	久々山義人	九州	熊本県児童館連絡協議会長	本渡市市役所
幹事	田代 實	こどもの城	日本児童手当協会常務理事	財団法人 日本児童手当協会
会計事	原 弘孜	関東	神奈川県公立青少年育成施設 連絡協議会長	神奈川県立 青少年センター
会計事	稲垣 元保	中部	愛知県児童館連絡協議会長	知立市福祉センター

(注) 役員の任期は、平成3年3月(定期総会時)までとします。

3) 会計

こどもの城全国連絡協議会会計を設け、会費及び日本児童手当協会助成金を原資として、前記の業務に関する経理を次のとおり施行した。

平成元年度収支計算書

(支出の部)

科 目	元年度	備 考
役員会・総会費	(円) 443,426	収支差額 528
業務諸費用	927	円は次年度繰越金とする。
機関誌発行費	2,021,132	
協力援助費	3,088,794	
計	5,554,279	

(収入の部)

科 目	元年度	備 考
繰越金収入	(円) 96	
会費収入	285,000	会費は1会員年5,000円とする。
日本児童手当協会助成金収入	5,265,000	
雑 収 入	4,711	
計	5,554,807	

2 チャリティー事業

V その他の活動

養護施設などから 1,469人を劇場招待

チャリティー事業は、前年度に続き青山劇場、青山円形劇場の観劇招待を中心に、館内見学及び夏休み、クリスマスなどの特別企画の招待など幅広い活動を進めた。

本年度中の青山劇場、青山円形劇場におけるチャリティー観劇は養護施設などの児童等を対象に延べ34回、1,469人を招待した。内訳は、養護施設などの児童23か所、589人、母子寮の母子12か所、274人、障害児・者グループ6か所、70人、児童相談センター等の一時保護児童134人、そのほかホームヘルパー、ボランティアなど402人となっている。

チャリティー事業による観劇招待一覧

実施月日	実施回数	実施場所	実施演目	参加実人員	対象者
1年4月29日～30日	4回	青山円形劇場	ポッコリの遠足	(人) 128	養護施設等の児童・母子寮の母子・児童相談センターの児童
1年6月2日～3日	2回	青山劇場	オペラクリエーション・イン・青山 「サルタン王の物語」	195	母子寮の母子・社協のボランティア・都立児童会館などの児童
1年8月1日～4日	3回	青山円形劇場	キリン民話劇場 「浮かぶ島」	44	養護施設等の児童・母子寮入寮の母子
1年8月7日～9日	3回	"	劇団ひまわり 「魔法をかけられた王子たち」	88	養護施設等の児童・母子寮入寮の母子・児童相談センターの児童
1年8月20日～25日	4回	青山劇場	ミュージカル(日本TV) 「アニー」	230	肢体不自由児施設の児童・在宅の障害児・者・養護施設等の児童・母子寮の母子
1年11月1日～3日	3回	青山円形劇場	ファミリー狂言 「附子・蝸牛」	50	母子寮の母子・社協のボランティア
1年12月4日～5日	4回	"	日中合作皮影戲 「西遊記」	396	養護施設等の児童・母子寮の母子・児童相談センターの児童・社協のボランティア
1年12月16日～17日	4回	"	エンジェル・クリスマス	32	養護学校の児童・保育所の児童
2年1月4日～5日	4回	"	冬休みチャリティー公演 「おとぎの国のメルヘン通り」	201	養護施設等の児童・母子寮の母子・児童相談センターの児童・社協のボランティア
2年1月13日～14日	2回	"	新春ファミリー・コンサート 「五線譜の中の動物たち」	85	"
2年2月10日	1回	青山劇場	ミュージカル「ハンス」	20	障害者施設の入所者
計	11件	34回		1,469	

劇場サービスを充実、会員は約4,000家族に

こどもの城を多くの人に理解してもらい、その支援の輪を広げるとともに、こどもの城の利用の促進を図ることを目的として「こどもの城友の会」が設けられている。

この会は、ファミリーで「こどもの城」とのつながりを持ち、利用してもらうことを願って入会を家族単位にしたところに特色がある。

会員数（家族数）は2年3月末現在で3,931家族に達し、前年度に比べ、173家族の増加となった。

会員は年単位（1年または3年）で加入するが、今年度の場合は新規加入が1,423家族、これに対して期間が満了しても継続しないケースは、1,250家族であった。新規加入の増加を図る一方、友の会の特典内容の充実などによって継続家族を増やすことにも努めたい。

会員に対する特典、サービスでは、青山劇場及び青山円形劇場の優待が11公演、優先予約のみが3公演、特別案内が6公演。隔月刊のこどもの城ニュース、講座・クラブの各期の案内ほか、各事業部の活動内容のお知らせなども優先的に発送した。

なお、平成元年度中は会則（制度）の改正はなかったが、平成2年度の保育研究開発部の活動内容の改善に伴い、会則の一部を改正した。

（会則の一部改正要旨）

特典のうち「こどもの城が行う保育クラブは、友の会会員であることを前提としています。」を全文削除し、平成2年度からは友の会会員以外からも広く保育クラブの会員を公募できることとした。

こどもの城友の会の概要（平成元年度）

- 1 入会資格 特別の資格なし。入会は家族単位
- 2 入会金 家族単位で1,500円（消費税は加算）
- 3 会費 家族単位で年2,000円（入会した月の応答月まで有効）（消費税加算）。
3年分一括納入可能（3年分の額の10%割引）
- 4 特典
 - (1) 「こどもの城ニュース」（隔月刊）の送付
 - (2) こどもの城の講座・クラブの登録料の20%割引
 - (3) こどもの城の入館招待券を1年につき5枚進呈
 - (4) こどもの城の劇場での優待または前売り優待予約
(こどもの城が指定する公演、日時)
 - (5) こどもの城の催しに特別案内、優待
 - (6) こどもの城が行う保育クラブへ入会できるのは友の会の会員のみ
 - (7) こどもの城の売店での買物の際に5%の割引
- (注) 特典の(6)は、平成2年度から削除された。

V その他の活動

こどもの城友の会会員地区別分布

平2. 3. 31現在

区分	東京都				埼玉県 市町村 計	神奈川県	千葉県	その他	不明	合計						
	特別区			市町村 計												
	渋谷区	港区	その他													
家族数(世帯)	418	390	1,903	243	2,954	177	475	183	128	14	3,931					
人 数 (人)	1,604	1,481	7,082	892	11,059	669	1,786	705	470	51	14,740					

注) (1) 「その他」の道府県別内訳(家族数)

北海道 3, 秋田県 1, 岩手県 2, 山形県 1, 宮城県 2, 福島県 4, 新潟県 3
 栃木県 11, 群馬県 9, 茨城県 35, 山梨県 3, 長野県 5, 富山県 1, 石川県 1
 岐阜県 2, 静岡県 18, 愛知県 2, 三重県 2, 京都府 4, 大阪府 6, 兵庫県 3
 島根県 1, 広島県 2, 高知県 1, 福岡県 3, 大分県 1, 宮崎県 1, 鹿児島県 1

(2) 「家族数」の「神奈川県」のうち川崎市は151, 横浜市235。

(3) 「人数」は家族構成員(登録された人)の数である。

こどもの城事業年報 平成元年度

平成 2 年 11 月 1 日発行

財団法人 日本児童手当協会

理 事 長 小島 弘仲

〒 150 東京都渋谷区神宮前 5-53-1

電話 03 (797) 5666

印刷所 ヨンダ印刷両国工場